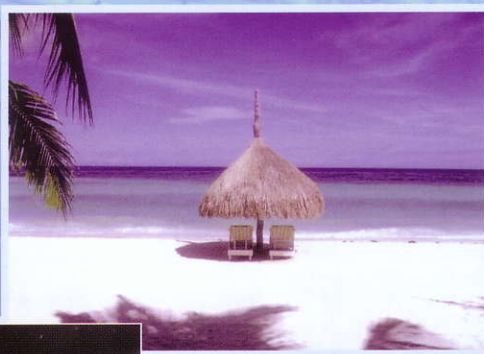


特定非営利活動法人

VOL.37

# 南国暮らしの会

2007年 夏季号



平成19年8月4日



NPO法人 南国暮らしの会

# 南国暮らしの会

会報2007年夏季号

## 目次

(敬称略)

ページ

### 平成19年度総会報告

南国暮らしの会平成19年度総会のご報告とご挨拶	No. 163	宮崎 哲郎	1
平成19年度通常総会議事録			3
平成19年度事業計画書			4
平成19年度会計収支予算書			5
平成18年度事業報告書			6
平成18年度会計収支計算書			10
監査報告書			11
平成18年度会計貸借対照表			11
平成19年度役員業務分担表			12
平成19年度支部長会報告			13

### 関西支部・甲信越支部特集

高知巡回例会報告	No. 739	若原 里美	14
中国・雲南の旅	No. 558	伊沢 豊	16
世界最高地点を走る青蔵鉄道	No. 957	谷澤 誠一	19
ニュージーランドの田舎生活	No. 909	鈴木 通弘	22
南米旅行記	No. 591	神原 克收	26
渡り鳥生活5年を経過して	No. 96	宮沢 英光 幸子	31
地方からの提言	No. 465	橋本 慧	32

### 一般投稿

福建省客家土楼を訪ねて	No. 512	金子 良三	34
ミャンマー短期旅行	No1092	久野 允義	36
第17回 シムログの祭り(セブ)を見学して	No. 3	池田 徳三郎	39
海南島視察旅行日記	No. 434	大野 悦子	42
コタキナバル滞在情報(医療編)	No1134	亀山 京子	46
「平澤 信 世界を旅する」モロッコ編(その四)	No. 40	平澤 信	49

### お役立ち情報

チェンマイ近郊観光	非会員	KKトラベル ジョン	55
ペナン島の観光スポット	No1012	木村 まゆみ	55
バギオからの周辺観光案内	No. 227	斎木 一	57
タイ・マレーシア・フィリピン3国の物価比較	No. 465	橋本 慧	59
マレーシアマイセカンドホームプログラムの改定と最新情報	No. 495	石原 彰太郎	60

投稿写真コーナー			61
支部便り			62
寄付お礼			65
友好団体紹介コーナー			66
部会伝言板			67
編集後記			68



# 南国暮らしの会平成19年度総会のご報告とご挨拶

南国暮らしの会 理事長 No.163 宮崎 哲郎

## 1) ご挨拶

当「南の会」の総会はこの1年間に皆さんと共に理事会がよりよき会を作り上げる為に、それぞれの状況に応じ実行してきた中で最重要な事項（事業報告・決算等）をご報告し、これから一年間の計画と予算のことをお諮りする場として行われます。

昨年の総会は、除名問題があり残念ながら大変混乱した総会でした。今年の総会はお陰様で会の理念である「海外でロングステイを楽しみ、楽しい仲間作りをする」に邁進出来る決議が静かに粛々に行われました。

当会はNPO法人認証後すでに8年目を迎え、色々な経験とNPO法人ならではの苦悩も味わって参りました。そして会員も着実に増えております。それに伴い会員間にも温度差が生じております。このような状況を把握しながら、本部並びに各地のお世話役の皆さんは、会員のためボランティア精神を發揮して日夜努力しております。

そして昨年、いよいよ新入会員は「団塊の世代」の方々が会員のメジャーポジションを占める状況となって参りましたので、これに対応した会運営が要求されております。

また昨今、ご承知の如く円安という逆風が、我々の目的地が多い東南アジア・オセアニアにおいても吹き荒れております。これが一時的なことから長期的なものかその方向を見据える必要があり、会及び個人の方向・在り方などを場合によって根本的に検討しなければならない時期となるかも知れません。

そこで、南の会のネットワークを使い各国の情報を集め、リンクさせその対処

を有効なものとする活動も必要になると思います。

今年も会の理念「楽しい南国生活」のためお互い頑張っていきたいと思っております。

## 2) 総会報告

1. 総会での18年度決算・事業報告・監査報告および19年度事業計画案・予算案等は別紙会報記載のご報告の通りです。

記載通り、昨年は後述の期中修正案以外ほぼ計画したとおりの収支でその予算作りと会員数予測も適正であったと判断されます。

2. 18年度予算の期中修正項目について

今総会ですでに何度かご報告している会員除名によって起こされた裁判に関連し費用が発生しました。それが期の半ばに起こりまし



たので、会期中での予算修正が必要となりました。

このため裁判関連費用の項目を新設し、事後承認が必要のため皆さんに承認を求め、賛成多数でご承認を頂きました。

詳細は別紙会計収支計算書収入の部（事業拡張準備金繰入）及び支出の部（裁判関連費用）の各項目をご参照下さい。

### 3. 裁判の件

すでに会報等でこの件はご報告しておりますが、改めて簡単にご説明致します。

経緯： 元理事2名及び同調者がこの2～3年間同じく元理事の個人的なセクハラと称する問題その他を追及し、個人間の争いを理事会に持ち込み会全体の問題としました。この問題処理の仕方をめぐり理事会、理事を中傷・非難・名誉毀損的行為を執拗に繰り返したため、18年度総会においてこの2名の方の除名決議案を提議、会員総意として承認されました。これを不服とした除名会員側より東京地裁に名誉毀損の訴訟を起こしました。これが大まかな経緯です。

訴訟内容： 原告側の訴状は（1）名誉毀損・損害賠償 （2）原告除名取消 （3）会の謝罪文会報記載要求、以上の3点です。被告は「南の会」その他となっております。

これに対処するため、弁護士に依頼しております。この費用が期中修正のための金額です。大変不本意な事柄ですが会員の方々にご迷惑をお掛けしない様総務中心にスタッフを揃えこれに対処し頑張っております。

以上本裁判の経緯・対応等ご説明いたしましたが、何卒皆様のご理解、ご了承を賜りたくお願い申し上げます。

### 4. 理事退任と新任

理事退任：平賀理事、菊池範夫理事、染谷理事が退任されました。各氏の任期中のお世話役に大変感謝申し上げます。

新任 No.900 島林 健二氏、No.999 中山 恒夫氏、No.1089 浅山 簇治氏の3名の方が新理事として信任されました。各氏の新しい力を会の発展に寄与頂ける様に期待いたします。新任の方々の会員番号がすでに1000番前後と大変新しくなり、世代交代を感じます。

以上簡単ですが、19年度のスタートに際してご挨拶と致します。

会員の方々のご健勝を心からお祈り申し上げます。



## 特定非営利活動法人 南国らしの会 平成 19 年度通常総会議事録

日 時 : 平成 19 年 5 月 19 日(土) 10 時 00 分 ~ 11 時 45 分

場 所 : 東京都大崎労政事務所・南部労政会館

出席者 : 339 名(うち委任状 287 名)

司会の菊地副理事長は、今総会の表決権利者が 577 名であることから本日の通常総会が成立することを説明し、本法人定款第 25 条の規定により議長として会員伊澤豊氏(顧問)を推薦し、満場一致で議長に選ばれた。

議長は開会を宣言し、議案の審議に入った。

### 議 案

#### 第一号議案 平成 18 年度決算報告・事業報告・監査報告について

平成 18 年度予算の期中修正報告

宮崎理事長が、当会が昨年 9 月前会員から東京地方裁判所に提訴されたため急遽理事会で裁判関連費用として事業拡張準備金から 700,000 円を繰入れる予算修正を決議した経緯を説明し、定款第 47 条の規定により総会での事後承認を求めた。出席者より内容に異議は無いが手続き上に問題ありとして、反対の意見陳述があった。議長は本予算の修正事項について賛否を諮り、賛成 330、反対 1、棄権 8 にて承認された。

平成 18 年度決算報告・事業報告・監査報告

宮崎理事長、次いで染谷理事が同年度の会計収支計算書・会計貸借対照表・財産目録に基き詳細な決算報告を行い、次いで菊地副理事長が事業報告書に基き詳細な事業報告を行った。続いて鈴木監事から、当会は同定款等に基き適切に運営され、収支計算書等はいずれも正確である旨の報告が監査報告書に基き行われた。出席者より会員動向に記載の会員数と今総会の表決権利者数との関連等につき質問があり、会員担当理事から詳細説明があった。議長は同決算報告等について賛否を諮り、賛成 332、棄権 7 にて承認された。

#### 第二号議案 新理事の信任について

宮崎理事長から、今期、菊地範夫、平賀國廣、染谷克義の 3 理事の辞任表明に伴い、下記 3 氏の理事就任を理事会で承認した経緯の説明がなされた。議長は理事会で選任された 3 名の新任理事の信任についてその賛否を諮り、賛成 336、反対 3 で信任された。

新任理事 : 島林健二 中山恒夫 浅山簇治

#### 第三号議案 平成 19 年度事業計画・予算について

菊地副理事長が平成 19 年度の事業計画書案および会計収支予算書案に基き詳細な説明を行った。出席者からインターネット及びメールを全く使用していない会員の為の各種行事予定連絡方法についての質問があり、関東支部長兼任理事から連絡方法の説明があった。議長は同予算案等について賛否を諮り、賛成 333、反対 6 にて承認された、

議長は本日の総会における議案の総てが終了したことを告げ、総会議事録署名人に金子良三監事を指名し、諮ったところ、同氏が選任された。議長は議事の進行に関し出席者の協力を謝し、閉会を宣した。

平成 19 年 5 月 19 日

議事録署名人

議 長 伊澤 豊 印

出席者 金子 良三 印

## 平成19年度事業計画書

(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

### 1. 事業の方針

- \* 会報の発行・発送事業を継続し、内容の更なる充実と迅速なる発送を目指す。
- \* 会報の電子化(PDF化)を推進する。
- \* 当会への入会問い合わせ者への迅速なる対応を計ると共に、会員のレベル低下防止を計る。
- \* 発行した「南国暮らし便利帳・医療編」の縮小化を図る。
- \* HP(ホームページ)の再構築と充実化を推進する。地方の人材の活用を計る。
- \* ML(メーリングリスト)の健全な普及啓蒙を目指す。
- \* 支部の組織化、計画的活動の更なる充実、本部との連携の強化を目指す。
- \* サロン会を軸に、情報交換会、講演会、支部会、会企画の国内外旅行会、介護施設見学会などを開催し、会員相互の研鑽と親睦を深める。
- \* 料理教室・英会話教室・パソコン教室・ウクレレ教室・手品教室等の教室活動を発展させ、会員の生活のレベルアップと親睦を計る。パソコン教室によりパソコンの一層の普及を目指す。
- \* 海外支部の充実・新設を計る。
- \* NPO法人活動の両輪のもう一つ「不特定かつ多数の人々の利益の増進に寄与する活動」を推進する。即ち、一般の人々を対象とした有料セミナーを支部ベースを含め、計画実施する。
- \* わが国の退職者等を歓迎する国々の情報を引き続き収集・調査する。
- \* これから主流となる団塊世代会員の意識調査と会としての対応策などの検討を継続する。
- \* 会の運営方法として委員会方式をより多く取り入れ、理事数の妥当性を検討する。
- \* 家族会員の位置づけと有料化を検討する。

### 2. 事業の実施に関する事項

#### (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施予定	実施予定場所・内容	備考
会報作成	会報発行(新年・春・夏・秋)	年4回	写真数とページ数のアップ。会報のPDF化試験	会報委員会 編集補助の強化
会報発送	会報・同封資料の発送	年4回	正確な梱包発送作業と海外発送の迅速化	会報委員会 発送作業の合理化
資料等製作	問合せ・入会者への資料作成送付	随時	約500件/年 事務処理費用の合理化	会員担当
報告書等製作	会報同封資料の作成	年4回	会員名簿等の作成	会員担当
	海外暮らし便利帳・医療編の改訂準備	一年掛ける	内容の簡略化	医療介護調査委員会
広報活動	对外情報の一括管理 新HPのメンテナンス MLの管理	常時	- 新HPの合理的運用 MLの適正な運用	広報委員会 HP委員会 ML委員会
支部活動支援	国内7支部・海外10支部に補助金等支給	随時	各支部との交流促進 海外支部の支援強化 GC支部発足予定	支部推進委員会 GC=ゴールド・コースト
	支部単位でサロン会・趣味の会等実施	随時	会員の活力アップ 適時人事交流 パソコン教室の拡大	支部推進委員会 支部役員
社会貢献	一般を対象にセミナー開催		啓蒙活動	調査担当 国内支部役員
	LS地への寄付活動	随時	LS地への返礼	調査担当
通常総会	総会開催	1回/年	東京	総務部
理事会・役員会	理事会の開催 役員会の開催	8回/年 1回/年	東京	他に各種委員会

#### (2) 収益事業：なし

**平成19年度特定非営利活動に係わる会計収支予算書**

- 平成19年4月1日から平成20年3月31日まで -

特定非営利活動法人 南国暮らしの会

(単位:円)

科 目	前年度 予算額 (A)	本年度 予算額 (B)	差 異 (B - A)	摘 要
<b>. 収入の部</b>				
1) 入会金収入	1,030,000	775,000	255,000	入会金:5,000円, 想定新規入会者数:155名(前年実績並みと想定)
2) 会費収入	3,550,000	3,750,000	200,000	会費:5,000円, 想定継続会員数:595名(継続率:88%)
3) 資料売収入	350,000	205,000	145,000	想定有料資料請求者数:205名
4) 寄付金収入	100,000	80,000	20,000	
5) 基本金等利息収入	100	100	0	
6) 雑 収 入	15,000	10,000	5,000	有料名刺作成料
7) 事業拡張準備金より繰入れ	*700,000	400,000	300,000	*裁判発生のため急遽期中繰入れ
<b>1. 当期収入合計</b>	<b>5,745,100</b>	<b>5,220,100</b>	<b>525,000</b>	
<b>2. 前期繰越</b>	<b>323,639</b>	<b>222,103</b>	<b>101,536</b>	前年度決算での繰越額
<b>3. 収入合計</b>	<b>6,068,739</b>	<b>5,442,203</b>	<b>626,536</b>	<b>1. + 2.</b>
<b>. 支出の部</b>				
1) 事業費	4,051,000	3,429,000	622,000	
会報等事業費	1,232,000	1,336,000	104,000	掲載写真数・ページ数のアップ
会報等送料費	512,000	448,000	64,000	発送作業合理化
資料等製作事業費	440,000	216,000	224,000	事務処理合理化
報告書等製作事業費	161,000	118,000	43,000	会員証発行なし・新規項目なし
案内書製作事業費	400,000	0	400,000	「必携」・「入会案内」増刷なし
広報活動事業費	242,000	250,000	8,000	会員を主体としたHPの運営
講師等謝礼費	75,000	75,000	0	
支部関係事業費	779,000	826,000	47,000	ゴールドコースト支部設立を想定
社会貢献事業費	210,000	160,000	50,000	セミナー開催・寄付金設定額変更
2) 管理費	1,711,000	1,692,000	19,000	
事務用消耗品費	131,000	110,000	21,000	実績スライド
諸会・交通補助費	678,000	750,000	72,000	実績スライド
内外通信費	50,000	74,000	24,000	実績スライド
雑費	132,000	81,000	51,000	実績スライド
その他契約料	20,000	77,000	57,000	インターネット・バンキング採用 書類の有料保管
裁判関連費用	*700,000	600,000	100,000	*裁判発生のため管理費内に項目新設
3) 予備費	50,000	50,000	0	
<b>4. 当期支出合計</b>	<b>5,812,000</b>	<b>5,171,000</b>	<b>641,000</b>	<b>1) + 2) + 3)</b>
<b>5. 当期収支差額</b>	<b>66,900</b>	<b>49,100</b>	<b>116,000</b>	<b>1. - 4.</b>
<b>6. 次期繰越収支差額</b>	<b>256,739</b>	<b>271,203</b>	<b>130,464</b>	<b>3. - 4.</b>

注1. 会員数合計750名を想定しており、この増減により収入・経費も大きく増減するので、期央において予算の見直しを検討し、健全な運営に努める。



# 平成 18 年度 事業報告書

(平成 18 年 4 月 1 日から平成 19 年 3 月 31 日まで)

特定非営利活動法人 南国暮らしの会

理事長 宮寺 哲郎

## 1. 事業の成果

### 1) 理事の定員

18 年度は理事定員一杯の 20 名でスタート・運営していたのですが、途中で 1 名が活動を停止され、また数名の理事が LS をされました。LS は当会の目的の一つですが、LS で不在の場合に、何らかの形で理事がお互いに業務を補完するために複数担当制にしたことが有効に利用できていないケースが見られました。委員会制に会運営の重点をシフトする必要があるかも知れません。

### 2) 国内支部活動について

18 年度も総会前日国内支部長会を実施し、各支部の現況報告、18 年度行事予定が説明され、活発な意見交換が行われました。各支部の活動はその地域特性に大きく影響されるわけですが、他の支部が具体的にどのような活動をしているかを知ることは、大変参考になると思います。特に支部単位で海外視察旅行を実施するまた休日開催のサロン会の他に定期的に平日サロン会を開催するなどの非常に活発な支部活動が展開されているのが特徴的です。いずれにしても各支部とも、支部連絡会などで支部会員の総意を出来るだけ汲み上げた活動の方向へ進んでいると確信しています。尚、会員数の約半数を占める関東支部は地域が極めて広範囲なため、全支部員を対象としたサロン会のほかに、支部を分割し地域単位での活動を計ることにしており、かなり活発な活動を展開している地域も昨年あたりから出ております。

### 3) 海外支部の動向

会員の意識が変化したのか、所謂団塊の世代の影響か、積極的に海外へ LS の視察旅行に出掛ける会員が増加しました。当会の本来の目的に沿う結構な現象だと思えます。その結果、海外支部への負荷が益々大きくなってきました。当会の最大の魅力がこの海外各支部の存在であり、ここで全国の会員同士の新たな接触が出来るということは素晴らしいことだと思います。そこで海外支部への補助金の増額等の措置を採っていますが、会組織の規模から見ても金額は僅かであり、実質的には海外支部会員個人の負担が非常に大きなものとなっています。この様なこともあり、18 年度全面改訂の「必携」に「海外べからず集」的な分りやすいものを織込みました。しかし肝心の海外渡航会員にこの意識が無ければ「空回り」となります。「こうすれば先輩の海外会員にご迷惑を掛けてしまう」という認識をどう植えつけるかが大切なところです。尚、18 年度は懸案のハワイ支部が新設されました。ゴールドコースト支部については新設の方向で準備中です。

### 4) 理事会運営に関する提訴を受けた件

本項は、成果とは言えませんが、前会員 2 名から当会等を被告として 9 月に東京地方裁判所に提訴された損害賠償請求事件の件は、当会理事には現役時代裁判に深く関わった経験者がいなかったため、理事会の承認を経て弁護士と契約し、その弁護士の指導の下に裁判を粛々と進めております。従って 18 年度予算の想定外の支出費用(弁護士契約料等)が発生するため、急遽「事業拡張準備金」から 70 万円を繰入れる予算修正措置をしました。従って定款に基き、本措置は次期総会で事後承認を受けることとなります。本件の裁判については、3 月末までに計 4 回行われ、原告・被告双方が裁判所にそれぞれの主張をしている段階であり、我々被告サイドは、裁判に勝利する信念のもと淡々と事務処理を進めているという状態です。

### 5) 気の合った仲間づくり

老後を海外で豊かにという人生設計において、金銭的な余裕も勿論大事ですが、気の合った仲間と楽しく過ごすことは、それ以上に重要な要素かも知れません。その意味でも 18 年度は前年に引き続き、会員による「料理教室」・「パソコン教室」・「ウクレレ教室」・「英会話教室」などの積極的なクラブ活動が展開され、パソコン教室が新たに数箇所開設された他に、「手品教室」等も開設されました。

### 6) インターネット関連業務の推進

18 年 1 月に立ち上げた新 HP は外部講師と技術サポート契約を締結して推進したもので、対外的な評判もよい HP でしたが、HP 委員会担当との意思の疎通がうまく行かず、結局年度末で、違う様



式に変更されました。HPの作成・修正の操作が出来る会員はどうしても限られるため、タイムリーなHPのメンテナンスには無理が生じるのが現状でした。19年度はHP委員会委員に支部会員も含めた操作が出来る委員を加えた新体制でHPを運営してゆきたい。

#### 7) インターネット利用電話・スカイプの有効利用

スカイプシステムの活用が更に拡大しました。メールを書く手間が省け、時間無制限で意見交換が出来ると言う大変大きなメリットがあり、当会の通信費削減にも寄与しています。またスカイプから一般電話へも低料金で通信できるメリットがあり、本システムはHP上にも紹介されており、多くの会員に普及することが期待されます。

#### 8) 会員証発行

前年度に初めて発行した年度期限付き会員証を、発行事務の煩雑さと、今のところ悪用される恐れは少ないとの判断から、18年度は期限なしの会員証として再発行しました。海外視察旅行での身分証としての利用、サロン会での名札としての利用等が期待されます。

#### 9) 社会貢献活動について

従来余り重点を置いてこなかった社会貢献活動(NPO法人活動として本来求められているもの)に、二つの面で、取り組み始めました。その一つは関東支部で実施した、一般の人々への啓蒙を目的とする「定年後の楽しい暮し」を紹介する有料セミナー活動です。11月3日に東京・大崎で盛大に行われました。もう一つは我々会員がLSでお世話になっている国々で災害が発生した場合の寄付金活動です。18年度は、フィリピン・ギマラス島で発生した重油流出事故で、島民が困窮していることを偶々NGO法人活動に参加されていた当会会員から知ることが出来、その後のフォローも可能なことから会として少額ですが寄付をしました。この二つの活動は、来年度も引き続き実施したいと考えています。

#### 10) 会報の電子化について

以前よりの懸案事項でした会報の電子化(PdF化)試験を始めました。全会員にパソコンが完全に普及しているわけではないので、会報の完全電子化は未だ不可能ですが、写真は全てカラー化されており、送料、収納スペースの問題も解決するので、部分的にでも実用化できないか、検討しております。

## 2. 事業の実施に関する事項

#### 1) 会報作成 / 発行

春季号(No.32)	18年05月07日発行	(42頁)
夏季号(No.33)	18年07月29日発行	(62頁)
秋季号(No.34)	18年10月21日発行	(58頁)
新年号(No.35)	19年01月21日発行	(66頁)

#### 2) 内外通信関係

##### ホームページ(HP)

ホームページ委員会は17年度に発足しました。そして18年度はHP委員の増強により制作のサポートをお願いしていた宇野、菊地両先生から独立して、会員の手作りによるHPの充実を目指す方向で進めてきました。18年度は委員長の途中交代等の問題で当初の更なる充実はどこまで出来たか疑問ですが、HP委員の増強と技術レベルアップを計ってHPの骨格に肉付けを少しは出来たのではないかと思います。来期は更にこの肉付けを進めたいと考えています。尚、期の最終日にHP画面を一新しました。

##### メーリングリスト(ML)

現在ML登録会員数は452名で昨年同時期より19名増です。登録率は68%です。MLは今では会員相互の重要な伝達手段でもあり、また情報交換の場ともなっております。未だ登録されていない方々もぜひ参加されることを希望します。一方で多くの方が参加されておりますのでお互いにMLルールを遵守し、楽しいML利用に勤めたいと思います。

本年も残念ながら一度ウィルスが入り込み皆様には大変ご迷惑をお掛けしました。数名の方に

はメールアドレスを変更していただいたりアンチウィルスソフト導入の確認をさせていただいたりしました。今後できるだけこのような事態にならないように努力したいと思います。  
 昨今パソコン教室の普及もあり、スカイプ利用者もかなり増加しており、今後個人のスカイプアドレスもMLアドレス同様、公表したほうがよい時期に来ていると考えています。いずれにせよ、お互いに研究を重ね当会のよりよい情報交換の場を作ってゆきたいと考えます。

### 3) 支部活動関係

#### 北海道支部

- 1) サロン会 4/27 5名 10/7 9名 12/16 12名
- 2) 情報交換会・懇親会 6/17 7名 32名 10/14 26名
- 3) 支部役員会 2/10 4名

#### 東北支部(報告なし)

#### 関東支部

- 1) 情報交換会・懇親会  
5/28「南の会」総会に引き続き開催 147名。
- 2) サロン会・懇親会  
4/9 70名 7/17 89名 9/18 98名 10/9 63名 11/26 44名  
12/10 62名 1/14 71名 2/11 41名 3/11 85名
- 3) 特別企画一泊バスツアー(上高地・黒姫高原) 8/27,28 30名
- 4) 支部役員会 7/14 22名

#### 甲信越支部

6/23,24 甲信越支部会を兼ねて、長野県立科町ホテルアンピエント女神湖に一泊旅行(ゲスト参加4名を含め、23名参加)

#### 東海支部

- 1) 定例会(情報交換会) 7/9 29名 10/8 29名 1/14(新年会) 39名
- 2) サロン会(情報交換会) 5/14 29名 6/11 31名 8/20 28名 9/10 29名  
11/6 33名 12/10 28名 2/11 24名 3/11 30名
- 3) 平日懇親会(情報交換会) 4/17 6名 5/22 12名 6/19 12名 7/18 14名  
8/28 16名 9/19 14名 10/16 19名 11/20 17名  
12/18 12名 11/22 8名 2/19 12名 3/19 6名
- 4) その他 トヨタ自動車見学(5/19) 16名 ゴルフ懇親会(11/10) 16名  
インドネシアフェスティバルに参加(9/3) 12名 マレーシア観光フェアに参加(10/28) 11名  
ベトナム・カンボディア視察ツアー(1/26~2/4) 12名 下呂温泉一泊バスツアー(3/25) 17名
- 5) 支部連絡総会 4/9 32名
- 6) 支部役員会 6/4 14名 7/17 14名 9/23 12名 11/12 12名 3/18 12名

#### 関西支部

- 1) 例会・懇親会(支部連絡総会 11/5を含む) 7/8 18名 11/5 25名 3/31 46名
- 2) サロン会・懇親会 10/15 24名
- 3) 下見ツアー実施 セブ(6/8~13) 5名 チェンマイ(2月) 14名
- 4) 支部役員会 10回実施

#### 九州支部

- 1) 情報交換会・懇親会 7/17 22名 11/4 37名 1/6 30名
- 2) サロン会 2/28 23名
- 3) 蕎麦打ち体験会 6/13 9名 10/30 9名
- 4) 下見ツアー実施 チェンマイ(9/30~10/10) 14名
- 5) 支部連絡総会・懇親会 4/1 26名
- 6) 支部役員会 5/20 6名 2/13 5名

#### チェンマイ支部

1) サロン会	5/24	14名	6/17	21名	7/15	17名	8/1	21名
	9/16	22名	10/21	29名	11/11	20名	12/9	54名
	1/30	31名	2/10	56名	3/10	30名		
2) ゴルフの集い	11/29	10名	12/6	8名	12/15	8名	12/27	11名
	1/3	10名	1/17	8名	1/20	5名	2/14	7名
	2/21	17名	2/25	7名	3/8	7名	3/11	8名

#### ペナン支部

1) サロン会	7/10	17名	8/10	27名	1/8	30名		
2) ゴルフの集い	5/8	8名	7/12	5名	1/22	12名	2/7	11名

#### 4) 広報活動

平成 18 年度は多くの会員の方々のご協力を頂き、11 月 3 日に初めての一般の人々を対象としたセミナーを開催しました。しかし皆さんご存知のように広報活動としてはテレビという媒体が最も効果があります。今後も積極的に取材に対応し当会の良さをアピールし多くの方々に知って頂くように努力したいと思います。また平成 19 年度は対外広報活動に加え、会員各位の事情に合わせたきめの細かい情報公開、例えば独身の方や御夫妻の方でも単独行動をされる方への情報公開・共有化も考えてゆきたいと思えます。また最近では会員同士の旅行とか、LS 下見ツアーが行われてきました。これらの活動をより広げる努力をしたいと思えます。尚、より良い南の会とするために、一般会員の方々からも会活動のアイデア・提案等を積極的に広報にお寄せいただくようお願いいたします。

### 3. 会の管理に関する事項

#### 1) 総会関係

平成 18 年 05 月 28 日、会員 338 名（うち委任状 276 名）が出席して実施。

#### 2) 理事会関係

平成 17 年度第 08 回理事会：平成 18 年 04 月 08 日、理事 15 名・監事 1 名出席。

平成 17 年度第 09 回理事会：平成 18 年 05 月 05 日、理事 20 名・監事 3 名出席。

平成 17 年度第 10 回理事会：平成 18 年 05 月 21 日、理事 20 名・監事 2 名出席。

平成 18 年度第 01 回理事会：平成 18 年 06 月 11 日、理事 14 名・監事 2 名出席。

平成 18 年度第 02 回理事会：平成 18 年 09 月 09 日、理事 15 名・監事 2 名出席。

平成 18 年度第 03 回理事会：平成 18 年 11 月 23 日、理事 12 名・監事 3 名出席。

平成 18 年度第 04 回理事会：平成 19 年 02 月 03 日、理事 14 名・監事 2 名出席。

平成 18 年度第 05 回理事会：平成 19 年 04 月 07 日、理事 18 名・監事 2 名出席。

#### 3) 役員会関係

平成 19 年 03 月 11 日、理事 17 名、監事 2 名、支部長 5 名、顧問 2 名が参加して実施。支部長・顧問の皆様から次のような積極的な報告・ご意見を戴きました。今後の会運営の参考とさせていただきます。

支部としてコタキナバル下見旅行を計画している(九州支部)。

パソコン活用の徹底化に苦勞している(東海支部)。

支部活動としてセミナー計画をしてみたい(北海道支部)。

初めての四国で定例会を開催したい(関西支部)。

LS に限定しない文化活動的なものを含んだセミナーを計画してはどうか。

LS 下見等で海外支部がある地域に見える会員は、セキュリティーの意味からも必ずその支部長に到着の連絡をするように徹底願う。

#### 4) 会員動向

平成 19 年 3 月末現在の会費納入会員数は 664 名(内 18 年 4 月以降の入会者・18 年度会員は 151 名)となっており、以上

## 平成18年度特定非営利活動に係わる会計収支計算書

(平成18年4月1日から平成19年3月31日)

特定非営利活動法人 南国暮らしの会  
(単位 円)

科目	予算額(A)	実績(B)	差異(B-A)	摘要
<b>・ 収入の部</b>				
(1) 入会金収入	1,030,000	785,000	245,000	5000円×157名
(2) 会費収入	3,550,000	3,475,000	75,000	5000円×695名
(3) 資料売収入	350,000	167,000	183,000	1000円×167名
(4) 寄付金収入	100,000	30,066	69,934	
(5) 基本金等利息収入	100	34	66	
(6) 雑収入	15,000	4,420	10,580	名刺印刷代、他
(7) 事業拡張準備金繰入	*700,000	700,000	0	裁判発生のため急遽期中繰入 (追加承認事項)
<b>1、当期収入合計</b>	<b>5,745,100</b>	<b>5,161,520</b>	<b>583,580</b>	
<b>2、前期繰越</b>	<b>323,639</b>	<b>323,639</b>	<b>0</b>	
<b>3、収入合計</b>	<b>6,068,739</b>	<b>5,485,159</b>	<b>583,580</b>	
<b>、支出の部</b>				
<b>(1) 事業費</b>	<b>4,051,000</b>	<b>3,573,492</b>	<b>477,508</b>	
会報等事業費	1,232,000	1,265,218	33,218	年4回発行
会報等送料費	512,000	458,247	53,753	年4回発行
資料等製作事業費	440,000	115,661	324,339	会報添付資料の手作業による作成
報告書等製作事業費	161,000	31,219	129,781	会員名簿作成、会員証作成費
案内書作成事業費	400,000	444,285	44,285	必携・入会案内作成
広報活動事業費	242,000	243,194	1,194	ホームページ作成ソフト購入
講師等謝礼費	75,000	85,000	10,000	
支部関係事業費	779,000	837,614	58,614	支部との交流の回数が予想より多い
社会貢献事業費	210,000	93,054	116,946	セミナー会場費節約
<b>(2) 管理費</b>	<b>1,711,000</b>	<b>1,389,564</b>	<b>321,436</b>	
事務用消耗品費	131,000	49,039	81,961	
諸会・交通補助費	678,000	525,620	152,380	
内外通信費	50,000	46,694	3,306	
雑費	132,000	140,083	8,083	理事会の会場費、資料のコピー代など
その他契約料	20,000	0	20,000	15,750雑費へ計上
裁判関連費用	*700,000	628,128	71,872	裁判発生のため管理費に項目新設
<b>(3) 予備費</b>	<b>50,000</b>	<b>0</b>	<b>50,000</b>	
<b>4、当期支出合計</b>	<b>5,812,000</b>	<b>4,963,056</b>	<b>848,944</b>	
<b>5、当期収支差額(1-4)</b>	<b>-66,900</b>	<b>198,464</b>	<b>265,364</b>	
<b>6、事業拡張準備金へ繰入</b>		<b>300,000</b>		
<b>7、次期繰越</b>	<b>256,739</b>	<b>222,103</b>	<b>34,636</b>	

上記監査の結果、いずれも正確であることを認めます。

平成19年 5月 10日

特定非営利活動法人 南国暮らしの会 監査会

監事 鈴木 剛 印

監事 金子 良三 印

監事 斉藤 彰 印



特定非営利活動法人 南国暮らしの会  
理事長 宮寄 哲郎 殿

## 監 査 報 告 書

特定非営利活動法人南国暮らしの会の平成18年度(平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)における監事監査に関し、監査の方法及びその結果について協議し本監査報告書を作成し、以下のとおり報告します。

### 1、監事の監査方法の概要

監事会は予め定めた監査の方針等に従い、理事会その他重要会議に出席し、理事会の運営、理事の業務執行、事業活動及び財産の状況を調査し、必要に応じて理事等から報告を求めました。

### 2、監査の結果

事業報告書・役員名簿・社員名簿は、法令及び定款に従い、法人の活動状況を適格かつ適性に示している事を確認しました。

計算書類(収支計算書・貸借対照表・財産目録)は、記載すべき事項を正しく示しており、正確かつ適性であることを確認しました。指摘すべき事項は見とめられません。

理事その他役員の職務遂行に関する不正行為または法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

損害賠償請求訴訟の発生に伴う関連費用は、定款47条1項により既定予算の追加手続きが適性に行われ、定款47条2項により今総会において正しく報告され承認を求められており、適性に行われていると認められます。

平成19年5月19日

特定非営利活動法人 南国暮らしの会

監事 齊藤 彰 印  
監事 鈴木 剛 印  
監事 金子 良三 印

### 平成18年度特定非営利活動に係わる会計貸借対照表

(平成19年 3月31日現在)

特定非営利活動法人 南国暮らしの会

(単位： 円)

科目	金額	
1. 資産の部		
(1) 流動資産		
現金預金	4,572,103	
未収入金	0	
流動資産合計		4,572,103
資産合計		4,572,103
2. 負債の部		
(1) 流動負債		
前受金	2,750,000	
立替金	0	
流動負債合計		2,750,000
3. 正味財産の部		
基本金		300,000
事業拡張準備金		1,300,000
次期繰越金		222,103
正味財産合計		1,822,103
負債及び正味財産合計		4,572,103

上記監査の結果、いずれも正確であることを認めます。

平成19年5月10日

特定非営利活動法人 南国暮らしの会 監査会

監事 鈴木 剛 印  
監事 金子 良三 印  
監事 齊藤 彰 印

## 平成19年度役員業務分担表

平成19年5月19日現在

### 理事業務分担

氏名欄凡例; 印; 部長 印; 副部長 ・印; 補助 a印; アドバイザー

部門担当	氏名	業務内容
理事長	163宮崎 哲郎	・会総括代表 ・総会招集 ・臨時総会招集 ・現況情報収集 ・資産の管理 ・理事(役員)会招集 ・理事(役員)会議長 ・官庁関係資料の提出
副理事長	259菊地 功 586磯崎 興志	・理事長の補佐 ・理事長の事故又は欠けた場合は理事長の職務代行
総務部会 (事務局)	259菊地 功 462小林 孝 ・434大野 悦子 ・470細田 良子	・定款、会則等改廃 ・法律問題対応 ・会日常運営案作成 ・官庁関係資料作成 ・総会、例会、懇親会、催し等の企画及び実施、同会費徴収、テーマ策定、会場 設定、運営管理、記録、発表 ・総会議事録作成 ・予算案の作成 ・理事(役員)会テーマ策定 ・理事(役員)会招集実務、会場設定、運営管理、 記録、発表 ・理事(役員)会議事録作成 ・税務関係(法人税、資産税等々)
支部推進 部会	712高田 勝弘 670今野・341平野 ・487横井a163宮崎	・国内、海外支部統括 ・支部活動支援 ・支部地域区分作業 ・支部関係規定作成
経理部会	60渡辺 義郎 434大野 悦子	・入会金、年会費徴収、一般収支、金銭出納記録、決算の事務、総会、懇親会、 催し、情報交換会等の会計処理及び会費徴収協力 ・会費納入票回送
会報部会	281村松 幸子 465橋本・60渡辺 ・732馬場・900島林	・会報等の原稿収集、編集、整理、校正、印刷、製本、発送 ・会員への情報提供及び情報収集 ・会報等の送付先の掌握及び宛先シール等作成
調査部会	327市東 明義 281村松・999中山	・賛助会員資格審査 ・ダイレクトメール等の審査 ・会員意識調査 ・外部機関からの調査依頼(アンケート等)書等の解答原案作成 ・その他
厚生部会	586磯崎 興志 470細田 良子 ・1089浅山 簇治	・対象国の医療、介護等の調査 ・リタイアビザ再調査(内容の洗い直し) ・南の国関係の居住地情報収集(関係不動産物件調査、対象国のホテル、旅行社等 の協定を会員に啓蒙) ・ツアー等の企画及び実施 ・その他
広報部会	732馬場 章介 712高田 勝弘 ・596中林 勝 a163宮崎 哲郎	・「南の会」ホームページ作成、修正、保守 ・メーリングリスト管理 ・新規会員拡張対策 ・寄付金募り啓蒙 ・他機関への投稿 ・新聞、雑誌等の関係情報収集 ・会員(出来れば全会員)へのインターネット、Eメール等の普及啓蒙
会員部会	462小林 孝 660平方 穰 ・712高田 勝弘	・会員入退会、会費等の納入チェック ・問合せ者に資料等の作成発送 ・会員名簿作成 ・南の会必携編集作成 ・会員からの情報収集 ・会員対応 ・問合せ者向け「南の会」案内書編集作成 ・会員証発行 ・体験滞在取次

### 監事業務分担

監事	22齊藤 彰 315鈴木 剛 512金子 良三	・理事の業務執行状況の監査、 ・この法人の財産の監査、 ・定款に違反する重大な事実が発見されたら総会を招集し報告または所轄庁に報告 ・理事会業務執行に対する会員の苦情等の精査
----	-------------------------------	---

### 業務についての問い合わせ

役員への業務に関する質問、問い合わせ、要望などは、ご自分の会員番号、氏名、メール・アドレスを明記の上、原則メールで下記のアドレスあてにご連絡下さい( F A X、郵送の場合の宛先は会報の奥付記載を参考にしてください)。尚、各担当役員は LS,旅行等で不在の場合があり、返事に時間がかかることがあります、予めご了承ください。

問い合わせメール・アドレス : [home@minaminokai.com](mailto:home@minaminokai.com)

## 19 年度支部長会報告

日時:平成 19 年 5 月 19 日(土) 13 時 40 分~16 時 40 分

場所:東京都大崎労政事務所・南部労政会館

出席者:関西支部松本支部長・東海支部高橋支部長・関東支部市東支部長・九州支部稲田支部長・東北支部和田支部長・甲信越支部橋本支部長・北海道支部工藤支部長・宮崎理事長・磯崎副理事長・菊地副理事長・高田理事  
今野理事・平野理事・渡辺理事・大野理事・ハワイ大黒支部長・同皆本副支部長・セブ川上支部長・酒匂相談役・村松理事

### 1)18 年度支部活動総括及び 19 年度計画の概要

北海道支部 :6/24 支部総会を含め、年 3 回の例会を計画している。去年出来なかったゴルフ大会に今年もチャレンジしたい。継続検討課題として「支部主催の有料セミナー」があり、同じ北海道でマレーシアセミナーに 600 人が参加したというニュースがあり、やり方次第では不可能ではないとの感触を得ている。尚、支部 ML に会員顔写真を掲載しており好評なので、ご参考までに。

東北支部 :地域的問題あり、現実的な支部活動は出来ていない。

甲信越支部:この 4 月から新支部長体制となった。本支部も地域的問題から行事は年一回一泊懇親会を行うこととしている。今年は新たな場所と機軸での実施を検討している。又交通事情の現状に伴う支部エリアの再編も検討している。

関東支部 :役員 22 名体制で運用している。サロン会の場所取りが難しくなっているが、会員の要望が強いので、この 7 月のサロン会も何時もとは場所を変えて実施することとした。総会で発言された、会報のみの会員への連絡方法の件、担当役員に電話で日時を尋ねていただく方法で取進めたい。各種趣味の会が活発になっている。又会員同士の 海外視察ツアーも始まった。

東海支部 :サロン会月 2 回に加え、各種見学会、視察ツアーと非常に活発な活動を行なっている。今年度はハワイ支部支部長に講演をしていただいて、会員にハワイ人気盛り上がり、こちらへの視察ツアーが期待される。支部運営の仕方の特徴として地区長(5~6 地区)を固定し、出席希望者は自分が地区長に出席を連絡する方式を取っているため、地区長にそれほど負荷が掛かっていないと思う。

関西支部 :当支部は 18 年 11 月に新執行部でスタートしており、この 5/13,14 高知・桂浜にて支部定例会を実施、本部からの 1 名参加を含め 28 名の盛会であった。当支部はエリアが非常に広いこともあり、四国担当等のエリア取纏め役を決める予定。とにかく「関西支部も元気を出そう」の認識で、役員 10 人体制で頑張っていきたい。7/7 に支部総会を予定している。

九州支部 :4 月に熊本で情報交換会を行い、鹿児島・宮崎から会員各 1 名の参加を得た。今後も毎年 1 回は熊本での開催を計画したい。元ラオス大使のラオス文化のお話が非常に印象に残った。また九大留学生を講師として招き出身国の話を伺うのは面白いと思った。4/8 支部連絡総会実施、9 月に KK ツアーを予定している。パソコン教室・英会話教室などをやりたいのだが、場所の確保が難しく実現していない。スカイプは役員間の連絡に非常に役に立っている。

#### その他の支部

\*ハワイ支部:大黒・皆本・村林の三人体制、皆本氏の事務所には常時事務員がいるので常に連絡が可能である。ハワイでの端境期 4,5 月・9,10 月に体験ツアーを計画している。

\*セブ支部 :支部に連絡なしに来て、「南の会会員」を名乗る人が居る。必ず事前連絡をお願いしたい。フィリピン観光省が宣伝している「ワールドビッグフォー(日本の不動産会社)」が展開しているカモテス島の日本人村との契約は慎重にしてほしい。表現の問題があるが、ML・会報に掲載すべきではないか。

\*ダバオ支部:平野前支部長(理事)より、現在居住会員 1 名で、支部長不在中。ダバオに視察滞在を希望される会員は、平野理事に連絡すれば、彼が[夢先案内人会]副代表に個人的に連絡を取ることが出来る。

2)支部関連予算の件 総会で承認された予算に基き本日各支部長に配布された。

3)年度末の支部からの報告事項について 下記の如く確認した(南国暮らしの会 支部細則第 11 条参照)。

a)支部収支報告書(会計報告書)の様式は問わない。必携「金銭出納帳」下記注 印 1 項は削除する。

b)支部活動報告(行事の種類ごとの開催日と参加人数のリスト)を提出する 支部細則に記載なし。

c)支部細則別紙-1 により支部行事計画と支部共通費を提出する。

#### 4)その他

a)会報委員会より:会報夏季号は関西及び甲信越支部、秋季号は東海支部特集を計画しているのでご協力下さい。海外支部については随時織り込む事にしており、今夏はセブ支部に原稿集めをしていただきたい。

b)HP 委員会について:支部 HP 委員制度を作ったので、各支部に適任者を選出していただきたい。以上  
(文責:菊地 功)

# 関西支部・甲信越支部特集

## 高知巡回例会報告

関西支部 No.739 若原 里美

今年の2月に「チェンマイこの指とまれ」視察ツアーからはじまった関西の勢い。3月例会は久しぶりに多く会員の参加者があり、関西支部は今燃えています。この炎を消すまい、もっと大きな火として拵げていこうという思いから、関西支部はじまって以来の巡回例会を高知県で5月に開催しました。

まず、どうして高知県になったかというところ、話は昨年10月の懇親会にさかのぼります。例会後、四国にも行きたいな？ そうだ、例会にしたらどうか。そうだ、そうだ、と、いとも簡単に単純な動機から四国例会は決まりました。広域な支部として、会員をまとめる手だてに苦慮していたため、逆にこの広域さをいい方向に向けようということになりました。

さあ、四国例会は決まりました。次は、高知県のどこでおこなうかです。希望は四万十川周辺、皿鉢料理、かつおのたたき、坂本龍馬です。関西周辺から高知県には近いようで遠い。車、バス、電車を使うとしたら交通の便がそこそこ良いところで、その上なるべく予算は抑えたい、宿泊パックにあるホテルは高知駅周辺、でも、現地集合・現地解散を考慮して、また、太平洋が一望に見えるお風呂付きの「国民宿舎桂浜荘」に決定予約。ここまでを昨年12月におこなってしまいました。

次ぎに広報周知方法です。毎月発信している関西支部通信で楽しさをアピール。

それを3ヶ月連続おこないました。また、高知県の会員1070番池上さんより高知弁で高知観光お勧め情報をメールで発信してもらいました。

## 【日曜市】

高知日曜市は、雨が降ろうが、風が吹こうが一年中毎日曜日開かれております。

朝は日の出から、日の入りまでとなっておりますが、店が出揃うのは8時頃からでしょうか？日曜市は、人類の元気のもとです。土佐の日曜市へようこそ。南国の青空の下600店近くの店がならぶ日曜市は、土佐の色、土佐の匂いに満ちています。

「どこからおいでたかね」？ 少しとつつきが悪い、無言、無愛想者、無骨、だが本当は人間が好き。

「うまいぜよ」「うんとおいしい」

ひびわれた手が掴んでみせるトマト、葉っぱ、自然薯。命の根源に触れているような力強さ、安心、優しさ、ぬくもり、、、。

日曜市の空気をお腹一杯吸ってください。「日曜市は人類の元気のもと」 - - は少しおおげさすぎるとしても、皆様的心にととてもよく効くサプリメントとして頂ければ、高知市民として最高の、幸せです。

\*日曜市の会場は、高知城追手門から東に延びる追手筋沿いに約1.3キロ、片側2車線の道路を全面通行止めにして開かれる300年以上の歴史をもつ大露天市。近くに、土佐の味覚や特産品が一堂に集まる活気あふれる屋台村「ひろめ市場」がある。例会は5月13日日曜日午後3時から開催です。その前にぜひどうぞ。

最初は、参加者は役員だけではないかと心配していましたが、しつこいまでの広報活動が実を結んだのか、参加者が増えました。最初は5人部屋を2部屋の予約が最終は5人部屋が5部屋に。「これ以上増えたらふとんだけ敷きます」とまで言われる始末。うれしい悲鳴です。

5月13日(日)は、五月晴れの気持ちのよい天気。参加者の28名はそれぞれの方法で午後3時の桂浜でおこなわれる巡回例会を目指し



て各自の交通手段で集まりました。

谷澤副支部長の司会のもと、予定どおりに例会はすすみました。

退職後経験した旅とステイを振り返る  
～フィリピンレイテ島にステイして～

241 番 下元 彬人(高知)

マニラのマンション事情

～マンション購入交渉はいと楽し～

291 番 福田 修(山口)

海外で病気になりました

754 番 松本 邦子(兵庫)

816 番 有元 義晶(兵庫)

自己紹介をかねて各自の失敗談も披露してもらいました。親睦シャッフルタイムは、受付時に表はシャッフル・裏は親睦会の席順券をひいてもらい、それによりグループ分ディスカッション。これにより、どうしてもまとまってしまうがちな席をばらばらにする工夫をしました。

さて、いよいよ、みなさん、お待ちかね！ お泊まり懇親会は午後7時から1123番秋本賢治さんの尺八の演奏と会員の合唱ではじまり(飲んでしまうと演奏がしにくい?)。

畳の上で時間を気にせずにお酒を飲み、笑い、話し合い、そうそうこれよ！！ この感じと思いながらあっという間に懇親会は宴は終盤。玉すだれのかくし芸などもあり。無事時間どおりに終了。部屋に戻ってからは、3次会の始まりです。男性部屋・女性部屋と分かれて夜遅くまで親睦を深く - 深く - 深めました。やはり泊まり込みの場合は時間が充分あり、参加の皆さんくつろいだ様子で、会員相互の関係がいっそうによい方向に進んだのではないのでしょうか。

翌日14日月曜日は、皆さんそれぞれ行動は違います。天気は快晴。気分も快晴。すがすがしい思いで桂浜を後にしました。

この巡回例会の準備には、半年ほどかかりましたが、この勢いをこれでおわるのではなく、是非、次回へと生かしていきます。今回の高知巡回例会でロングステイに必要な情報収集と楽しい仲間づくり、この目的は達成できたと思います。今後の関西支部の動きには目が離せません！



## 中国・雲南の旅

関西支部 No.558 伊沢 豊

海外ステイの楽しみの一つは、近隣諸国を巡ることやということはよく耳にすることですが、それを今回ほど痛感したことはありません。近くの雲南省へ行ったぐらいで何を大げさなと笑うかも知れませんが、今回の旅はそれほど感慨深いものがありました。いえね、私はチェンマイにステイして7年あまりになりますが、（このところ家庭内ビザの関係で）ロングステイの見通しが不透明になってきたために、よい思いを深くしたのかもしれない。

※「海外ステイ」が主目的の皆さんにとっては旅行記など退屈以外の何ものでもないでしょう。ということで、出来るだけ簡潔に済ませることに致します。

### 5月24日（木）

[旅立ち]

かねてからの予定どおり、当地ロングステイ仲間の男女6名がチェンマイ空港に集合、午後2時半発で（中国）昆明に向けて離陸。タイ航空で、意外にも大きいジェット旅客機。機内はなんと満席、簡易機内食を取り終わり、しばらくすると早くも着陸態勢に入ったというアナウンス。飛行時間はたったの1時間半、こんなに近かったとは・・・

[昆明で早速ハプニング]

昆明では泊まらないため、次の目的地「麗江」へ向かうべく国内線にチェックイン。広い待合室は各地へ向う中国人でごった返している。ところが予定時刻を遥かに過ぎてもわが麗江便だけ出発の気配なし。アナウンスはあるのだが中国語なので遅延の理由がチンプンカンプン。

2時間ほど経った頃、向かいの椅子の青年が隣りの白人と何やらしゃべっているのを傍へ行き、英語で話しかけてみて遅延の理由が分った。エンジントラブルで修理に数時間要するとのこと。

[待ち時間中に中国人を観察]

- ・想像していたよりも服装はダサくなく、西側諸国とあまり変らない。
- ・とにかく連中大声でよくしゃべる。大きな待合室は喧騒のるつぼで異様な雰囲気。
- ・飛行機遅延の関係で航空会社からまず缶入りお茶の配給、しばらくして弁当・・・これを貰いに皆さんなんとなくわあーと集まってくる・・・さりとしてわれ先に、というのでもない。つまり並ぶということを知らないらしい。

[やっと出発]

結局待つこと5時間、搭乗できたのは夜中の12時過ぎ、いったん離陸すると早いもの約50分で麗江空港に到着。空港からホテルまでは送迎車で約20分、真夜中のチェックインでホテルの部屋に入ったのが1時過ぎ、倒れこむようにベッドへ・・・そして爆睡。

### 5月25日（金） 玉龍雪山と麗江古城へ

中国は少数民族の多い国だが中でも麗江はナシ族が多い。この街自体標高2400mに位置、高地で酸素が薄いせいか夜中にトイレに起きると軽いメマイを覚える（但し個人差あり）。昼間のこの地は大気清涼で空はコバルトブルー、まるで街全体が酸素ボンベの中のような爽やかさ。

街なかにはゴミひとつ落ちてなくとても清潔、道路が広く街全体がゆったりした感じ。

◎玉龍雪山（ぎょくりゅうせつざん・5596m）

地元のナシ族にとっては神々が住む聖なる山。麗江の街から車30分で山麓に到着。此処から山頂が眼前に拝める標高4000m付近までリフトで登るのだが、リフト乗り場は中国各地か





らの観光客で長蛇の列。リフトに乗るのに2時間・・・愛知万博の人気館前が思い出される。

残念ながら山頂には雲がかかり、雄姿を拝むことは出来なかった。

#### ◎麗江古城（れいこうこじょう）

麗江の街に戻り世界遺産に登録されている有名な「麗江古城」へ。古城と言うからてっきりお城かと思いきやそうではなく、保存されている古い街全体を中国語では古城と言うらしい。

面白いのは街の7割（数百戸）がみやげ物屋、中国人観光客で溢れ返りなかなかの盛況。

それにしてもこれだけ有名な街なのに欧米人観光客が微少なのが不思議。

#### 5月26日（土） 自由行動日

朝食後一行六名はホテルのロビーでガイドブック（地球の歩き方）を参考に相談の結果、タクシーで玉泉公園という所へ行くことに・・・約10分。

#### ◎玉泉（ぎょくせん）公園

麗江市街地に接して位置しており、1737年に玉泉王廟（おおびょう＝王様の墓）として造られたそう。池の一角にある大理石で造られた緩やかな太鼓橋の遥か彼方に玉龍雪山が聳え、晴天時は山が湖面に映るんだとか。園内には下記東巴（トンパ）博物館があり一見の価値。

#### ◎東巴（トンパ）文字＝いわゆる象形文字

ナシ族は東巴文字を今日でも使用しており、上記の玉泉公園内にはこの文字の継承者を養成する学校あり。其処には髭をたくわえた一見仙人風情の高齢の師匠が居られ、所望すれば願いごとなどを直筆で自作の和紙に東巴文字で書いてくれる。お代は1枚につき100元（約1600円）也。この師匠の弟子に当たる青年が片言の日本語で説明してくれた。

#### 5月27日（日） 自由行動日

昨日、玉泉公園内のトンパ学校で知り合った青年の梢（しょう）くんにつき合ってもらい、下記の2箇所に案内してもらうことに。運転手付きの8人乗りワゴン車も彼が手配。彼は日本語が大好きで目下猛勉強中だとのこと、片言の

日本語を駆使して懸命に説明する姿に感動。

#### ◎白沙（はくさ）

麗江から車で10kmほどの所にある白沙村、この村の寺院には少数民族のナシ族・韓族・ペー族・チベット族の画家が描いた有名な壁画・・・つまり麗江壁画があり、各民族の特徴がよく表れており興味深い。

#### ◎石鼓（せきこ）

麗江から70kmほどの所に、太鼓の形をした石碑あり。その昔チベット軍を撃退したことを記念1561年に建てられたもの。近くには長江の支流があり、この地で大きくV字形に湾曲しており、長江第一湾として有名。

※夜、みんなで麗江古城の街見物に出かけた。ホテルから歩いても行けるがタクシーで5分。

感心したのはこの夜の街の佇まい、全戸といってよいくらい殆ど家がライトアップ。家屋の輪郭が浮かび上がるように、軒に沿って軒の裏側からライトが見えないようにしてライトアップしており実に美しい。裏山の中腹に登って見た。下界は夜のしじまの中に街全体が浮かび上がり誠に幻想的。皆さんがもし麗江を訪れる機会があれば、是非夜の古城の街探訪をお勧めしたい。

#### 5月28日（月） 自由行動日

朝ゆっくり起床、10時頃ホテル近くの旅行社で相談、午後の車の手配など頼む。

#### ◎茶葉（ちゃば）古道へ

日本語ガイド付き車でホテルから一時間、或る山の麓にある拉市海（らっしかい）という名の大きな湖に到着。湖畔には広大な牧草地があ



り、数百頭の馬が放牧されており観光用の馬を拝借。各自馬にまたがり「茶葉古道」と言われる山道を約10km、馬子の先導で登ることに。

その昔、この山麓一帯で取れるお茶の葉を馬の背に乗せ遙かチベットやインドまで運んだのだとか。

五十歳台がらみの馬子がいい声で歌う馬子唄・・・どこか日本のメロディに似ており、馬の首の鈴のシャンシャンと相まって山にこだまし、なんとも言えぬ趣きあり。終点の山頂は開けた牧草地、澄んだ水がこんこんと湧き出て流れる小川もあり此処でしばし休憩。熱いお茶を呼ばれたり写真撮影に興じたりしたあと下山。下山後は船頭付き手漕ぎボートで湖上遊覧、翼を休める鴨の群れをそばで観たりしながら半日過ごす。

◎夜、ミュージカルを観に

場所は、麗江市内にある民族文化センター劇場。前述のように麗江は少数民族が多いと言われている。ショーは少数民族の若者スター男女数十名によるミュージカルで、民話を現代風にアレンジしたもので息もつかせぬ華麗な演出で1時間半があつというまに・・・

**5月29日(火)** 香格理拉(しゃんぐりら)へ

◎虎跳峡(こちょうきょう)見物

8:30 ホテルを出発。シャングリラへ向けて1時間ほど走った所で車は本道をそれ、V字型に高山が迫る大峡谷へ。虎がひとつ跳びで対岸へ行けるほどに両山が迫るところからこの名がついたと言われる目のくらむような大峡谷。

山の中腹に硬い岩盤を切り開いて出来た車が2台やっとすれ違えるほどの狭い道を観光バスが續々押しかけている。片側は千尋の谷で運転を誤ればそれこそ第一巻の終わり・・・スリル満点。

◎香格理拉の街

標高約3300m チベット自治州の州都で、当然のことながらチベット族が多い。麗江と同じく街中はゴミがなく大変清潔。

◎松贊林寺(しょうざんりんじ)見学

草原の丘陵に建つ雲南省最大のチベット仏教寺院で現在700名以上の僧侶が修行中。

ダライラマ5世像や高僧の眠る宝塔があり、チベット仏教に関する貴重な文化財が多数保存。寺院は盗賊の進入を防ぐため、周囲に高い塀をめぐらしている。

**5月30日(水)**

◎碧塔海(へきとうかい)という山中の湖へ

シャングリラの街から8kmにある三方山に囲まれた見渡す限りの大草原。それに沿って山の中腹の整備された専用観光道路を専用のバス(空港内駐機場を走る大型バスそっくり)が数十キロ走り、要所要所で客を下ろし展望させる。

高台から眺めると放牧された馬・羊・ヤクの群れが豆粒のようで、その規模の大きさはまさに圧巻で大陸であることを実感!

観光道路の終点は、碧塔海という紺碧の水を満々とたたえる青森の十和田湖に似た大きな湖。対岸まで50人乗りほどの観光船で渡ると湖畔には広大な湿原があり日本の尾瀬沼を彷彿とさせられ、みんなで♪夏がくれば思い出す

遙かな尾瀬 遠い空・・・♪を合唱。

◎夕刻飛行機で昆明へ

19:15 シャングリラ空港発、ちょうど1時間で昆明空港に。

**5月31日(木)** 最終日

◎石林(せきりん)観光

昆明市内から100kmほど離れた石林イ族自治州にそれはある。8000年前の地殻変動で石灰質の岩盤が地表に露出したもので、長年に亘る風雨で岩山が削られ鋭い石の林となりこの名が付けられた。日本で似通った所と言えば秋吉台のカルスト台地であろうが、石林のスケー





ルたるや言語を絶するものあり、総面積は400km<sup>2</sup>だとか・・・またもや「大陸やなあ・・・」を痛感せずにはおれない。石林内を10人乗り観光電気自動車で周遊するのだが、どの車も鮮やかな民族衣装を身に着けたイ族の娘さんがハンドルを握っている・・・カワイイ！

#### ◎博物館へ

正式名は雲南省博物館。雲南の民族・歴史関係・美術工芸品約6万点を収蔵しているそうだが、2Fでは戦国時代(紀元前403～221)の青銅器や仏教芸術品、3Fでは少数民族の民族服やアクセサリーを展示。目下この博物館の修復工事が行なわれているせいか見学者はまばら。

#### ◎帰チェの途に

7泊8日に及んだ今回のツアーはこれでおしまい。まだまだ観てない所があまりに多いので、近い将来に再訪することを誓い昆明に別れを告げた。

18:40昆明空港発で機上の人となる。  
サヨナラ昆明、また必ず来ませえ！

### 世界最高地点を走る青蔵鉄道

関西支部 No957 谷澤 誠一

私は鉄道旅行が好きである。これまでイギリス、ヨーロッパのユーロ圏11カ国、マレーシア、タイなど鉄道で駆け回った。鉄道長距離移動ではバンコック→シンガポール(3日間)とアメリカ大陸横断ニューヨーク(2日)→シカゴ→(3日)→サンフランシスコをやっている。

模型を買い集めたり、JRの青春18切符で日本中をうろつき回ったりもしている。

私の場合平均余命の持ち時間が若干少なくなってきた気がするのでやりたいことは早めに片付けていくことにして、中国が世界最高所を通る青蔵鉄道(中国語、青蔵鐵路)を建設したことを知って昨年から機会を狙っていた。

これまで世界最高所の鉄道はペルーのアンデス越え(4,783m)をするアンデス中央鉄道(未乗)であったが今回乗った青蔵鉄道(青海省、西寧ーチベット(西藏)、ラサ間)は、タ

ングラ峠で5,072mという驚異の高さを越える。

私がこれまでに登った最高所はマレーシア、サバ州のキナバル山、4,095mである。5,072mといえばそれより約1,000m高く、富士山より約1,300mも高い。

日本の近くになんな物凄い鉄道が建設されたのに乗りに行かないなんて事が出来る訳がない。

4,000m以上に線路が960kmもある青蔵鉄道は全長1956km、西寧からゴルムドまで814kmは1984年に営業運転を開始しておりゴルムドからラサまでの区間、1142kmが昨年、2006年7月1日に旅客運転を開始した。

ゴルムド、ラサ間で青蔵高原をほぼ南北に縦断しており標高4,000m以上の区間が960kmもあり永久凍土部分が550kmある。

今年4月上旬マレーシア滞在から戻ってきて、すぐJTB旅物語で「青蔵鉄道で行くチベット紀行6日間」を見付けとびついて妻と2人申し込んだ。高山病にやられないかと幾ばくか不安はあった。

5月29日朝から成田発で出発、6月3日夜成田へ帰国した。

当日5月29日、参加一行は20人、男7人女13人、年齢50歳代～70歳代、中国国際航空で成田を9.25発、北京乗り継ぎ中国南方航空で夜、青海省西寧着(泊)

#### 西寧、ウイグル人がめだつ街

翌30日、西寧で自由市場を見学した。野菜は日本とほぼ同じもの、大きさの違うもの、日本に無いもの等珍しい。イスラム帽を被ったウイグル族がめだつ、ウイグルのナンを売る店もあった。

その他青海省博物館、タール寺(チベット寺院)を見学。

夕方西寧駅からチベット、ラサ行き列車に乗車、20.28発。列車は15両連結、自分は4号車、硬臥車(2等寝台)、コンパートメン

トNo. 16、6人用コンパートメントに扉は無くベッドは3段固定のまま、右側下段私、中段妻、上段イギリス人年配者(鉄道ファン)、左側下中段、ツアーメンバーの婦人2人、上段、中年中国人男性。

6月には日没が遅いこの地でも列車が町を出たら後は暗く翌朝まで風景は何も見えない(車中泊)。ディーゼル機関車はアメリカ製、客車はカナダ製

5月31日 07.02 ゴルムド着。発車駅の西寧の標高2275m、ここゴルムド2800mでそれほど登っていない。此处でディーゼル機関車を取り替える。強力なアメリカGE社製NJ2型(4000馬力)3重連、客車はカナダ製(ポンパルディア航空機メーカーの技術を導入した与圧装置を持つ)



強力ディーゼル機関車

発車は07.22で20分停車、この駅で唯一プラットフォームへ降りることが出来た。何枚か写真を撮った。

ゴルムド以外には止まる駅が少なかったし止まっても扉は車掌が開閉し、降りる客がいなければ開けないからホームへ出られない。従って乗っている列車を外から撮影できない。

ゴルムドからラサまでの主要駅は格爾木(ゴルムド)ー南山口(ナンシャンコウ)ー不凍泉(ブドンチャエン)ー五道梁(ウーダオリアン)ートト河(トトホー)ー唐古拉(タングラ、世界最高標高駅)ー安多(アムド)ー那曲(ナクチュ)ー当雄(ダムション)ー羊八井(ヤンパージン)ー拉薩(ラサ)であるが列車によって停車駅が違うよ

うで通過する駅も多く乗っていて分からない。

列車はゴルムドを出て崑崙山脈越えに向かう、9時頃崑崙山脈東端に近く雪煙をなびかせる玉珠峰6178mに接近、長江源流のトト河に沿って進み11時頃、風火山トンネル(凍土トンネル)を抜けて山越えが終わると野生動物保護区が続く。標高は4600mくらい、チベットかもしか、野生ロバ、野生ヤクなどがある。時速は120km、高度4,000以上区間では90km±3km。

高所を走る鉄道ということで荒々しい景色を予想していたが、実際は大部分の窓外は広々した平原が多く山々は中遠景として連なっていた。

かもしかが列車を見て競走する場面があった。かもしかは時速60km~70kmで走るらしいが列車には到底及ばない。

山間の平原には野生の動物や家畜が線路に入らないように全線柵で仕切られているが動物が線路を越えて行き来出来るところどころ線路下に通路を設けてある。橋梁部分も多く数は675、総延長は160kmに達する。

トイレは飛行機のように真空吸引式、環境に配慮して車外に排出しない。

### 高山症状の現れ方

高度5,000mを越えると気圧は50%になりいっきにこの環境に突入すると誰も例外なく高山症状に脅かされる。

この鉄道の客車には与圧装置があって車内はある程度の気圧は保たれている。また酸素を車内に放出して調節している。その上、各寝台には各個に酸素吸入口が設置されていて気分が悪くなった人は酸素を補給できる。

しかし高度に順応させなければならぬので酸素をなるべく吸わないようにと添乗員から言われていたので吸った人はいなかった。

しかしそれぞれ何らかの軽い症状は現れたようだ。頭痛、不快気分、ふらつき、脱力感、など。

同じコンパートメントの年輩女性はずっと食



世界最高点とチベットに向かう車窓

欲不振や吐き気など不調を訴えていた。私はその時も以後も車内では特に不調を感じなかった。

食堂車は9号車だったので4号車からの車内移動は片道120mもあり毎食車内移動のとき急いでは危ないと感じた。高地を走る車内ではゆっくりと行動しなければ倒れる予感がする。妻も同じ事を言っていた。

### 1 人紛れ込んでいたイギリス人と現地ガイド

上段の白人はイングランド人とのこと、アメリカ、カナダも含めた鉄道同好の集まりでこの列車にやってきたが車輛もコンパートメントもばらばらになったと言う。当ツアーメンバーとの会話は英語で、長くは続かない。当ツアーの現地スルーガイドの唐さんが時々話しに加わった。唐さんは若く20歳代前半の女性、成都の旅行会社員で西寧ーラサー成都を通してガイドや通訳を受け持つ、母語の他北京語(当然)、英語、日本語が堪能、宗教に関する通訳や説明も聞きやすい日本語で話すしハングルも出来て韓国人のガイドも出来るらしい。なかなかの才媛だ。

### 最高地点(5,072m)を通過した

午後2時15分ころ鉄道線路世界最高地点(唐古拉(タングラ)峠5,072m)と直後の最高駅である唐古拉駅(5,068m)を通過した。

この線が開通するまで乗り物で上がれる最高地点は上記ペルーのアンデス中央鉄道カスイスのツェルマットのマッターホルンの隣のロープ



食堂車(9号車)

ウェイで登れるクラインマッターホルンのどちらかで不詳だが、今回自分にとっても最高地点到達の記録になった。

### 青海省とチベットの境界、大分水嶺、タングラ峠

鉄道が超える唐古拉(タングラ)峠は唐古拉山脈の鞍部で青海省とチベット自治区の境界、また大分水嶺でもある。

峠より北では水は長江を通して東シナ海に注ぐ、南のチベット側の水はヒマラヤ山脈の東端を南へ廻りこんでインド領ブラマプトラ川になってバングラディッシュのデルタからベンガル湾に注ぐ。

### ラサで下車と同時に高山症状に襲われた

夜10時10分(西寧から26時間後)列車はチベット、ラサに到着した。

ラサは海拔3,650m、気圧は平地の60%、私は列車から降りたとき突然高山症状に襲われた。

ラサ駅はポタラ宮を模してデザインされ立派に建設されているということだがそれどころでない。

プラットホームから登り降りにエスカレーターは見付からず、荷物を持って、待機しているバスまで行くのにふらふらで苦痛、ホテルで発熱(38.1℃)、悪寒と脱力でベッドから動けなくなって妻がガイドを呼びに行った。まもなく現地ガイドが持ってきてくれたボンベで酸素を吸った。

「美味しいですか?」とガイドが尋ねた。酸



ポタラ宮

素に味があるように感じた。多少意識の混濁もあって言葉が乱れた。(ラサ泊)

すぐ翌日には高度順応できていた。翌、6月1日朝、熱は続いていたが、ホテルのバイキングの朝食を普段の70%くらい食べられたのでこの日の観光についていけると判断した。

圧観のポタラ宮観光とその後の観光にも参加、ポタラ宮で標高差115.73m昇降、絢爛たるチベット仏教、ダライラマ、パンチェンラマのことなど学び内部を見学した。

チベット人の「五体投地」(手に下駄を履いて全身を倒れるように前に投げ出しおでこを地面につける、を繰り返す)の敬虔な祈りを見、その他(複数のチベット寺院)も観光してホテルに戻ると高山反応はすべて消えていた。

### ラサから帰り便が黄砂で欠航になる

6月2日 帰路、ラサ空港から成都へ飛ぶ便が黄砂のため欠航になった。スルーガイドの唐さんは航空会社と喧嘩腰の折衝をしていた。日本からの添乗員は「そんなこともあらーな」という感じでデン!と構えていたが細かな気配りだけはしていた。

6月3日 ラサー成都ー北京ー成田と予定より半日遅れて夜、成田に帰着した。

## ニュージーランドの田舎生活

関西支部 No.909 鈴木 通弘

1999年に定年退職以来、毎年3ヶ月～10ヶ月、ニュージーランド(以下NZ)にロングステイしている。過去8年間の体験を書く機会に恵まれたことを感謝するとともに、将来NZにロングステイを計画している人達の参考に、少しでも役立ってもらえるなら望外の喜びであります。

### ○ NZの概要

広さ： 日本の約75%

緯度： 日本と逆の緯度(東北地方から北海道、カラフトに相当する)

気候： オークランド市の場合

夏(12月～2月)最高気温20～25度C

冬(6月～8月)最高気温8度C前後

海洋性気候で、空気は澄んでおり湿度が少ないので過ごしやすい。年間を通じて昼と夜の温度差が大きい。年間雨量は日本と同じぐらいだが、シャワー(にわか雨)が多い。

時差： 日本との時差3時間。日本が正午のとき、NZは午後3時。10月上旬～3月下旬サマータイムのため、時差は4時間。

人口： 約400万人(牛1,000万頭、羊4,000万頭)

所得： 約30,000NZドル/人

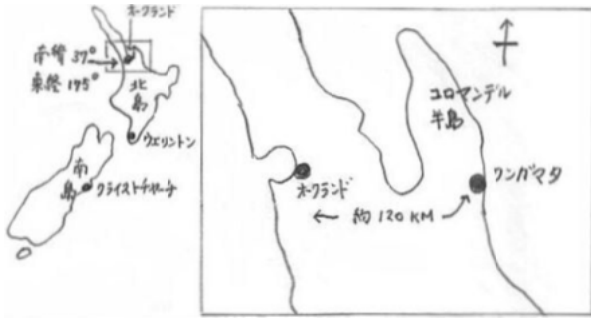
為替レート：約94円/NZドル(6月20日現在)

さて、私がお大半を過ごした田舎生活について、費用を中心とした「第1部」と、NZロングステイの主目的であった、ゴルフを通じてのローカル社会の付き合い等についての「第2部」に分けて述べたい。

### 「第1部」NZの田舎生活、ワンガマタの生活

大半を過ごしたワンガマタは、オークランドより東に約120km離れたリゾート地。日本では無名だが、NZではサーフの好適地として有名。普段は約4,000人の人口だが、12月下旬から1月下旬まで、20,000人以上に膨れ上が





る。リタイアした人が多く、ホリデイハウスが多いのも特徴。伊豆半島の寒村、紀伊半島の串本あたりのイメージである。

日本人は、語学学校の生徒を除いて極めてまれで、10名いるかどうかである。

○**ホームステイ**： 私は一貫してホームステイ（食事つきの下宿）してきた。

・ホームステイの利点は

- ① 食事・洗濯・ベッドメイキング等を自分の手を煩わせないですむ。
- ② 日常生活の中でファミリーと会話の勉強ができる。
- ③ 地元の情報が入手でき、地域の人々と知り合う機会が多い。
- ④ 近郊へのドライブ等、ファミリーの援助が期待できる。

・費用： 1泊2食付きで 210～240 NZドル/week

・食事：

- ① 毎日のご馳走は出ない。量は概して多い。食べ残しても失礼ではない。
- ② 朝食はトースト、シリアル等、簡単なものが多い。（自分で作ることも多い）
- ③ 昼食は自己負担（外食で6～10 NZドル）

・飲み物：

- ① アルコール類（ビール・ワイン・ウイスキー）は自分で買わなければならない。
- ② ジュース・コーラ・ミネラルウォーター等は備え付けのものを飲んでも良いが、できれば自分で買って冷蔵庫で保管した方がベター。

・風呂、シャワー：

- ① シャワーのみの所が多い。稀に風呂があるところもあるが、毎日風呂を使うことは飲

迎されない。

- ② 温水は夜間に蓄えられ、量が限られており、量を超えると冷水しか出なくなる。

・掃除、洗濯、ベッドメイキング：

- ① ホストファミリーが定期的に来てくれるところが多い。自分でやっても良い。

・電話：

- ① ワンガマタ地区内は月額定額制のため、地区内通話の追加支払いは不要。
- ② 地区外は有料のため、家庭および公衆電話から通話できるプリペイドカードを購入すれば気兼ねなく電話ができる。
- ③ プリペイドカードは2種類あるが「トークトークカード」が割安。
- ④ 携帯電話。日本仕様で現地対応機種も可能だが、通話は日本経由になるので割高。現地でレンタル、購入も可。

○ **ホームステイ以外の滞在方法**には、短期ではホテル、モーテルがある。1ヶ月以上の場合、一戸建てレンタルがある。レンタルハウスは、通常2ルーム以上、シャワールーム、キッチン、リビングルーム付で、1週間250 NZドル前後。3～4人でシェアも可能なので、グループの場合は割安。街中のインフォメーションセンターで斡旋、またはインターネットで検索できる。但し12月下旬～1月中旬は賃料も上がるし、需要も逼迫するので早めの予約が必要である。

○ **物価**： 5～6年前は、総合して日本の約70%であった生活費は、NZドルの高騰にもなっており、現在では日本とほぼ水準である。ただし、肉類は1/2程度で依然として安い。

- ① ビール： 330ml ビン、缶 1～1.5 NZドル。600ml 生ビール ゴルフ場で3～5 NZドル、パブで4～5ドル
- ② 飲料水： 日本とほぼ同じ。自動販売機は無い。水道水は消毒なしで飲める。
- ③ ウイスキー： ほとんどが輸入品で、日本より高い。水割りシングル パブで4ドル
- ④ ワイン： 国産、輸入とも種類豊富。標準品 700ml 20～30ドル、3L入り 紙パック



20 ドル前後。レストランで 700ml 30~50  
ドル

- ⑤ 肉：日本の約 1 / 2 の価格。牛、豚、羊、鶏等種類豊富で安い。パック詰め、または kg 単位で表示されている。
- ⑥ 魚：売っているが種類は少ない。価格は日本と同じぐらい。ロブスター、カニ、アワビ等の高級品は都会、市場まで行かないと手に入らない。

○ 昼食：テイクアウト 6 ドル前後。カフェ、  
レストラン 10 ドル前後

○ 夕食：レストラン 20 ~ 40 ドル前後

- ① NZ 人はしばしば外食する。いろいろな経験ができるので、HSファミリーと一緒に外食することをすすめる。自分のものは自分で払う。
- ② ワンガマタには日本食レストランは無い。中華料理はテイクアウトのみ。

○ 日本食：スーパーマーケットやコンビニには、

- ① インスタントラーメン、うどん、豆腐があるが、日本の味とは違うので期待しない方がいい。
- ② 醤油、わさび、のりはあるが、味の素、だしのもと、うどんスープは置いていない。
- ③ 大都市ではほとんどの日本食材が手に入る。
- ④ 米はオーストラリア産で、価格は日本の 1 / 3 ~ 1 / 5 (種類は違う)。炊飯器も売っている。

◎ 日常生活あれこれ

- ① 車は圧倒的に日本車が多い (80 % 以上)。中古車セールも盛ん。10 年以上の車も多い。車の登録は 3 ヶ月ごとに更新 (車両税、約 10 ドル / 回)。保険は日本に比べて割安。レンタカーは日本の 50 % ~ 70 %。タクシーは日本の 50 % ぐらいの値段。初乗り ~ 2 km 5 ~ 6 ドル。電話で申し込む。家まで送迎。ワンガマタ ~ オークランド (120 km) 乗り

合いで 70 ドル。

- ② 口座開設。パスポートと預金 (100 ドル程度) が必要。申し込み後 1 週間ほどでカードが郵送されてくる。銀行窓口で暗証番号を登録すれば完了。システムは日本とはだいぶ異なる。初回 カード作成料 10 ドル。口座は数種類あり、通常、月間引き出しの場合、2 回目からは 1 回当たり 2 ドル前後の手数料がかかるので注意。預金通帳は無く、1 ヶ月ごとに記録が郵送されてくる。帰国する際に解約が望ましい。
- ③ クレジットカード：日本での作成が望ましい (NZ は条件が厳しい)。VISA, MASTER はほとんどの店で通用するが、JCB は有名観光店や日本人向けの「土産店」「レストラン」でしか通用しない。
- ④ 滞在延長：3 ヶ月まではノービザで滞在可。その後、6 ヶ月まで延長可。必要な手続きは出発前に日本の旅行社に照会してください。
- ⑤ 健康保険：日本の健康保険適用は、帰国後還付可能。詳しくは市役所等にある健康保険案内を参照してください。
- ⑥ 旅行保険：3 ヶ月以内であれば、上級クレジットカードでカバーできる。それ以上は海外旅行保険に加入すれば安心。但し高い。
- ⑦ NZ で怪我をした場合：医師の判断により、医療費が無料になる NZ 独特の制度がある。
- ⑧ 薬：風邪薬等の一般薬は薬局で買えるが、特殊な薬は医師の処方箋が必要。
- ⑨ 散髪：15 ドルくらい。洗髪、シェービングなし。女性用も日本より安い。
- ⑩ ガラージセール：引っ越し等で不要になった品を売っている。土、日に開かれることが多い。盛んに行われている。
- ⑪ セカンドハンドショップ：中古品 (衣類、雑貨) を扱う専門店。市価よりかなり安い。

◎ アクティビティと旅行

- ① 魚釣り：ボートフィッシングとビーチフィッシングの 2 種類がある。ボートフィッシングは半日で 50 ドル前後 (含む竿、えさ)。魚影が濃いので、中級以上の腕前なら、鯛等相



当な釣果が期待できる。初心者も夢中になる。

- ② 乗馬：近郊の牧場（車で10～20分）。2時間で50ドル前後。初回からトレッキングが楽しめる。
- ③ スカイダイビング：車で1～2時間の地方空港で。1回のフライトは250ドル前後。日本では機会が無いし、また値段もべらぼうなので、NZで試してみるのも良い。インストラクターと一緒に飛んでくれるのできわめて安全である。
- ④ ハイキングとトレッキング：ワンガマタのあるコロマンデル地方は、環境保護に熱心なグリーンパーティー（緑の党）の発祥の地であり、自然が豊かに残っている。初心者から上級者まで、近郊の山歩きを楽しむグループが各地から訪れる。
- ⑤ テニス、卓球、ラグビー、ビリヤード、トランプ、マーじゃん、絵画、陶芸等：NZの交際の中心は、各地にあるクラブ組織である。ボランティアにより運営されており（一部にはプロもある）手ごろな会費で余暇を楽しむことができる。
- ⑥ BBQ（バーベキューパーティー）：NZでは週末の金、土曜日にしばしばBBQパーティーが開かれる。日本と違って、飲み物は各自、自分のものを持ち寄る。残れば持ち帰る。肉、ソーセージ、サラダ等5～10ドルの物を持ち寄る。一応の開始時間はあるが、いつ来ても、いつ帰っても良い。特別な余興等はない。
- ⑦ ナイトライフ：ワンガマタはきわめて健康的な土地柄で、日本流のホステスバーは皆無である。パブやレストランにはスロットマシン

を置いてあるところが多く、また独自の催しで客寄せを競っている。近年人気があるのはカラオケである。ナイトライフにも若者が中心の店と、中年以上が集まる店に分かれているようだ。後者は常連が多く、大半は夫婦連れで、毎夕のように軽くひっかけて帰る人もあれば、毎週決まったように食事を楽しみにくるカップルもありにぎわっている。パブ、カフェは前払いシステムでリーズナブルな価格である。

- ⑧ 旅行：NZの旅行は、遠距離は飛行機、近距離はバス・車で。汽車は便数が少なくあまり利用しない。街には旅行代理店もあり、切符、宿泊の予約ができる。NZでは各地域に公共性の強いインフォメーションセンターがあり、いろいろな情報を得ることができる。観光・宿泊・バス予約のほか、アクティビティ・イベント等の情報が充実しており、ホームステイや長期滞在施設の紹介も受けられる。

## 「第2部」ゴルフを通じてのローカル社会との付き合い

私がロングステイ先にNZを選んだ理由の一つは、ゴルフが堪能できることにあった。

期待に違わず、否、予想以上であった。特にワンガマタはゴルフを通じて、普通のステイヤーでは味わえない経験と充実した生活を過ごすことができた。LSで最も留意すべきことは、余暇をいかに過ごせるかにあると私はつねづね思っている。時間が有り余って困ってしまうのである。対処方法として、

- ・語学学校で勉強する
- ・ゴルフ等アクティビティに積極的に参加する
- ・夜の付き合いを多くする、ことにした。

一般にNZ社会の付き合いは・夫婦単位・所属クラブ単位が中心で、会社員同士はあまり聞かない。せいぜいBBQ程度と思われる。

- **ゴルフ場の立地**：ワンガマタから1時間圏内に10以上のコースがあり、いずれも非常によく手入れされている。私がステイしたところから徒歩3分で、9ホールコースに行けるし、車で5分のところに18ホールコー

スがある。9Hコースでは、夕食後、練習を兼ねてしばしばプレイした。

- **運営：** NZではクラブメンバーが経営および運営を担っている。メンバーの互選により、プレジデントをはじめ、経営陣が決定される。プレジデントの下に管理部門、売店、レストランが置かれている。
- **費用：** フルプレイメンバーは年間560ドル、インターナショナルメンバーが半年間で300ドル。会費を払えば何回プレイしてもタダである。プレイはセルフで、カート、トランダーは別費用である。また、他のゴルフ場もメンバーカードを提示すれば10～20%割引してくれる。
- **クラブ競技：** 毎週、水、土曜日はクラブ競技日である。毎回趣向が凝らされている。例えば、アイアンデーはアイアンのみ使用。2人または4人の各ホールベストスコアを競うゲームや、月間ベストスコアのコンテストもある。ホールインツウというのはパー3コースでバーディーを取った者が景品を分け合う人気のシステムもある。
- **ハンディキャップ取得：** NZどこでも通用するシステムがコンピューターで管理されており、2週間ごとにハンディが改定される。同伴者サイン入りのカードを5枚提出すれば取得できる。
- **ゴルフは4時間以上、4人が否が応でも一緒にプレイし、会話を交わさなければならないし、終わってからの懇親会は、大勢のメンバーと話すように努めなければならないステージである。当初は緊張もし、戸惑ったが、案ずるより産むが易しである。彼らはフレンドリーで、且つ、異邦人をバックアップしようという心遣いがひしひしと伝わってきて、感激したものだ。コミュニケーションの中で、語学力の占める割合は7%ぐらいであると聞く。ましてゴルフ用語は限られている。会話力アップの手段として、ゴルフプレイほど良い機会は無いと思う。**
- **最高の思い出：** ワンガタゴルフ場の壁に歴年のチャンピオンの名前が刻まれている。



その中に唯一の日本人として私の名前がある。初めての年、無我夢中でプレイするうちに、ハンディにも恵まれて、ジュニアチャンピオンのタイトルを獲得した。他に、3つの競技でも優勝した。その都度、顔写真入でローカル紙の紙面を飾ることになったので、一躍名前が知られるようになったのも、忘れられない思い出の一つである。

どこまでも続く白いビーチ、そしてその後方に牧場と森林の丘が続くリゾート地は、時間がゆっくりと流れていく感じがする。ワンガタはロングステイヤーに知られたいもあり、知られたいもない私の隠れたホームタウンである。

## 南米旅行記

関西支部 No.591 神原 克收

昨年11月11日から12月25日まで45日間南米3カ国と中米のコスタリカを旅した。旅行形態は家内と二人の個人旅行で、経路はリマ～ナスカ～リマ～クスコ（マチュピチュ）～プーノ（以上ペルー）～ラパス（ボリビア）～キト（エクアドル）～サンホセ（コスタリカ）である。

### 1. 宿泊施設

南米の旅は初めてで、英語が殆ど通じないので、宿泊は日本人または日系人経営のペンションやホテルにした。予約は日本語メールで簡単に出来た。

これらのホテルでは日本語が通じるので、治



安情報や食べ物、観光などの情報が容易に入手出来て、大変便利であった。また、そこに宿泊する日本人から様々な情報が聞けて参考になったし、宿泊料も朝食付で\$ 30/日程度とリーズナブルであった。

## 2. カメラを盗られた

旅行者の治安については、物を盗られる心配は大きいですが、常識的な行動をしている限り命に係わる危険性は少ない。街を歩行する際にはお金は勿論のこと、バッグやカメラなどにはひったくられないように常に注意が必要だ。隙を見せると私のようにカメラをひったくられる羽目になる。

リマに到着して3日目にカメラを盗られた。昼間でしかも比較的安全と言われている地区で、人通りの多い場所での出来事である。カメラをポケットに入れ、写真を撮りながら歩いていたら、突如後ろから二人組の男に突き飛ばされ、瞬間的にポケットのカメラを盗られた。

今から思うと、写真を撮ってカメラを無造作にポケットに入れるのは、カメラの在り処を公表しているようなもので、「盗って下さい」と言わんばかりの行動であり、盗られたのは全くの油断であった。

翌日盗難にあったのと同じ仕様のカメラ（キャノン）を買い求め、以後の旅に支障はなかった。因みに価格は日本より2割程度高かったが、輸入品だから当然か。



コスタリカで泊った一軒家のアパート

## 3. 市民生活はまるで檻の中

リマで泊ったペンションは中流階級の住宅地の中にある。比較的小金持ちの人が多く、当然強盗に対する備えは厳重で、殆どの家は鉄格子で囲まれ、まるで檻の中で生活しているようである。鍵は鉄格子の鍵、門扉の鍵と2ヶ所を開けないと檻の中には入れない。中に入っても玄関の鍵が要る。

日本なら住宅の玄関に表札が掛かっているが、南米では番地表示はあるものの住人の名前を示すものは皆無である。住宅だけではなく、サービス業でも自由に出入り出来る場所は大変少ない。旅行代理店では玄関を完全に閉ざし、インターフォンを押して中に入れてもらう。店名表示は何もないので、初めての日本人なら店の玄関まで来て、「ああ、休業だ」「あっ！つぶれてる」と引き返すに違いない。サービス業でも小規模な店では店名表示をしていないところが多い。現に私が宿泊したペンションは番地表示のみでホテル名は一切なし。また、そんなに多くはなかったが小さな商店では格子状のシャッター越しに品物やお金のやり取りをしているのを見掛けた。

## 4. 高山病について

南米はアンデス山脈を中心に西側の海岸沿いは雨の全く降らない砂漠地帯、東側は高温多湿のジャングル地帯、真中の山岳地帯だけが快適な気候である。主要な都市はリマを除いて全て山岳地帯にあり、比較的赤道に近いにも拘らず涼しく快適である。主な都市の標高はクスコ



まるで檻の中の生活

3400m、ラパス 3100～4100m、キト 2850m、サンホセ 1000～1500mである。

こうした標高の高い都市にいきなり飛行機で到着すると高山病の心配をしなければならない。リマでは日本人経営のペンションに投宿したので多くの日本人と出会い、クスコでの経験を聞くことが出来た。それによると何もなかった人、軽い高山病に掛かった人、重い症状が出た人が夫々3分の1ずつであり、特に重い症状の人はホテルに医者を呼んだり、終日ホテルで休息し観光どころではなかった人もいたとのこと。

我々も標高 10mのリマから飛行機で 3400mのクスコへ飛んだので、当然高山病の危険はあったが、事前に日本で高山病に対する知識を得ていたのと、事前の備えを十分したので、大した問題もなく観光を楽しむことが出来た。

高山病対策としてリマに到着してから高山病に効くと言われるココ茶を毎日5杯くらい飲んだ。リマからクスコへの機中でダイアモックスという高山病薬を服用し、クスコでの初日にも1回だけ服用した。その他高山病に良くないとされる、アルコールの摂取や日課の柔軟体操などは控え、歩くのも極めてゆっくり歩いた。暴飲・暴食も禁物で、特に到着した日は食欲もあるので、食べ過ぎには注意が必要だ。

高山病は到着日には出ず、一晚寝てから出るので、到着日はいくら元気でも極力安静にすることが望ましい。ここで動き回るとそのツケが翌日に必ず出る。

出てきた症状は食欲減退、頭痛と早い動悸（脈拍 100 は超えていたと思う）、それと家内は背中に鉛を背負ったような重苦しさを感じたという。それがマチュピチュ（2400m）へ行くとウソのように何事もなく、遺跡のアップダウンも難なくこなすことが出来た。高いところに滞在すると、それ以下のところでは高山病の心配はなくなる、ということが実感出来た。

マチュピチュからクスコへ舞い戻った日は微かな頭痛が残ったものの、出発した時の状態とは様変わりに楽になり、食欲も通常通りに回復していた。クスコからプーノへバスで移動する途中、4335 mの地点で休憩したが何の異常も



ラパスはすり鉢状の街、  
ダウンタウン3650m、山上4000m

感じなかった。

プーノ（3855 m）、ラパス（3650 m）では上り坂では流石に息切れしたが、通常では何の苦痛も感じることなく過ごすことが出来、2850 mのキトでは日本と同じ感覚で過ごしていた。アルコールも 3650 mのラパスから再開したが何の問題もなく、南米の食事を満喫出来たのは幸せであった。今回人間の順応力の凄さに痛く感激した次第である。

## 5. インカ文明

ペルー観光のハイライトはマチュピチュであろう。マチュピチュを語るにはインカ帝国の歴史抜きには語れない。

インカ文明は文字を持たなかったため、その起源については伝説的な域を出ない。比較的はつきりしているのは 15 世紀初頭からである。

インカ帝国が急速に勢力を伸ばし始めたのは 15 世紀に入って第 9 代皇帝の時代からで、スペインに滅ぼされた 1532 年までの僅か 100 年ほどの間に、北はエクアドル、南はチリの北部まで 4000 Kmに及ぶ広大な帝国を完成させた。100 年という極めて短期間でこれだけ版図を拡大出来たのは、よほど優れた統治機構があったからであろう。また、優れた社会保障制度により征服された国民がインカ帝国の支配を受け入れたからである。

建築面ではカミソリの歯 1 枚も通さないと言われる精巧な石組み技術が現在も残されている。スペインはインカの建物を次々と破壊し、そこ





今に残るインカの石積み

に使われていた装飾品の金を溶解し、延べ棒にして本国に持ち帰った。

スペインは建築物の破壊はしたが、土台の石組までは破壊しきれず、その石組を土台にしてスペイン式の建物を建てた。これらの建物はその後の地震で殆ど倒壊したが、インカが残した土台の石組の多くは無傷で残り、現在もそのまま使用されている。

大量にあった司祭用道具の装飾品や支配階級が身に着けていた装飾品にも夥しい金が使われていたが、それらも全てスペインへ金の延べ棒として持ち帰った。

こうしたスペイン人の破壊から免れたのがマチュピチュであり、インカ時代の街が無傷で残っている数少ない遺跡である。

## 6. 謎の街マチュピチュ

マチュピチュはインカ時代の15世紀に造られた街だが、山奥のしかも断崖絶壁の上に造られたため、1911年に発見されるまで存在が分らず、お蔭でスペイン人の破壊から免れた。

マチュピチュは謎に包まれた街である。何故こんな急峻なところに造ったのか、何のために造ったのか、諸説あるものの未だ説明はされていない謎である。

マチュピチュを訪れて驚くことは600年も前に造られた街が見事に残っていることである。勿論石造りだから残ったということはある。しかし、ペルーは有数の火山国で幾度となく大地震に見舞われている。それらに耐えて今日まで完全な姿で残っているのは感動的である。優れ



謎の街マチュピチュにて

た石組技術のなせる業であろう。これらの巨石をどこから、どのようにして運んできたのか、これも謎である。

次の驚きは、段々畑である。一口に段々畑と言っても日本で見られるような柔なものではない。物凄い傾斜地の断崖にへばり付くように造られている。そこに辿り着くだけで大変なところだが得られる耕地は僅かなもので、何故こんな急峻な地に段々畑を造ったのか、これも謎である（お断りしておくが、全てが急斜面ではなく、勿論普通の段々畑もある）。

この他にも数々の謎があるマチュピチュだが、インカは文字を持たなかったのでこれらの解明には困難が伴う。この地に立って遙かな古の謎に思いを巡らせ、謎解きの空想に浸るのは旅の醍醐味である。

## 7. 肥満は国民病

以前アメリカでクルージングをしたとき、船は養豚工場ではないかと思うほど肥満の乗客が多く驚いた経験がある。南米もどこの国でもよく太っていて、中米のコスタリカも例外ではない。欧米では若いうちは比較的スリムだが、南米では老若男女問わず太っている。特に中年以降の女性はひどい。南米に来れば日本人で肥満と言える人は殆どいない。ひどいと言っても、それはあくまで日本人の感覚であって、現地の人は正常と思っているに違いない。日本でも平安時代の美人は「ふくら」が条件であった。

肥満は遺伝子に負うところ大と思っていたが、そうでもないらしい。リマで静岡県人移住 100



サンホセの繁華街のど真ん中にある銅像

周年記念コンサートがあり見に行った。日系人ばかりの集りで日本語は話せないが顔立ちが日本人と言う人が大半であった。しかし純粋ペルー人には見劣りするが、立派な肥満体の人が多い。この人たちの遺伝子は混血が進んでいるとはいえ、顔立ちから見れば日本人の遺伝子であろう。にも関わらず肥満ということは、遺伝子よりは食べ物の影響の方が強いということであろう。

太っていてもそんなに困ることはないのだろうが、アメリカではエグゼクティブはスリムと禁煙が前提条件になっている。ということは肥満は遺伝子ではなく、個人の意志で撃退出来ることの証左であろう。

## 8. コスタリカについて

皆さんはコスタリカと聞いてすぐに地図が思い浮かぶだろうか。パナマ運河で有名なパナマの北に位置し、その北はニカラグアである。九州と四国を合わせた位の広さに 430 万人が住んでいる。中米の優等生として自他共に認めている国である。

この国のユニークなことは自前の軍隊を持たないことと、国土の 4 分の 1 が国立公園か自然保護区に指定されていることである。当然の成り行きとして自然を最大の売り物にして観光立国を目指し、且つ成果もあげている。

ウミガメの産卵で有名なトルトゥゲーロ国立公園では残念ながらウメガメの産卵時期ではなかったのを見ることは出来なかったが、あまたの動物・鳥・蝶・花に遭遇出来た。また、ジャ



活火山のド迫力（買い求めたCDから借用）

ングルツアーで味わった静寂は、大自然の底知れぬスケールを感じさせ、同時に先進国の自然破壊の凄まじさを実感させてくれた。

活火山で有名なアrenal火山国立公園では、24 時間・365 日噴火を繰り返す溶岩を何十年間も受け止めて、なおその姿を変えない山の懐の深さを見せ付けられた。ホテルの部屋から眺める夜の溶岩流は、この世のものとも思えぬ神秘的なもので、人間の悩みなど取るに足りない些細さに思える。

この火山は付近に温泉を恵み、川全体が温泉という、温泉天国日本も顔負けの温泉が楽しめる。日本にもこの種の温泉がないわけではないが、ここのスケールにはとても敵わない。

その外幾つかの国立公園に出掛けたが、いずれも期待に違わぬ素晴らしさで、自然を残すことの重要性を骨の髄まで感じさせる旅であった。

## 9. 掛かった費用

参考までに 45 日間の費用（二人分）は次の通りである。（単位千円）

総費用：1,327（航空券 729、ホテル 38 泊分 133、食費 90、その他 375）

因みにレストランでの平均単価は、昼食 590 円、夕食 800 円であった。

## 渡り鳥生活5年を経過して

甲信越支部 No.96 宮沢 英光 幸子

チェンマイと信州との間を、約半年毎の渡り鳥生活を始めて、早くも5年が過ぎました。50歳を少々過ぎた頃から、退職後充実した時間を過ごしたいと考え、寒い冬の信州を脱出して、南の暖かい国で過ごせればと、いろいろな情報集めを始めたことが思い出されます。早めの準備が今思えば大変良かったと実感しています。避寒と妻の家事の軽減や年間を通して活動的に過ごせ、また良き人々と多く出会い、お陰さまで充実した時間を過ごせていることは大変ありがたいことと思っています。10月初旬から翌年の4月後半までをチェンマイで過ごし、桜の開花に間に合うように信州に戻ってといったのがこの5年間のサイクルでした。

この半年単位の生活もやってみれば結構いいところが有ります。季節的にはいいとこ取りが出来、また生活目標がそれぞれに持て、けじめが付けられることが大変有難いところです。特に日本とかの地の友人それぞれに接することが出来、交流を楽しめることは大きな喜びです。今後もこのペースをしばらく続けて行けたらと思っています。

話は変わりますが、チェンマイも5年前の最初の頃から見ればいろいろと変化が感じられます。先ず一番には大変日本人の滞在者が多くなったことです。当初は名前と顔がすぐ一致するほどの人数でしたが最近では本当に沢山になっています。どこに行っても日本語が聞こえてくるような感じになってきています。次に大きいのが為替の影響で円の価値が30%ほど下落してきていますし、物価も相当上がってきています。街を走る車の量も数倍以上になって来たように思われるのと、それに真新しいピカピカの車が大変に多くなって来ています。タイ全体の経済発展も目覚ましいようですし、またチェンマイそれにも増して好調とのことですから当然と言えるかも知れません。レストランにしてもバラエティーに富んできていますし、日本食レスト

ランも本当に増えて不自由しないと同時に、街の普通のお店でも日本語メニューを置いているところが多くなっています。それだけ日本人が増えたということでしょうか。そういう点では便利さも増えています。また英語や日本語の通じる店も5年前から比べれば大変増えてきているように思います。ただ為替差の恩恵が減ったことは実感として大変痛いことですが。

次に日頃感じていることですが、狭い街での生活が長期になるに従って、一番厄介な問題は日本人同士のトラブルです。どこのステイ先でも聞く話だとは思いますが、ここチェンマイでもご同様のようです。最初の内はいいのですが長期になってくると、どうも避けられないことが多いようです。何で海外に出てきてまでと思うのですが、どうもこうした習性はなかなか抜けにくいらしく、本当に沢山聞きます。長い人生を経験してきている人々が、少しわきまえれば多くを避けられると思うのですが、これがなかなか難問のようです。性格は簡単には変えられぬとはいっても、楽しくまた有意義な時間を過ごすためのロングステイであればこそ、そこは何とかならないかと思うのですが、なかなかそうは参りません。本当に残念なこととしか言いようがありません。狭い街で長期滞在するときの留意すべき課題と言えましょう。

今後も友人の皆さんと共に楽しくまた充実した時間が持てることを願っています。また色々ご教示などいただければ大変幸いに思います。

チェンマイにお出かけの際はナコンピンコンドミニアム1419号室(Tel:053-404198)に是非お立ち寄り下さい。お待ちしております。



友人夫妻(中2人)と



## 地方からの提言

甲信越支部長 No.465 橋本 慧

18年度の会報委員会では、それまで慣例として行ってきた、一会報ごとに理事一人が記事集めを担当するというシステムを改善していかなければ、今後、会報担当を希望する理事がいなくなるのではないかという危機感から、会報担当理事の連携を深めて、お互いにフォローしあいながら、記事集めと編集作業を行なう。各号の記事集めの一部を順繰りで各支部に委ねる、という新しい編集方針を打ち出しました。

特に各支部に記事集めを依頼するという試みについては、はたして地方支部が引き受けてくれるだろうかという不安を強く感じていましたが、結果的には、案ずるより生むが易し。まず、新年号を九州支部が、続いて春季号を北海道支部が快く(?)引き受けていただき、ローカル色豊かな読み応えのある会報を発行することができました。

そして、今期夏季号は、関西支部と甲信越支部が記事集めに当たることになりました。両支部とも前年度までは、支部活動そのものがやや低調で、会員相互の連携もなかなか取れない状態でしたから、はたしてうまくいくだろうかという大きな不安を抱きながら、恐る恐る投稿依頼のメールを発信しました。はたして、甲信越支部は弱気の予想が見事にあたり、記事をお寄せいただいたのは、前年度まで支部長の労を担っていたいただいた宮澤英光さんのみと云う残念な結果になりました。

いいわけじみた話で恐縮ですが、甲信越支部の状況を説明させていただきます。

- ・甲信越支部は山梨・長野・新潟・富山の4県で構成されており、24名の会員を擁している。
- ・いわゆる、日本の中心的な山岳地帯。いくすじもの分水嶺にわかれており、地理的に中心をなす都市がない。
- ・ペナンの木村さんをはじめ、すでに海外に軸

足を移している会員が5名ほどおり、一度に集まることが困難である。

- ・以上の理由から支部総会は、年1回の実施で、宿泊で行ってきた。今後もその予定。

私も入会して5年目に入り、今年度、理事兼任で支部長を仰せつかりましたが、人間関係のできている会員は5,6人というのが実態です。

さて、ここから表題「地方からの提言」の内容に移ります。18年度夏季号で、宮崎理事長が、就任の挨拶の中で述べておりましたが、開発途上国でのロングステイが経済的にゆとりを持って楽しめるのも、そう長くは続かないだろうという話。ここ十数ヶ月続いている円安傾向もあって、東南アジアでのLSも年々、経済格差による旨味がなくなっていることを実感している会員も多いかと思います。考えてみれば当たり前の話で、日本は十年ほど前からほとんどゼロ成長、東南アジア諸国は5~8%の経済成長が続いています。今後しばらくはこの傾向が続くことが予想されます。勇気を持って予言すれば、日本の年金生活者が、東南アジアとの経済格差の恩恵を受けながらLSを楽しめるのも、あと十数年ぐらいではなかろうかと思えます。

春季号「北海道支部特集」で大平盛雄さんが紹介していた(北海道移住体験のすすめ)。この記事に大いに触発されて、早速、この夏から北海道LSにチャレンジする会員も出てきています。実は、関東周辺の過疎地域にも、同じような意図で遊休農地を活用した施設が続々と開設されています。山梨県でも、かつては養蚕と林業で農業経営を行ってきた地域がたくさんあり、そうした地域の多くは水利の問題から米作が難しいところです。

当然のことながら、農業経営が立ち行かなくなったこれらの山村では、若い世帯の都市部への流出が続き、残されたお年寄りも細々と自家用の野菜などを栽培しながら天命の尽きるのを待っている状態です。放置された畑には桑や果樹の残骸が生い茂り、そこに山野の雑木が侵入



してきているのです。もはや、お年寄りの体力では管理しきれない状態です。

そうした、過疎山村を抱えた自治体では、何とか地域の再利用、再開発をと、知恵を絞りながら試行錯誤をしているのが昨今の実態です。

今から紹介する「甲斐市、旧敷島町 梅の里 クラインガルテン」はそうした背景の中で開設した、家庭菜園付賃貸施設です。

平成 17 年 8 月にオープンしたこの施設は、首都圏のリタイア族に大人気で、第 1 期 30 区画、第二期 20 区画とも競争率が 5 倍近くにのぼり、今日現在、首都圏からの流入組が 46 世帯、甲府市内から 4 世帯と満杯状態になっています。甲府盆地を睥睨しながら、南前方にはバランスの良い絵葉書のような富士山を眺めるこ

とができ、市街地まで車で 10 分以内ですから、似たようなところに住んでいる我々でも、移り住みたくなるような景勝の地です。

そこで、一つの提言です。現在首都圏に自己所有の住居をお持ちの方、もし、自宅を適当な家賃で賃貸できれば、年間 40 万円そこそこで、春から秋までは家庭菜園の軽作業や山菜採り、日本の季節の移ろいを楽しみながらの山村生活。寒さが気になり始めたら、家賃収入の余剰をかって南国 L S、そんな生活が可能なのです。うまい話だと思いませんか。

県内でも、敷島町の成功に触発されてか、北斗市や南アルプス市でも、似たような施設の開発が進行中です。ぜひ、インターネットを活用して調べてみてください。

(パンフレットより抜粋)

## 甲斐敷島梅の里 クラインガルテン

### クラインガルテンとは...

クラインガルテンは、ドイツ語で「小さな庭」という意味の市民農園です。遊休農地を活用し、都市生活者が野菜を作り、農村生活を楽しむ！ 地元農家・住民とふれあい、様々な活性化が生まれる事業です。農園で自家消費の野菜を作り、美しい庭作りを楽しみ、家族で土いじりをして週末を過ごす等、素敵なクラインガルテンライフが楽しめます。

### 施設概要

休憩施設付き滞在型区画(50区画)

第1期30区画・第2期20区画(平成19年4月オープン)

区画敷地面積・約300㎡ ラウベ面積・1DK約50㎡

菜園、花壇・約140㎡(農機具置き場付き)

設備：電気、プロパンガス、水洗トイレ、オートバス設置

日帰り型区画(25区画) 1区画面積・・・約40㎡(平成19年4月オープン)

クラブハウス 管理事務所 集会スペース 物販コーナー 農産物直売(毎週日曜日)

### ご利用会費

休憩施設付き滞在型区画 入会金30万円(5年間有効) 年会費40万円(1年ごとの更新)

日帰り型区画 年会費8,000円

交流イベント及び活動費 1人1,000円~3,000円程度の飲食費、資料費等の実費

### 事務局

甲斐市役所農林振興課 北部振興担当： 入退会手続き、イベントや行事の企画、広報を担当

### 運営事務局

農事組合法人ゆうのう敷島： 地元農家を中心とした組合で、クラインガルテンの管理運営を担当します。

([http://www5f.biglobe.ne.jp/~studio-noah/umenosato\\_test/](http://www5f.biglobe.ne.jp/~studio-noah/umenosato_test/)をご参照ください)

# 福建省に客家土楼を訪ねて・・

関東支部 No.512 金子 良三

過日巢鴨の理事会で、3月下旬に訪れた福建省の客家人村落の写真に見入っていたら、会報編集委員の橋本理事から情報を提供してほしいとのこと、情報と言えるほどの内容ではないのですが、廈門(アモイ)から内陸の山間部に数時間入った客家人村落の最近を記します。

「客家を知らずして現代中国を語るなかれ・・」と何かで読んだことがありました。中国北方の漢民族が、歴代の中原一帯の戦乱を避けて集団で南下し、華南地方でも特に山深い辺鄙な福建省に多く定着したことに興味をもちました。

私がこの中国の内なる異邦人に目覚めたのは、中国大陸では鄧小平、台湾で李登輝、シンガポールでゴ・チョクトンと、いずれも客家出身の政治家が国のトップに躍り出た時代があったことに起因します。中国旅行を繰り返す友人仲間と今秋、客家の故郷のひとつ福建省・永定県を訪ねて、何百人もの一族郎党とその家畜がひとつところに暮らす土楼を鑑賞しようというはなしがもちあがりました。土楼への旅の玄関口としては、華南の廈門が最も便利であり、なかでも異様な円形土楼(円楼)が多いのも永定県といわれています。今回はその「下見ひとり旅」(3泊4日)でした。

中国大陸沿岸部で台湾に対峙する福建省と廈門(アモイ)は、その特殊事情から開発が遅れた地方と言われてきました。然し近年は沿岸部として、ごたぶんに漏れず著しい経済発展が見られ、成田からも毎日定期便が就航しております。

福建省は観光客にも縁遠い地方でありましたが、百世帯、二百世帯という大家族が家畜と共に暮らす、もとは自衛の為に集合住宅である客家土楼が、若者の出稼ぎなどによって、見るに耐えないものになっているのではないかと危惧しておりました。結果として、大型土楼の住人は少なくなっているものの、案内された土楼の大半は、かなりの住人が平穩のうちに日常生活を送っているようで、短期間で住居を見学鑑賞するだけなら、旅行社の組んだプログラムで訪れる土楼だけで充分だと確信するにいたりました。

私は「客家土楼と廈門・コロンス島三日間」のパッケージツアー(一人部屋と全食・運賃空港税込み)を69,870円で購入し、旅程表どおりに厦門から高速で約4時間北西に走った処、龍岩市のホテルに宿泊しました。プログラムではここからから2時間ほど辺鄙な田舎を西南に入った永定県湖坑鎮洪坑村にある「永定土楼文化村」として観光客用に整備された客家人村に案内されました。村内には30戸ほどの各種土楼や民家が散在し、大型円楼では圧倒的に豪華な造りの「振成楼」(1912年建立)、やや小ぶりの「如昇楼」(写真1)、永定県で最大の五鳳楼といわ

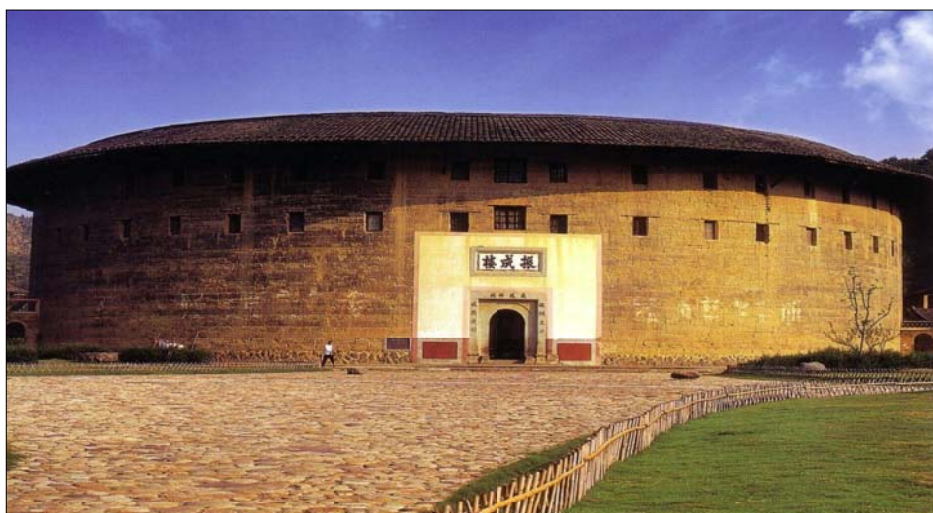


写真1 振成楼



写真2 福裕楼



写真3 宿泊施設

れる「福裕楼」(写真2、1882年建立)など数戸を、自由に入出入りして隅々まで見学することができました。

振成楼は五年の歳月をかけて完成した洗練されたスタイルの円形土楼で、二重円で構成され外円部は4階建て、祖堂のある内円部は2階建て、合わせて208部屋ありました。楼内直径は80メートル以上もあり、外円部から内円部を見下ろすと龍がとぐろを巻いているような印象を受け圧倒されます。楼内の部屋の幾つかは宿泊施設として観光客に開放され(写真3)、食堂や温水シャワーの施設もありました。一泊20元(1元17円として340円)、朝食は10元、昼食は15元、夕食は20元を基準として、食事内容は希望を受けると担当の青年は愛想を振りまいていました。写真のような2、3の部屋に案内してくれ、この日も西洋の若者数人が、ここを根城にバイクの後ろにまたがって近隣の客家土楼見学をしているようでした。振成楼一階の食堂も小ぶりで、3箇所ほど並んでいましたが、欧米観光客も客家料理の昼食は抵抗がないようでした。このような食堂がない村が大半なので、我々が今秋訪れるときは、龍岩市のホテルで弁当を用意してでかける必要を感じました。

別な一日はオプションで車(タク

シー)を借り切って県内の鎮や村を幾つか訪れ、多くの土楼を見てまわりました(ホテル泊含む追加費用は約20,000円)。永定県だけでも円楼が約300もあり、様々な形の方形土楼(方楼)は約4000あると聞いています。その他、五角楼や八角楼など、そのバリエーションの豊富さも特筆すべきで、土楼の多くが外敵侵入に備えた城塞の役割を果たしているようですが良く理解できます。・・・これは「福建省のカSPA街道」ではないかと錯覚するような風景と幾つも見えます。

真冬でも比較的過ごしやすいこの華南地方での、こんな風景を眺めて廻るのも一興かと思って記しました。廈門の海鮮料理も美味しいうえ、大変リーズナブルな料金で満足されるでしょう。厦門市対岸のコロンス島は租界時代からの歴史的欧風建築(旧日本領事館含む)が建ち並び、早朝の散歩も印象深いものでした。

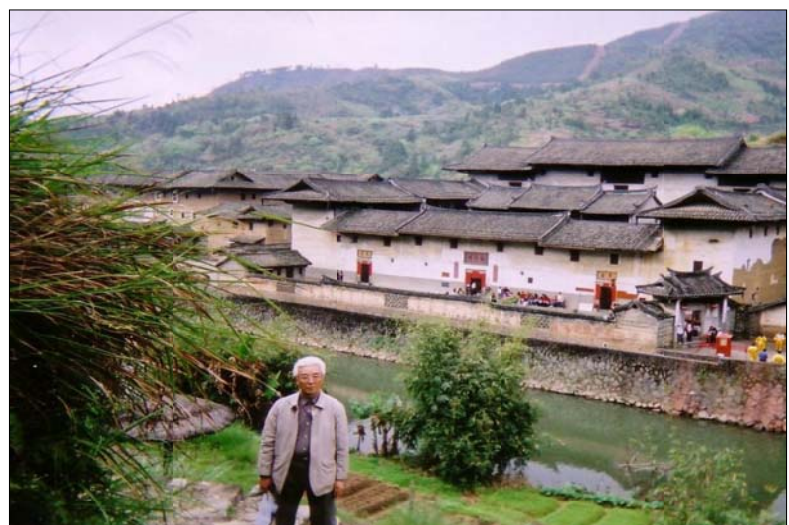


写真4 土楼と筆者



# ミャンマー短期旅行

関東支部 No.1092 久野 允義

ミャンマーに急に行こうと思い立ったのは二つの理由があったからです。一つはタイの観光ビザの滞在可能日数が60日で、一旦近隣諸国に出れば自動的にあと30日の滞在ビザがもらえる為と、もう一つは、昔パキスタンに駐在していた時に現地で知り合った元軍人から血染めの日章旗を見せられた事によります。

このことについて補足説明をしなければならぬのですが、昔はビルマと言われていたこの国で日本軍が英国軍と戦い、19万人もの日本人が亡くなっております。

この日章旗は、要衝に有った三角形の形状をした日本軍機関銃陣地で戦死した日本人が身に付けていたものでした。ただ、詳しく話を聞くと、その実態は実に凄惨なものでした。日本軍陣地が山の上に有ったため、英国軍も攻めあぐねて、当時植民地であったパキスタン軍に攻撃命令が出たのです。パキスタン軍は英国軍より勇敢であるということを誇示したいが為に、相当無理をして攻めたそうです。地理的に不利な条件のため、パキスタン軍にも多大な犠牲者が出てしまい、何とか遮二無二攻めてやっとの思いで陣地を確保したそうです。陣地に居た日本人は負傷者も含めて全員が降伏したものの、パキスタン軍は、自軍の犠牲が大きかったこともあり、降伏した日本人を全員撲殺してしまったのです。

その話を伺った後、せめて家族にその日章旗を返してやってくれませんか？と懇願したところ、気持ちよく返してくれたのです。

ところが、読売新聞に掲載しても、外務省に調べてもらっても、20名以上の鮮明な名前が書いてあるにも関わらず、出身家族が分からなかったのです。仕方なく日章旗は靖国神社に預けましたが、その事がずっと心の中では気になっていたのです。

私より20年ほど前に生まれたため、前途有

為な大勢の若者が望みもしない灼熱のビルマまで送られ、無残な戦死を遂げたのです。遺骨も祖国に帰ることなく、遺族も、息子はどこでどの様に亡くなったのかも知らないままに今日まで放置されてきたのです。

南国暮らしの会の会員である私達は、LSの適地にはフィリピンが良いかタイが良いか？等と、見方によってはご安気なことを言いながら、海外長期滞在を楽しんでいるのです。生まれた時代が悪かったでは済まされない、重く悲惨な過去の歴史を乗り越えて、今日の平和な日本があるのだと思うと、先人たちの尊い犠牲に対して深い哀悼の意を表さずにはおれません。

3月1日 チェンマイ空港よりマンガレー航空の双発レシプロ機にてマンガレーへ、

但し出発は一時間半遅れる。(折り返し便が来ない為待つしかなし)

マンガレーは大阪の様に古く大きな町です。市の中心部にはチェンマイと同じようなお堀で囲まれた大きな城跡があります。そのサイズはチェンマイが一辺2キロであるのにこちらはもっとあるようにも思えたし、堀の幅もチェンマイの何倍もありました。

昔のビルマはタイより豊かな強国で、タイ国はビルマによって何回も侵略された歴史があります。しかしながら現在のミャンマーは、タイに比べてはるかに生活水準が低く、電気も殆ど停電ばかりで、一日のうちほんの数時間しか来ないし、タイと同じ僧侶の服を着た人が物乞いをしている姿も散見されます(タイでは絶対にありえない)。ゴミ捨て場をあさっている人も何度も見かけました。驚いたのは100ドルを両替すると札束が二つになりとても財布には入らず、いつも膨らんだカバンを持って歩かないとならないと言うことで、お札も色んな人のつばがついた汚いものばかりでした。また走って



いる車は驚くほど古いものや、耕運機を改造して車にしたものなどでした。

私は調べたいことがあったのでマンダレーを訪れましたが、マンダレーは魅力的な観光スポットもなく、再度訪問したいところではありませんでした。（但し郊外の寺院めぐりをするなら別です）

3月6日ヤンゴンへ移動。

ヤンゴンは首都だけに広いし活気に満ちています。しかしここに住む人間にはマンダレーに比べ油断のならない輩が多く見受けられました。特に注意をしなければならないのが、アウンサンマーケットである。現在軟禁されているスーチーさんのお爺さんのアウンサン将軍の名前を取って作られたマーケットで、ガイドブックにも書かれているので大抵の外人が訪れる所です。そこでの出来事を紹介します。ござっぱりした格好の人が優しくそうな顔をして近づいて来ます。そこそこの日本語を話すので、適当にあわしているといつまでも付いて来るのです。「ガイドはいらない!」と言っても、「時間があるから心配しないでいいです」などと言うのでそのままにしていると、実は私がみやげ物を買うたびに、現地語で店の人に「私はガイドだ」と言っている様なんです（この国のシステムとしてガイドにはペイバックを20%する事になっている）。何となく胡散臭さを感じたので「うるさいから帰れ!」と強くいうと、やっとその場を離れました。後で店員に聞いてみると、そういう事が分かったのです（ミャンマー語で言っ



これはマンダレーの交通事情！  
右にある小型車はダイハツの40～50年ぐらい前のモデル

いるので何を言っているか分からなかったのです。ペイバック分が追加されるので高い買い物をする事になります）。

\*日本語を喋ってくる輩には注意が必要です。（この国は元英国の植民地であった為大抵の人が英語をしゃべります）

(Shwedagon Pagoda)寺院は東洋一と言われるだけあって確かに立派で見ごたえはあります。（この寺院は一見の価値はあります）。

また、河の中にある（Kyaik Hmaw Wun Ye Lai Pagoda）と言う寺院も、船で渡って見るので面白いかもしれません。ただ特に寺院に興味を持っている人以外は見るべきものも無いので退屈するに違いありません。

キャバレーも日本には無い楽しみを得ることが出来ます。個人的な見解としては、この国は国として機能していないと思えるし、食事もタイに比べるとずっと落ちるし、変なものを見たい! とか寺院めぐりをしたい! という人以外は、あまり来ることをお勧め出来る国ではありませんね。

編集後記：ビルマでお預かりした日章旗の持ち主は、どうやら香川県の連隊か京都の連隊ではないかということが分かりましたので、戦友会に問い合わせるつもりです。

正式に政府に聞いたわけでは有りませんが、ロングステイビザは発行されていない様なので短期の観光でしか来ることは出来ないようです。{注}ヤンゴンで走っている新しい車の大部分は盗難車であるとも言われています。



これも立派な交通機関であるバスである



左側がお城の中側でお堀の幅の広さが良く分かる



殆どが少年で毎朝食事を貰って歩いている



女性や子供がある種の木の樹脂を顔に塗っている



これがミャンマーの国際線の飛行機

以下はシェダゴンパゴダの寺院の中の風景。この仏塔は金箔が貼られているとの説明であったが、これだけの大きさだから金も相当な量になるのではないかとと思われる





# 第17回 シヌログの祭り(セブ)を見学して

関東支部 No.3 池田 徳三郎

祭りの好きな日本人は宗教を越えて、祭りに大いなる興味を持つ。日本列島を縦断すると数え切れないほどの祭が毎日何処かで1つや2つ賑々しく開催され、祭りを楽しんでいる。「祭りイベントガイド365日」によると、祭りの数は約1万、イベントを含むと12千件と言われている。ふるさとの郷愁が都市でも開催されている。

フィリピンも数千の祭りが、毎日何処かで行われ、祭り愛好の国である。そのうち、ある人は、世界の祭り(33件選)のなかで、比国の「アティアティハン」と「シヌログ」の祭り2つを紹介している。比国観光省の旅行代理店用のパンフでは、この2つの祭りを含め代表的な15の祭りを紹介している。シヌログ(Sinulog)の祭りは比国を代表する世界的祭りであろう。

## (シヌログ祭りの変遷)

1521年にスペインがカソリックを比国に始めて伝道した地はセブと言われ、この地から全国に普及し、アジア唯一のカソリック国となった。セブの「サントニーニョ教会」は宗教的、歴史的、伝統的にビサイア地域全域で格別の重みがあり、その教会に安置してあるサントニーニョ(Sento Niño、幼きイエス)像はファイアミラクルス伝説とその厚い信仰を受け継いで、450年以上経て比国全土に広がった。そのサントニーニョ崇拝の長い信仰の変遷が「シヌログ」祭りとして長い伝統を承継してきたのでしよう。

その後、セブ市長・カスタムコミッションのトップ等が提案し、ビサイア全域の祭りとして町おこし、観光目的等の為に復活した。それから今年「17回目のシヌログの祭り」を大々的に迎えることになった。

## (パレードの様子)

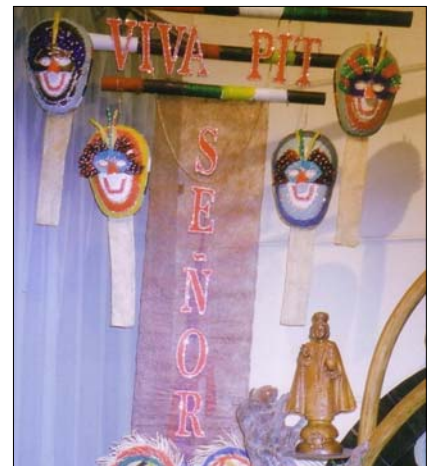
「サントニーニョ教会」からメイン会場(オスメニアサークル)までの伝統的ダンスパレードのための道路は車両の進入禁止で、路上には各社のカラフルな小旗広告が道路を跨いで延々と連なる。祭りのダンスパレードの見学者は歩道で早くから待機して見学する。たまたまダンスパレード参加グループが待機していたが、カメラを向けると気軽にある種の誇りをもって素敵な衣装に合わせたポーズで応じてくれた。参加者は選ばれた事に高い誇りと強い感動をもっており、長い月日の練習に耐えてきた事が言動で感じられた。

マクタンからの見学のため、早朝ホテルを出かけたが、メイン会場までの路上は人・人で溢れ、沢山のひとと車の為に途中で諦めざるをえなかった。

## (ホテル・町の様子と報道)

定宿のセブグランドホテルはパレードコースの道路の近くにあるが、満室で宿泊できない為、

その間マクタンで宿泊し、22日から同ホテルに宿泊した。ホテルの入り口、食堂などには小さいセ



ホテル内の祭りの飾り  
(Sento Niñoのデプリカ)

ブの守護神「サントニーニョ」のデプリカを軸に独自のマスクと共に飾り付け、祭りを祝福し、盛り上げていた。それは各ホテルとも同じで、それぞれ特徴ある飾り付けが見られた。

ホテルの部屋代はいつも約30%増と高騰していた。

セブの町は1月12日～23日の間、祭りの準備で大変忙しい。短期間住んだ事のある近くのアイアラセンターとその周辺では、多くのイベントが毎日開かれていた。

前記のサントニーニョの特別展示(12～21日)を初め、ミスセブ嬢の生放送(18日)、音楽祭・花火大会 各21日、全店あげての特別セールス等が祭りを盛り上げ、期間中は客寄せと呼び込みに大奮であった。

そして、祭りのクライマックスは21日に行われたパレード及びメイン会場で行われるグループダンスの競演です。TVはそれらの様子をその日のニュースで全国に放映したが、特にメイン会場での素晴らしいグループダンスの熱演の様子を長時間にわたり放映した番組もあった。

翌朝、セブの各地元新聞は「世界的祭り」見出しで、グループダンスの入賞候補の1部をカラー写真入りで大きく報道した。

## 審査会場(セブスポーツセンター)

### の催しと報道

翌日、「セブスポーツセンターの審査会場」近くまでタクシーで行く。会場近くは入場待ちの人で溢れており、人をかき分けての入場。入場時に、友人のご好意により入手したゲストシートを示すと腕にスタンプを押され、驚いた。

会場は茶色のレースコーナーのすぐ内側の緑の芝生に接して巨大なステージが仮設され、茶

色のレースコーナーの手前側にテント(正副市長、審査員等)が仮設され、その後方のスタンドがゲストシートであった。全体が良く見渡せる位置にあり、いづこの観覧席も満員であった。13時開演、30分以上の事前説明後、ピサイア地域の各市町の代表、国立学校の代表等10数チームの競演が開始された。

いづれの出場チームも前日のメイン会場で選ばれた荣誉あるダンシングチームである。

各1チームの参加総数は凡そ100名～150名前後、いづれも独創的で華麗な衣装を付けたダンス担当、強烈なリズム担当の楽隊、背景飾り・会場飾り・演技飾りと急変するプレート担当、担ぎ担当等に分担され、各担当が一体となって、早いテンポの強烈なリズムに合わせ、飛龍・走虎の如く、ある時は蝶群の乱舞の如く、ある時は夕空に映えた数百の飛鳥の華麗な流れの如く、それぞれ大胆で豪華絢爛、強烈な旋律、訓練された素早い動きで、各グループ10分前後の素晴らしい競演が続いた。

ダンスの競演の途中、がらりと急変した華麗な舞台の演出のなかで、小さなサントニーニョを手にしたシヌログ祭りのクイン嬢が3人の候補の中から大歓声の渦巻くなかで発表された。感動の瞬間である。

次いで、第17回シヌログ祭りの最大の荣誉に輝くダンシングチーム一位 トロフィーと副賞100万ペソの発表は盛大な拍手で打ち消されるほどであった。さらに各入賞者の発表が次々とあり、それぞれトロフィーと賞金が審査委員長からチーム代表に授与された。



会場の全体のビュー



シヌログ祭り、審査会場の舞台





ダンシングチームの舞台外の熱演（審査会場にて）

ローカルTVはその日の審査会場（セブスポーツセンター）の様子をニュースその他で放映した。翌日の新聞 サンスター、ザフリーマンなどはシヌログ祭りのクイン嬢の美しいアップ写真とその経歴等を1面に掲載するほか、ダンシングチームの1位～3位その他の各入賞ダンシングチームのスナップ写真をカラーで掲載した。

比国を代表するシヌログの祭り（仮面をつけない）が今後も世界の祭りに発展するよう祈りながら、出来れば日本その他の国からも多くが参加し、国際交流に役立つ祭りとなることを夢見ている。

### （仮面をつけた祭りを見学して）

ネグロス島（セブ島の西隣）の最大の都市であるバコロド（Bacolod,西ネグロスの州都、砂糖の首都）では年に1度の盛大な仮面を付けた伝統的祭り（10月）がある。

祭りの最終日、バコロド（人口約40万人弱）で市主催の盛大な「第27回マスカラヘステバル」（The27th MassKara Festival）が昨年10月22日に開催され、参加する機会があった。チーム毎に毎年変わる独創的なマスクを付けての熱狂的な祭りである。

パレードコースからメイン会場までダンシングチームはマスク（仮面）を付けて練り歩く。メイン会場では入賞チームの発表もある。街角には大小のマスク、土産用のマスク等が売られていた。

これに対しシヌログの祭りではマスクをつけ

ていないが、参加チームの数の差、リズム・変化の速さ、豪華な衣装、振り付、演出効果、賞金額の差、全体のスケールの大きさ、観客数では上回るように思われた。

その他の祭りとして、バナイ島（セブ島の西側）の北に位置するカリボ（Kalibo）

の町にはシヌログの祭りと同様に並べるほど著名な巻頭の「アティアティハン」の祭り、その東側の町口ハス（Roxas）ではハララン祭り（前者と比較にならないが）、そして同島最大の港町イロイロ（Iloilo）にはディ



第27回マスカラヘステバルの独創的なマスク

ナギヤンの祭り（1月）等はいずれも体中黒塗りで街を練り歩く祭りもある。



第27回マスカラヘステバルの独創的なダンス

# 海南島視察旅行日記

関東支部 No.434 大野 悦子

関東支部の3月のサロン会の折、今回のツアーの発起人の今野さんから「海南島へ行こうと計画しているのだけれど、一緒に行きませんか？」と、お誘いがありました。

現在、「南の会」では、ペナン、チェンマイ、セブが人気を集めており、また、昨年12月にハワイ支部も誕生し、注目を集めそうですが、他には・・と、思っておりましたので、すぐ、参加させてもらうことに致しました。

1ヶ月のうちに、メンバーが集まり、総勢15名で出掛けることとなりました。

今回のメンバーは、次のとおりです。

No.670 今野 力男・典子夫妻 No.281 梶村 真一・村松 幸子夫妻 No.342 佐藤 勝・サツキ夫妻 No.712 高田 勝弘さんとその友人 No.810 田子 初美さん No.987 外山 實さん No.1106 中牟田 登・富美子夫妻 No.1125 佐々木 一信さん No.1192 清水 秀和さん No.434 大野 悦子

## 5月8日(火) 晴れ

12:20に成田空港第2ターミナルのGカウンター前に集合。14:20発の中国南方航空CZ-386便で広州へ。現在、海南島の三亜へは、成田からは直行便がなく(チャーター便はあるようです)、今年10月、成田から定期の直行便が就航されるそうです。

4時間半ほどで、広州白雲国際空港に到着、夕食は、三亜への機内に出るのですが、乗り継ぎ時間が3時間半ほどあるので、急遽、空港のすぐ前にある、「珈琲便利屋」という名前のレストランで、中華料理のコース料理を頂きました。

その後、21:40発のCZ-6734便で、三亜へ。22:50着。ホテルへ着いたのは、夜中の12時近くになりました。埼玉日高市在住の私は、朝、8:50頃、家を出ましたので、

疲れ果て、すぐ寝てしまいました。

滞在ホテルは、三亜銀泰大酒店(Resort Intime Hotel Sanya)です。

## 5月9日(水) 晴れ

リゾート・インタイム・ホテルは、4つ星クラスのホテルで、A・B・Cの3棟があり、朝食にレストランに行ったところ、ロシア人が、大勢滞在していました。ガーデン・テラスの席で頂きました。バイキング・スタイルで、西洋料理だけでなく、中華料理もあり、良かったのですが、コーヒーなどが熱くなくて残念でした。

今日は、全員で市内観光と、今回の目的の一つでもある、ロングステイする為のコンドミニアムの視察です。

最初は、鹿回頭公園へ。バスから降りて、山頂までは、歩いて15分ほどで、暑かったですが、見晴らしも良く、三亜湾や南シナ海や市街地が良く見えました。

次は、天涯海角風景區へ。三亜湾の西の馬嶺山麓にあるビーチで、公園ゲートから「天涯海角」と、彫られた岩までは、1kmほど歩きましたが、海が綺麗なブルーで、砂浜は白くて美しかったです。「天涯」の文字は、清の時代の崖州の役人だった程哲が記したとされています。唐・宋代にこの地に流刑された人々を思い浮かべながら読んだそうです。「天涯孤独」の「天涯」は、ここが由来だそうです。

そして、「南山大小洞天旅遊区」へ。南山仏教文化苑と名付けられた中国仏教に関するさまざまな展示がなされたテーマパークとなっています。広大な敷地で、その一角に鑑真和上が難破してたどり着いた地点として知られる「南山大小洞天」や南山寺があります。

電気で走る観覧バスで移動しながら見学しました。昼食は、この苑内にある精進料理のレストランで頂きました。味付けもよく工夫して料





理されておりました。

この後は、市内に戻り、今回の最大の目的である、コンドミニアムの見学に出掛けました。海沿いにあり、ロケーションも抜群で、しかも、市街地でもあり、近くには、銀行や病院もあり、便利なところでした。3～4部屋を見学しました。最初の部屋は、2LDKで、1ヶ月、5万円でした。

ホテル・コンドは、朝食付きで2ベッドルーム+Lで、1泊380元(約6,000円)1Lでは、230元だそうです。(Tianze Beach Resort)

ホテル式でない、普通のコンドミニウムは、ハイシーズン(9月～3月)だと1ヶ月で2,500元(約4万円)で、買う場合は、75㎡で1,000万円が相場だそうです。

この他に、村松さんが翌日に調べて下さったのですが、現在、売出し中のコンドミニウム、「Golden Palace, Sea Waves Pavilion」は、9,000元/㎡だそうです。3LDKタイプのは78.43㎡あり約1,150万円、2LD



K(64.59㎡)で、約930万円など、4タイプのパンフレットを手に入れました。

夜は、日本語が話せるアシスタント・ガイド達との交流の夕食会でした。ロングステイで来た時に、お手伝いして下さるそうです。

## 5月10日(木) 晴れ

今日は、自由行動の日で、ゴルフ組、市内観光組、ホテルに居残り組に別れて行動しました。

ゴルフ組は、朝、8:10にホテルを出発。紅峡谷GC(Sun Valley Sanya Golf Resort)にて、5名(今野、高田、梶村、佐藤、佐々木の男性陣)で、他のプレーヤーは数名で、ほとんど、貸切状態だったそうです。1組4名迄との事で3名、2名の2組でプレーされたそうです。フェア・ウェイやグリーンの手入れも良く、キャディの教育も良く(多少日本語話す)申し分なかったそうです。

料金は、グリーン・フィー&キャディフィー込み720元(1元=約16円)カート(プレーヤー2名で1台)&保険125元チップ50元 その他 貸しクラブ1セット150元。

今回は、5名で1ラウンドで、一人20,000円弱だったそうです。このゴルフ場は、中間クラスだそうです。ゴルフ場により1年間限定メンバー制があるとの事。メンバー・フィー5,000円で、特典 13回までグリーン・フィーが無料、その後は、1回500元 練習場無料 以上です。

市内観光組(村松、田子、佐藤(サ)、今野(典)、中牟田夫妻、外山、大野)は、まず「海南福来多百貨店」へ、1時間ほど見学とショッピングをしました。女性陣は、お茶の専門店コーナーで、試飲をしてから、お土産に購入しようとしたところ、何種類か飲んでの比較で、気に入ったのより高いのを包もうとしたので、中止させたら、ふくれっ面して、注文した方を包み始めました。中国は、サービス精神が足りないと感じました。

スマイルが足りないです(高いのを買ってくれたほうが、良いお客かもしれませんが)。

その後、亜龍湾地区にある高級リゾートホテ

ル（5つ星）の見学に出掛けました。（最初の計画では、2泊をリゾート・イン・タイム・ホテル、あとの2泊は、高級ホテルで、という案も出ましたが、荷物の出し入れが面倒だから、4連泊のほうが楽だからということになり、ゆっくり出来て正解でした）。まずは、シェラトン・ホテルを見学、ロビーの奥の喫茶フロアでマンゴージュース（60元もして、びっくり）を頂きながら、ゆっくりくつろぎ、その後、ガーデンを散策して記念撮影！！次に、ヒルトン・ホテルのロビーだけ見学して終わりにしました。

三亜市内に戻り、東北地方（ハルピン）の料理店で昼食をとりました。8品目位にビール3本付き、8名で1人40元でした。シェラトンのマンゴージュースより安かった。

それから、野菜や果物など、食料品の市場を見学しながら、次の目的のマッサージ店へ向かいました。中牟田夫妻は、全身をということで別室へ、残りの6人は、大きな部屋へ通され、リクライニング・チェアがずらりと並んでおりました。足だけの人と、足と肩に別れましたが、同じペースにする為、全員、まずは、足湯につき、肩もする人は、その間に肩をマッサージしてもらいました。

足湯につかって体が温まり、肩凝りもほぐれ、リクライニング・シートに移り、足のマッサージになり、うっとりしていると、どこからか「ゲーゲー」と、いびきが聞こえて来ました。誰かしら？と、思ったら、外山さんでした。外山さんは、今回のツアーの添乗員役をして下さっていたので、お疲れが出たようでした。私の担当のマッサージ師は、とても丁寧で痛くなくて上手でした。1時間で終わりました。

夜は、ホテルから歩いてすぐの4つ星クラスのホテル「REDEZVOUS-BAOHONG-HOTEL-SANYA」の中華レストランで夕食でした。ここで飲んだ「紹興酒」が、五日間の内で一番、美味しかった。市内観光組のこの日のツアー代金は、1人、4,000円でした。

## 5月11日（金） 晴れ

今日も自由行動の日で、三亜蠟支洲島へ観光

組（今野夫妻、佐藤夫妻、高田、佐々木、田子、外山、大野）と、ホテル周辺の散策組とに別れて行動しました。

島への観光組は、ホテルを9:10ごろ出発。バスで、亜龍湾の東にある港まで1時間程で着き、そこから船に乗って、15分ほどでした。新しい船で綺麗で快適でした。この島は、軍の施設があった所で、美しい島でした。シュノーケリング、スキューバー・ダイビング、水上スキー、水泳など、様々なマリンスポーツが出来ます。しかし、料金が割高でしたので、島の東側のビーチで泳ぐことにしました。船着場から歩いて10分ほどで、砂浜は白く、海水も透明度が高くて綺麗でした。しかし、あまり遠浅ではないので、遊泳地区がロープで区切られておりました。更衣室やシャワーが有料でしたので、皆さん節約して天然乾燥させ、上手く物陰で着替えておりました。

一時間半ほど過ごした後、島のレストランは、値段が高いため、三亜市内に戻り、飲茶料理のレストランで昼食を頂きました。1人25元（約400円）でした。この後は、お土産にお茶を買いたいと云う事で、お茶の工場に寄り、試飲をする前にデモンストレーション（注ぎ口が1mほどあるジョーロのようなものにお茶を入れ、男女2人で、くるくる振り回してから茶碗に注ぐ）を見ました。日本でも、5月の初めに新茶の季節で、中国から来た催し物の紹介がNHKのTVであり、これと全く同じことをやっておりました。

その後は、ホテルに戻り、夕食までは、時間がありましてし、水着も下に着ておりましたの





でホテルの前の海で泳ごうと思いましたが、あまり綺麗ではなかったので、プールで泳ぎました。

夕食は、全員で、ホテルから歩いて10分ほどの中華レストランで夕食。海南島の地元料理ということで、海老や蟹などのシーフードがメインでした。

今日のオプショナル・ツアー代金（島への観光組）は、1人、4,000円でした。

## 5月12日（土） 晴れ

今日は、広州へ移動の日で、5:30に起床し、荷物のパッキングをして、7:00に朝食を食べにダイニング（今朝も外のテラスで）へ出掛けました。その後、各々、チェックアウトをして、8:00にロビーに集合。10分ほどで出発し、空港へは25分ほどで到着。三亚と広州間は、現在、週71便就航されていて、所要時間は、1時間10分です。9:30発、CZ-6307便で広州へ。

10:40ごろ広州に到着。荷物を受け取り、迎えに来ているバスへ乗り込んだところで、ちょっとしたパブニング！！中牟田夫妻がいなくてビックリ、到着ロビーから下へ降りる時に、エスカレーター組とエレベーター組に別れたところで、エレベーター組が遅れて来ているのに気づけなかったのです。ガイドさんと外山さんが捜しに行って下さり、ほどなくして（20分ほど）皆さん揃い、出発しました。そんな訳で、予定を変更し、一旦、今夜泊まるホテルへ行って、大きい荷物を置いてから、市内観光に出掛けることになりました。（明日の朝、日本へ帰る便が早い為、空港の敷地内のホテルにしたので、市内と離れている。4時ごろチェック・インしてからまた、市内へ夕食を食べに行くのが大変だということでした。）

まず向かったのは、12時過ぎておりましたので、飲茶のレストランでした。さすが、広州で、海南島のレストランより美味しかったです。お腹もいっぱいになったところで、名所巡りに向かいました。

最初は、「陳氏書院」へ。清の光緒16年～

20年（1890～1894年）に、当時の広州72県の陳姓の人々が、お金を出しあって建立した一族のお寺と書院。ここで一族子弟の教育も行ったそうで、中国で最も保存状態の良い南方様式の建築物で、飾り瓦が美しかったです。

次は、「西漢南越王博物館」へ。1983年に偶然、前漢時代の南越国第2代王「文帝」の石室墓が発見され、現在、王墓の石室が公開されています。出土品も多く、特に有名なのが「玉衣」で、1191枚の玉片（翡翠）と赤いシルクの糸で作られた衣装で、埋葬された王の全身がこれで覆われていた。

私達のグループを担当してくれたこの博物館の学芸員が、日本語が堪能で、説明が上手く、よく理解出来ました。陶器の説明のとき、「日本のTV番組の何でも鑑定団で、これは、中国で買って来て本物だとか、骨董品店で掘り出し物でなかなか手に入らない物だといった品物が偽物だったというのは、当たり前、本物は、ここにあります」。中嶋誠之助のことも知っていました。中国政府が本物だという、お墨付きの印が入った品物を見せて説明しておりました。そして、最後に「落ち」があり、黒檀の戸棚の中に、翡翠で出来た器や陶器製の香炉や帽子置き（花瓶に似ている）など7～8点あり、「これを戸棚に入れて今なら250万円で売ります。日本への送料も含まれています。支払いは、自宅に着いて、壊れていないかの確認をしてからでいいです。お買い得です。いかがですか？」と、きました。

博物館で商売？ 何だか今まで聞いたのは、本当かしら？ 本物の印だの中国政府が発行した許可書も本当かしら？と、疑いを持ったのは、私だけでしょうか？

最後に、「中山記念堂」へ。台湾へは行ったことがあります。中国本土は、初めてでした。団体客でいっぱいでしたので建物の中の見学は出来ず、外の庭だけ見て歩き、孫文の銅像の前で全員で記念撮影となりました。

夕食は、上下九路にある老舗レストランで頂きました。さすが、「食は、広州にあり」で、海南島のレストランより美味しかったです。そ

の後、街中を30分ほど散策してからホテルに戻りました。

### 5月13日(日) 晴れ

今日は、日本へ戻る日。5:00に起床。身支度を整え、荷物のパッキングをして廊下へ出し、チェックアウトを終え、6:30にロビーに集合しました。飛行場の敷地内にあるので、朝早くても楽でした。8:15発のCZ-385便で、成田へ。予定よりも早く、13:00に無事、成田国際空港に到着しました。その後、皆さんと、軽い昼食のミニ・サロン会をした後、解散致しました。

今回のツアー代金は、5泊6日間(空港使用料、海外空港税、国際航空保険料、オイルチャージ含む)で、118,410円でした。(オプション・ツアー代金は、別記)

今回、海南島滞在の感想ですが、ロングステイするには、未だ総合的には、適していないと思いました。住居や町での移動費用(市内は、タクシーは、市内なら5~6元、バスは、市内は2路、4路は、1律1元、亜龍湾行き5元)は、安くて合格。気候、大気環境、交通、治安も良く、これも合格。病院は、今回は、皆、元気で過ごしましたので、調査出来ませんでした。無事で、良かったです。問題は、滞在中のレジャー費用が日本より高い点です(ゴルフ、マリンスポーツ)。

最後に、今回のツアーを企画して下さった今野さんをはじめ、ご一緒してくださった方々に、楽しく無事に過ごす事ができましたことを感謝申しあげまして、私の拙い旅行記を終わらせて頂きます。

## コタキナバル滞在情報(医療編)

関東支部 No.1134 亀山 京子

### コタキナバル市の病院事情

コタキナバル市に、高度設備のある私立病院サバメディカルセンターがある。

TEL 088-211-333 FAX 088-272-622

URL: <http://www.sabah.org.my/smc/index.asp?frmID=main>

住所: SABAH MEDICAL CENTER

Lorong Bersatu Of Jalan Damal, Luyang 88300 Kota Kinabalu

(日本語対応はないのでホテルの日本人従業員の助けをかりるか、有料の語学サポートを受けるしかない。英語は通じる)。

クレジットカードをみせれば、現金のデポジット(保証金)は要求されないでカードは持っていくこと。また、海外旅行傷害保険証書も忘れずに持っていくこと。保険証書記入用紙は医者へ直接書いてもらう必要があるときもある。

国立病院(Queen Elizabeth病院)もあるが、

患者数多く待たされて、おすすめできない。24時間対応の町の開業医いるがピンきりなので、しっかりした紹介の医者以外おすすめできない。

優秀な欧米帰りの医者は私立病院に多く居るのが事実で設備もよい。日本から比べれば自費でも高額ではないが、海外旅行傷害保険に加入していれば安心。ホテルに呼び寄せると高額に請求されることがあり、医者を選べないので、ホテルから直で良い病院へ車で行ってしまったほうがよい。コタキナバルの町は狭いので市中心から約15-20分で着く。

突然の不幸もある。内陸部の町で自転車に乗っていた60代の日本人男性が転倒し、大腿(だいたい)骨を骨折し、救急車で数時間かけてコタキナバルの病院に搬送したが、手当てが遅れて亡くなったという。ある男性が、コタキナバルを旅行中に持病を急に悪化させ死亡した例もある。サバ州の内陸部に入った場合、高度な病院がないので要注意である。また救急車も簡単

に来ない。町医者に「風邪」と診断され、実は Dengue 熱やマラリアにかかっており、私立大病院へ転院して判明、危うく命とりとめたケースもあるので要注意。

英語が出来ない人で最悪、緊急の場合、携帯電話でKLの日本人優秀通訳スタッフがいる私立病院へ電話かけて対応してもらおう手もある。病状によってはKKの病院から、KLに転送する場合もありえる。医療レベル、設備面でも、KLがベストだからだ。

後述のKLの病院日本人スタッフ連絡先は、記録しておくとい。

## マレーシア医療全般

東南アジアの中では医療、衛生面の水準は高く整備されている国だが、気候、風土ゆえに緊急時のサポート体制は、自身で確認しておくことが肝心。水と食事には常夏マレーシアでは気をつけること。食事は火を通したもの、水は煮沸して飲む、又は市販の水を飲料用に。

マレーシアの医者はイギリス系医術、医道が主流。この国では中国系の最も優秀な医者の卵はイギリスに留学する。あとは成績次第で、オーストラリア、ニュージーランド、アメリカ、日本などに留学する。

マレーシアは医療の分野に官民で力を注いでおり、東南アジアの国の中でシンガポールに次ぐ医療天国と言われる。シンガポールが医療費が極めて高いといわれる中で、マレーシアはメディカル・ツーリズム（医療観光＝健診・治療のための短期ビザ滞在）を観光収入のひとつの柱に育てる狙いで、HSCメディカル・センター（H=Heart 心臓、S=Stroke 梗塞、C=Cancer 癌、の頭文字）がクアラルンプールKLCCに開業した他、ロイヤル・セランゴール・ゴルフ・クラブの向かいに大きな病院を建設中である。

狙いは周辺諸国や中近東の金持ちの顧客であるが、マレーシアの高い医学レベルが注目されていると言う事である。

幸い、マレーシアの医療レベルは国際的にも高いレベルにある。イギリスやシンガポールな

どの大学の医学部で医師免許をとり、博士号をとった医師も大勢いる。多くの医師たちは欧米の最新医療の情報を入手し、必要に応じて研修を受け、自身の医療技術や知識の向上に努めている。検査機器、検査技術は日本の方がはるかに優れているが、日本がいい、マレーシアがいいとは一概にはいえない。例えば、 Dengue 熱やマラリアといったいわゆる熱帯病については、マレーシアの方が絶対的に臨床例が多く、多種多様な症例を熟知した専門医も多く優れている。

海外で生活しているのですから、病気になって「どうしよう?」、「どこの病院に行こう?」、「祭日だけどうしたらいいの?」なんてことになる前に、考えておくべき。

## 病院のシステム

日本の病院と決定的に異なるのは、専門医クリニックは、病院のテナントであるという特色があります。日本では医師、看護師、診療室、検査設備、検査技士も、リハビリ施設も、すべて病院に所属するのに対し、マレーシアの病院では一人ないし複数の医師が独立したクリニックを病院内で経営していることです。

分かりやすくいえば、ショッピングセンターには何十軒という小売店がテナントで入っていて、独自の営業をしており、共用部分をショッピングセンターがもっている。それと同様に、総合病院という大きな建物の中に、十幾つの診療科があり、診療科内には幾つもの専門医の営業するクリニックがテナントとして入っているわけです。

レントゲン室、MRIなどの検査機器や検査技士、手術室やICU（集中治療室）などの治療施設、リハビリ施設、病室、トイレ、食堂などの共用施設や人材は病院自身に属しています。病院内にはホームドクターの紹介のない初診者のための診察室があることもあり、その医師によって病院内の専門医を紹介される。

病院内でかかった費用は一括で請求してくれる病院もあるが、多くは専門医のクリニックでの診察・治療費、薬剤費はクリニックで支払う。

レントゲンなどの検査費用や入院費など共用部分の支払いは病院に支払う仕組みです。

入院を必要とする病気の場合には、個室、二人部屋、大部屋などのランクがある。

サービス内容と料金表とを見て、病室を選択する。また、手術などで入院する場合、入院日数が日本の常識よりもはるかに短い。欧米流の医療関係者の常識と日本のそれとの違いがある。入院する場合、多くの病院では、入院にかかるすべての費用を保証するクレジットカードの提示をもとめられる。旅行保険に加入している人は保険証書を提出する。

日本人の長期滞在者は中国系またはインド系の「留学帰りの医者」についているケースがほとんどであるが、これは現地の医学大学でプミプトラ（マレー人優遇策）のため、卒業試験や資格検定試験で大きな人数枠をマレー系学生に与えるため、結果として合格成績ラインが低くなっている。確かに留学してイギリスなどの開業医資格を取った医者がいるのだから、国際的に通用する医者を選んで診てもらうのが得策だろう。私立の病院などに留学帰りが多いが、一般の開業医にも見つかる。医者は皆どこで資格を取ったかを看板や名刺に書いているから、その地名で判断したらよい。

#### 【日本語対応】

英語ができなくても、診てもらう疾患用語を事前に調べておけばよい。また、事前にインターネットで、その病気の事を調べておくとよい。英語が不自由な場合、ペナンやクアラルンプールと近郊には日本語対応医師や日本人スタッフを用意している病院・クリニックがあるが、残念だが、コタキナバルにはない。携帯でKKから呼び出す手もある。そうすればKKからKLへ転院もスムーズになる。

「KLの日本語対応がしっかりしている病院」  
グレンイーグルス・インタン・メディカル・センター（私立総合病院）

Gleneagles Intan Medical Centre

#### Kuala Lumpur

住所: No. 282 & 286, Jalan Ampang,  
50450 KL.

Tel: +60 (国番号) -3-4257-1300

日本語ホットライン 03-4255-2789 に電話すれば、全て日本語で相談に乗ってくれる。症状を説明して、状況に最も適した専門医を推薦。

#### マレーシア全般で注意すること

犬やサルなどに噛まれることがあります。マレーシアでは野良犬がけっこういますし、野生のサルも見近にいます。飼い犬、飼い猫なら、まず、心配ありませんが、それ以外の動物に噛まれたり、引っかかれると稀に狂犬病に感染することがあります。また、傷口から破傷風菌がはいってしまうこともあります。できるだけ、破傷風と狂犬病の予防注射を受ける方がいいでしょう。野良犬や野生の動物に噛まれたりしたときは、念のために狂犬病ワクチンの接種を受けるべきでしょう。

#### 風邪の症状に似ているデング熱

風邪の症状に似ていますが、発熱が四、五日つづいた場合は、デング熱を心配する方がいいでしょう。血液検査で診断することができます。治療薬はないので対症療法によります。ふだんから健康状態がいい人や、早期に医師の治療を受けた人はほとんど心配ありません。医師の治療も受けずに体力が消耗したまま、この状態がつづく、デング出血熱になり恐れがあります。デング出血熱は重篤な病状になり、生命に危険が及ぶことがあります。早期診断、早期治療が不可欠な病気。

外務省のマレーシアに関する病気のページを参考までに

[http://www.forth.go.jp/tourist/worldinfo/02\\_asia/h10\\_mala.html](http://www.forth.go.jp/tourist/worldinfo/02_asia/h10_mala.html)

#### 「KKコタキナバルの今後の課題」

現地に日本からの高齢者を受け入れる仕組みや機関、「娯楽の場の提供」や「病院の仲介をするような組織」がないので、南の会などの移住



者たちが協力し合ってつくる必要があると想う。「物価が安い」「きれいな景色」の理由だけでは、すぐに飽きる。

特に、語学ができないと、地元人と深くお付き合いするには限界があり、日本人コミュニティ

にのみ生活が固定されることになる。それでも、そういう受け入れ場があれば、語学ができない人は救われるだろう。特に、不動産部門での日本人スタッフの設置、医療通訳の存在もコタキナバルには必要とおもった。

## 「平澤 信 世界を旅する」 アフリカ紀行

### モロッコ編（その四）

関東支部 No.40 平澤 信

（2007年春季号から続く、連載第4回）

#### マラケシュ（毎日がお祭りのよう）

2月21日（金）快晴（毎日快晴ではあるが）。珍しく暖房の良く効く新品同様の高級バスに乗り、いよいよオートアトラス越え。バスは、早朝8時30分発であったため、寝不足でバスの中でウトウトしたら急に吐き気がして眼がさめた。回りの景色は富士山よりも高い雪を頂いた山々が連なるオートアトラスに差し掛かっていた。バスは急カーブを頻繁に曲がるため、私はすっかりバス酔いしてしまった。なぜバスの車掌が、出発時皆にビニール袋を配るのか分からなかった。ゴミ屑入れだと思ったが、実は嘔吐袋だったのだ。地元の人達は盛大にゲーゲーと吐いている。その激しい音と強烈な臭いに誘惑されるように更に大勢が吐く。運転の仕方がとても乱暴に思えた。かくしてバスの中は悪臭で満ち溢れ大パニックに。

アーモンドの花が咲く美しい風景を遠くに眺めながらの旅なのだが、この絶景をめぐる余裕はなかった。一度吐いてしまうと通常楽になるのだが、休憩後も皆で吐いた。私は悪い病気に掛かったかと気を揉んだ。

バスを降りたところで、同乗の日本の女子大生が「オートアトラスは、標高4000メートル以上の高地にある」と教えてくれた。バス酔いの他に高山病でもあったようだ。

それにしても地元の年配女性達の遅しさは凄い。休憩時間にオレンジを木からむっては食

べ、食べてはバスの中で吐くことを繰り返している。乗り物酔いにオレンジが悪いことを、彼女らは知らないようだった。

昼過ぎフナ広場の様子が見えるホテル・アリに入る。170D（2,067円）。ツインで、エアコン、バスタブ、ルーフバルコニー、TV付きの良心的値段。メールもただで使える。

先のバスで気を遣わせてしまった日本の女子大生達に晩ご飯をご馳走しようと思ったら、彼女達は「ご飯よりも、バスタブの中で湯に浸からして欲しい」と言う。

結局、風呂に入れてあげたうえ、晩ご飯も奢る羽目に。まあ、いっか？ こんな可愛い日本女性が2人で安全に旅ができるモロッコはやはり安全な国だと改めて思う。

#### ジャマ・エル・フナ広場

庶民の憩いの場であるマラケシュ名物のフナ広場だ。ジャマ・エル・フナの意味は、「死者たちの集会所」で、もとは公開処刑場であった広場だという。

西の空が茜色に染まると、千平方メートルのフナ広場に魚貝類やシシカバブの屋台が次々に現れる。その臭いと喧騒と煙は広場一体に立ち込め、日本の夏祭りのようだ。屋台を囲むように蛇使い、曲芸師、大道芸人達の芸が始まる。そして、どこからともなくワラワラと人が集まってくる。屋台で働く人達は、片言の日本語で「旨いよ！安いよ！食べてみて！」と声を掛け

て来る。鉄板焼きの魚にトライしてみたが、それほど美味しくも安くもなかった。魚に旨味がない。鮮度が落ちているのだろうか？ 売れ残った大量の肉や魚介類はどうするのだろうか？ 明日又使うのだろうか？

この暑さの中でチト怖い気がする。連日屋台が出て、パフォーマンスは行われるのだが、目を凝らしてみれば、曲芸師や蛇使い達の身なりは貧しく痩せこけていてどこか侘しい。やはり「死者たちの広場」だったからか？ それとも、少し疲れていた私だけが侘しく感じたのか？

### フランス人が庭を造ると...

伝統工芸館、史跡、霊廟、庭園と沢山ある観光スポットの中で、私が敢えて選んだのは、「マジョル庭園」。西洋人の感覚で、モロッコ風に造園したと言われ、椰子、サボテン、竹林の遊歩道と自然を生かした魅惑的な庭園だが、植物群の中から突然鮮やかなスカイブルーの「あずま屋」が現れた時は我が目を疑った。自然と調和していないように思ったからだ。日本人なら、「木造・茅葺き屋根」にして自然との調和を図るに違いないと思った。

だが、これを異文化と言うのだろうか。2時間ほどこの庭を散策している間に、さして違和感がなくなったのも不思議である。

1920年フランス人ジャック・マドレルによってこの庭は造られたとパンフレットに書いてある。当時でも、かなり斬新的な物であったに違いない。

マラケシュは観る所も多く、食べ物も美味しい街で、立ち去り難い思いを残しながら、時間の都合で次の訪問地へ向かった。



### エッサウエラ(モロッコ切っのリゾート地)

2月23日(日)。マラケシュからバスで3時間。「モロッコの人達が、一度は行って見たいと憧れるリゾート地」と言われている街だけに、清潔で、どの位置からも海が眺められ、陶磁器やアートギャラリーも多い文化の香りのする街だ。

リゾート地なので、ホテル代は意外と高い。ホテル・スド(3つ星)は、友人の紹介で、半額近くに値引きされても200DH(2,458円)で安くはないが、かなり設備のいいホテルであった。

この名物は、寄木細工の工芸品や、陶磁器類と言われていて、かなり見事な物もあった。

しかし、エッサウエラに来て座ったレストラン、ラウンジ、ホテルの机・椅子どれ一つとしてガタガタ揺れない物はなかった。机や椅子一つ満足に造れない人達の造った寄木細工は果たして大丈夫か？ 疑問だったので寄木細工は何一つ買わなかった。

多くのホテルが、部屋の窓までしぶきが飛んできそうな位置に建っている。窓を開けておくと、カモメさんがやって来る。ビスケットを置くと食べに来る。間近で見るとカモメは意外と怖い顔をしているのでビスケットを置くのは止めた。窓を閉めてもカモメさん達は立ち去らないばかりか、餌があることを知って数羽が窓枠に停まってバタバタやっている。ヒッチコックの「鳥」を思い出した怖くなった私の方が部屋から逃げ出した。

このホテルの屋上では、各国からの泊り客が海の展望を楽しんでいた。日本映画を研究しているというドイツ人大学院生H(28歳)と、女性の教授先生他数人が、日本映画について私に問掛けてきた。どうせ大した事は聞かれないと思いながら、「日本のどんな映画監督を知っていますか？」と聞くと、小津安二郎、木下恵介、新藤兼人、溝口健二、黒沢明、今村昌平、伊丹万作(十三ではないかと聞いたら、彼はその息子だと言われた)。このくらいは、私も知っている名前だが、次々に出てくる監督の名前は私は殆ど知らなかった。ヤバイ！

誰の作品が好きですか？と質問してみた。即座に返った名前は、小津安二郎であった。

おや、黒沢明ではないの？と思いながら、「小津安二郎のどんな映画を見ましたか？」と聞いてみた。間髪いれずに「東京物語・麦秋・晩春・彼岸花・秋日和...（電子辞書を引きながらの対応）」と言うが、私はいずれの作品も見えていない。しかし、小津監督は、日本の静かなたたずまいや、家族の絆を中心に描かれた日本特有の作品が多いと聞いている。「益々ヤバイ！」何を聞かれても分からない。小津監督の、日本人の心にしみる懐かしい風景や心の有りよう等についてならば幾らでも話せるのだが、こう言う話は私の語学力不足で残念ながら、上手く表現できない。

夕食を一緒にと彼らに誘われたのだが、外国人と話すのはとても疲れるので「胃の具合が悪いので...。」とお断りした。翌朝H君に、「胃の具合はどうですか？」と聞かれた時は冷や汗が出た。齡（よわい）60歳を過ぎて、外国語で心の襷（ひだ）を語れるようになる日が来るのであろうか？

因みに、エッサウエラのレストランで食べた料理の殆どは味が濃く、私の口には合わなかった。高級な店の料理ほど美味しくなかった。エッサウエラの名譽のために付加えれば、庶民的レストランで食べた、いわしの塩焼き等の魚料理は美味だった（日本では馴染みの味と言うことも知れない）。

広い美しい海辺を散歩できる事と、どこことなく華やいだ雰囲気の中にも、モロッコらしさが残っているこの街を私は気に入っている。

## 再びのカサブランカ

2月26日（水）。朝10:40発、地元の人達も乗る路線バスで懐かしいカサブランカへ。美しい海岸線と、この国の穀倉地帯の景色を左右に眺めながら6時間30分の長旅であったが、退屈はしなかった。カサブランカ着午後5時。バス代70DH（860円）昼食付。

モロッコを一回りしている約1か月の間にすっかり春らしく、暖かくなっている。日中街を歩

く時は日陰を選ぶほど陽射しが強い。

お陰で、あんなにお世話になったお気に入りの黄色いジャケットをバスの網棚に忘れてしまった。しかも忘れた事を翌日まで気が付かないゴ粗末さ！ チュニジアでも、モロッコでも手放すことなく着用した。

日本を出るとき、旅の終わりにパリの空港でこのジャケットを捨てて帰ろうと思っていた事をジャケットに悟られたようだ。「お世話になったし、気に入っていたのよ！」と何度もジャケットにお詫びをした。でも「この国の人達は、衣類を捨てるなんて事はしないから、捨った人は、私より大事に着てくれるに違いない。だから私は良いことをしたのだ」そう思う事で腹立たしさが消えた。

では、寒い筈のパリで帰路どうしよう？ 1か月前、カサブランカに到着時に泊まった、ホテル・リアル158DH（1,942円）に行くと、フロントの人達が大歓迎してくれた。出かける前「1か月後ここに戻ってくる」と説明したのに、この人達には全く話（英語）が通じていなかった。

歓待の印であらうか、フロントの人が「一番気に入った部屋を使って構わない」という。お言葉に甘えて、静かで街並みが見える角部屋を所望した。ホテルの従業員が日本人びいきであることを良いことに、従業員用のキッチンまで借りて、市場から紫玉葱を買って来て作った味噌汁とサラダの美味しかったこと。

普段日本では殆ど口にしない味噌汁がこんなに美味しいとは...。乾いたモロッコの気候や、馴れない食べ物の生活に疲れていたのではあろうか？ 因みに、日本へ帰って食べた味噌汁は特別の味ではなかった。異国での埋めがたい日本の食文化を思った。

未知の街を歩くのは楽しいが、勝手知ったカサブランカの街を少しのゆとりを持って散策するのも又格別だ。お気に入りのタジン屋さんか旅をしている間に閉店してしまったと残念に思って繁華街を歩いていると、見覚えのあるギリシャの海運王オナシスそっくりのタジン屋のオヤジさんに会った。お互いに目を丸くした。次に

オナシス氏が走ってきて私を抱きしめてくれた。「よくここが分かったね！」と言っているようであったが、言葉は分からない。彼は「さあさあ、たんとお食べ！今日は何がいいの？」。私は片っ端からタジンの蓋を開けてみて「鳥肉タジン」にした。

時間を掛けてトマトや肉を煮込むと醤油の味がする。日本への郷愁かも知れないと思ったが、煮込んだ野菜と肉の味が実に旨い。一番高い鳥タジンで 25 DH (307 円)。日本の金額からすれば安いと思うが、カサブランカの昼食としては高価な食物で、店内はスーツを着たエリートと思しき人達や、商談の人達が多く、日本の食べ物でいえば「うなぎ？」に相当するのかも知れないと思った。

ホテルへ帰ってこの話をすると、フロントの人達は「非番になったら貴方を連れて行って驚かせて上げようと思っていた…」のだ、と言う。みんな心暖かな人達で居心地が良い。

モロッコへ来る前に抱いていた「油断のない国」と言うイメージとはかなり違う。

因みに、私はモロッコ滞在中の 38 日間、スリ、置き引きなどの不快な被害に 1 度も会わなかった。だから、すっかりモロッコびいきになってしまった。

だが、ひとつ気になったのは、ペテン師まがいの商売をするホテルには小腹が立った。安いホテルでは、日中エレベータを止めたり、暖房は夜 7 時からとか、シャワーのお湯は夜 10 時までと言うようにかなり切り詰めた生活を強いる。

しかも、ガイドブックには、それらの設備が完備していると書いてあるから始末が悪い。

勿論、4 つ星の高級ホテルへ行けば、24 時間電気も暖房も湯水の如く使っているが、清貧の私には、3 か月間 4 つ星ホテルを泊まり歩く財力はない。

一つ書き忘れしました。日本では、ハンフリーボガードとイングリッド・バーグマンの映画でお馴染みの「カサブランカ」と言うアンティークな感じのするバーだが、「ハイエット・ホテ

ル」の中であって、今も観光客には大変人気が高い。だが、この映画の殆どがカサブランカではなく「セット撮影」であったとホテルの人が教えてくれた。何とマァ商売気のない話なこと。でも、そんなパカ正直な人達を私は好きだ。

いろんな国を旅したが、未だモロッコ以上に心に残る体験をしたことがない。団体旅行では決して味わう事のできない、個人旅行の醍醐味はホンと癖になる。

## 帰路パリで過ごした 2 週間の雑感 根負けせずに 4 つ星ホテルを値切る

3 月 1 日 (土)。カサブランカ発 12 : 45 分、パリ着 16 : 50 分。ネオンが滲んで見える小雨降るパリ。カサブランカにジャケットを忘れて後悔したが、パリは数十年ぶりの暖かさで冬物ジャケットは不要であった。

今夜のホテルは、カルチュラタンにある 2 つ星の「マリニャン」と決めていた。何しろ、ノートルダム寺院に歩いて 5 分と言う地の利の良さが気に入っていた。空港バスを降りてタクシーに乗り換え、運転手にホテル名を告げると、彼はそのホテルを「知っている！」と言う。かなり有名なホテルのようだ。

到着したホテルは清潔で、小粋で私好みだ。念のため部屋を見せて頂いたが、文句のありようもない品のよさ。やはりパリは違う！

して「お値段は 40 ユーロ (5,520 円) ですね？」と確認すると、フロントは「400 ユーロ (55,200 円)」だと言っている。多分私の聞き違いだろうとメモ用紙に「40 E R」と書いて渡すと、彼はニッコリ笑って「ノー・マダム 400 E R」と 0 を後ろに 1 つ付けてメモを返す。ガイドブックの 40 E R を見せると、「名前は同じだが、住所が違う」と言う。ホテルに向かう途中、凱旋門が近くに見えるので、不審に思っただけなのだが 10 倍も高いなんて、とんでもない。

だが、ここで物怖じしては女がすたる、「2 週間滞在の予定ですが、どのくらいディスカウントして頂けますか？」ハンサム氏は言った。「OKマダム、日本の方ですね？ 200 E R (27,



600 円) ですか?」と言う。

長旅の経験者なら誰しも思う 5 ~ 7 泊の短期旅行なら豪華ホテルも良い。しかし、1 泊 200 E R (27,600 円) は、14 日間で、2,800 E R (386,400 円)。アジアで 3 か月以上過ごせる金額だ。私は焼けクソで「100 E R (13,800 円) にしてくれませんか? (本当は、この金額でも泊まる気はなかったのだが...)」

勿論、100 E R では彼の方でノー。ハンサム氏は、「雨も降っているし、もう時間も遅い (夜 9 時近かった) から 1 泊だけでもこの値段 (200 E R) で良いですよ」と親切に勧めてくれたが、「27,600 円なんて、とても...」と丁重にお断りして、タクシーを呼んでもらった。

辿りついた目的の「マリニャン」はチェックインが遅い事もあり、40 ユーロ (5,520 円) の部屋はすでに満室で、65 E R (8,970 円) の家族で泊まれる 3 ベッドの部屋しかなかったが、朝食も付く結構良い部屋だった。長旅の帰路で疲れてはいたが、ハンサム氏に根負けしなくて良かった。パリの 4 つ星ホテル (パリに 5 つ星はない) も交渉次第で半額になる事が分かったことは収穫だった。勿論シーズンにもよると思うが。

## パリの路地裏散策

パリは、殆どの人が、一度は訪れた経験をお持ちのことと思うので、ガイド的部分から離れて、独断と偏見で書いてみた。

パリ滞在中に、リオンに住む友人を訪ねたり、成田からの飛行機で一緒だったニース在住の S さんも訪ねようと盛りだくさんの日程を考えていたが、帰路はもう疲れのため、何処へ行く気持ちも起こらなかった。結局、暖かい春の陽射しを浴びて、2 週間の殆どをパリ市内、特に路地裏の散策や気に入った美術館めぐりと、オペラ座のリハーサル見学に明け暮れた。

こんな普段着のパリ滞在こそが疲れを癒してくれたが、パワーがなくなった分、肉体の老化を感じない訳には行かなかった。

シャンゼリ通りには、過去かなりの回数来ているが、凱旋門に登ったのは初めてだ。「おの

ぼりさん」と思われるのが気恥ずかしいからだ。歳を重ね、そう言う見栄を張る気持ちが吹っ切れたのかも知れない。始めてパリに来た時から何と 30 数年の歳月を要した事になる。登って見て驚いた。パリの様子が手にとるように分かる。地図を持っているにしても、これほどハッキリとは分からない。

ホテルへ帰って「いつも変わらない美しい街」とパリを絶賛すると、フロントのピエラさんは、「私達は、このパリを必ずしも良いとは思わない。古くなればいつでも建替えて近代的な街にできる東京が羨ましい。パリでは、内装はともかく外観を替えることはできない」と顔をしかめた。確かに、パリの街中のホテルに住んで見て、手入れは行き届いているものの、設備が何もかも古く、かなり住み難いことが分かる。住宅ならまだしも、オフィスとなると私の感覚では、使い物にならないほどの不便があると思った。

しかし、カルチェラタンのホテルの窓から垣間見えた、庶民の暮らし振りは優雅で、夕食時、どの家族も、こざっぱりと身なりを整え、広々としたリビングに家族が揃って、2 時間近くゆったりと食事をしている。毎日レストランで食事しているように私には見えた。

パリの凱旋門から放射状に走る殆どの小路を散歩してみた。モロッコと違って誰も私に関心を払う者はいない。路地裏でお茶を飲んでいる老婦人の隣で、あたかもこの街の住人のような顔で、一緒にお茶を飲み読書していても、「日本から?」と聞かれた以外、誰も何も言わない。都会では普通の事だが、とても新鮮で清々しく感じた。

## 1 週間に 2 度も見た反日 TV 映画

パリ滞在の後半は、凱旋門から歩いて 5 分のホテル・デス・パピリオンに移った。ホテル代 1 泊 54 E R (7,645 円) 長期のため、かなりの割引があり正規の値段は、90 E R (12,420 円) から 120 E R (16,560 円)。朝食時日本のビジネスマン数人と合ったから、ビジネスホテルなのかも知れない。

宿泊の若者の1人は、日本では有名な製菓会社Lの社員であった。この若者は、フランス人の習慣や考え方、何もかも嫌いだと小気味良く、しかも憎々し気に悪口を言う。フランスに対しては必要以上に傾倒する日本人が多い中であって、中々骨のある奴と好ましく思い、もっとその憎々しい中身の話を聞きたかったが、朝食時間だったので時間切れとなった。

私は、おのぼりさんで、短期間を楽しく過ごすだけのパリだが、ここに住み、仕事ともなれば、計り知れない苦労があるように思った。

客観的に見て、彼の話には、容姿を含む諸々のコンプレックスから来る嘘っぽい面もあったように思う。でもチョコレート豆買い付けの話だけは面白く新鮮であった。

ホテルで、フランス語も分からないのに、夕食後ニュースの後「TV映画」を良く見た。このホテルの滞在はたった7日間なのに、その間に反日的映画を2本も見た。言葉が不自由でも、何故か内容はとてもよく分かった。1本目は、いつの戦いか時代不詳、小汚い日本兵が、何も悪い事をしていない美しい婦女にまで暴行を振るい、野蛮の限りを尽くす。それを、知的で、教養高いフランスのご婦人が、なだめ、賛美歌を歌い、日本兵の歌う「五木の子守唄」を優しく聞いてあげて改心させると言う、時代考証がなされた風もなく、気恥ずかしいような、みずばらしい内容設定だ。

この映画は、日本人を含む東洋人＝無教養な野蛮人。西洋人（白人）＝優れた教養人。この臆面もない認識不足の図式が見えて私には不快な映画だった。

それにしても、この映画に出てくる日本兵は中国語を話していた不思議だ。多分、この内容で出演してくれる日本人はなく、中国人を遣ったのではなからうか？

2本目は、日本の国技たる「相撲」をおちよくった映画だった。超肥満の若いフランス女性が、肥満のため誰からも相手にされない。この彼女が、あるとき町民(?)相撲大会で、優勝して、みんなを見返すと言う。ばかばかしい話だった。若い女性の相撲姿は、何故か日本髪で、

禪(ふんどし)を締めていた。この格好をご想像あれ、身の毛がよだつ格好だ！

文化を誇るフランスのパリで、こんな雑駁な映画を週2回も上映している事に、私は目と耳を疑った。いくら娯楽映画とは言え、このご粗末さと無礼さは、フランス文化の威信にも関わるのではないかと...

フランスの有名政治家でさえ「休まない日本人」と日本人を小ばかにした発言をして罷免されたことは記憶に新しい。「こんな大時代の間違った情報が氾濫しているようでは、逆にフランスに明るい未来はない」と私は1人つぶやいた。「日本民族は、あなた方フランス人が小バカにできるような民族ではないよ！」と、日頃は意識していない私の中の日本人が、ごう然と頭をもたげたのにも驚いた。

先に、L製菓の若者が憎々しげに悪口を言った意味は、こんなフランスの傍若無人さを云いたかったのかも知れないと思った

楽しさと不快さが半々に渦巻いたパリ。華やかで、格調高く魅せられる面も多かったが、畏れるには足りない。

## 旅の終りに思ったこと

'02年3月17日(月)。凱旋門横のバス乗り場からパリドゴール空港へ。90日間の旅を日程通り終えた安堵感と、もう終わってしまったと言う寂しさが、心をよぎる。

日本へ帰る長い飛行時間に、今回訪問したいろんな国々に心を馳せて見た。

未知の世界を知ることは、本当に心が躍る。しかし、私達は遅かれ早かれ必ず帰る所(国)を持っているから、色あせない楽しい旅ができるのではないだろうか？

身も心も捧げるほど気に入り、永住したいほどの国を、私はまだ見つけていない。

# お役立ち情報

2006年夏季号から始めた「お役立ち情報」シリーズです。今回はロングステイ滞在地から1泊泊まり程度までの観光情報を中心に寄稿いただきました。

会員の皆様からロングステイに関するお役立ち情報を随時ご寄稿頂きますようお願いいたします。(編集)

## チェンマイ近郊観光

KKトラベル ジョン(非会員)

### 1日観光コース

#### 1、サファリツアー(AM8:30 - PM5:00)

象のり、象のショー、ラン園、筏下り、牛車乗り、山岳民族村などをミニバスでまわります。タイならではの経験をお楽しみ下さい。(1人1000パーツ)

#### 2、ドイインタノンツアー(AM8:30 - PM5:00)

タイで一番高い山に車にて、登ります。途中、きれいな滝やお寺を見ながら、山頂付近の国立公園へ。とてもきれいな景色をごらんいただけます。(1人1100パーツ)

#### 3、ゴールドトライアングルツアー

(AM7:30 - PM8:00)

タイ、ミャンマー、ラオスと3カ国の国境の交わるゴールドトライアングル地帯へ行き買い物天国のメーサイ、山岳民族村へ行くツアー。1度は行きたいツアーです。

(1人1000パーツ)

以上は車、ドライバー、ガイド、各入場料、ガソリン、昼食付きにて、毎日催行。

### 1泊2日観光コース

#### 1、スコタイ遺跡ツアー

チェンマイから、行ける一番近い世界遺産。遺跡の数々をご覧になれます。

#### 2、北タイツアーチェンライ

北タイの有名な観光地をご案内。雄大なメコン川や、きれいな町並、歴史を感じることが出来ると思います。

1、2共にホテルは3つ星、ミニバスにてご案内。料金とスケジュールは人数に応じて変動しますので、当社まで、お問い合わせ下さい。

### 乗り物代(貸切の場合)

- 1、ミニバス(ドライバー付き) 1日1800パーツ
- 2、メータータクシー 1時間250パーツ
- 3、ソントウ(乗り合いバス) 1日800パーツ

乗り物代は、参考価格です。中には悪い運転手などもありますので、必ず上記の料金ではありません。又、ガソリンは別途支払いとなります。その他、必要な問い合わせがあれば、遠慮なくメール下さい。

チェンマイKKトラベル ジョン

連絡先: cnxtour@yahoo.co.jp

## ペナン島の観光スポット

ペナン支部長 No.1012 木村 まゆみ

**コーンウォーリス砦** 石垣と海を向いた砲台が残る要塞

1786年イギリス人フランシス・ライトが上陸した場所には、木造の砦が築かれたが、1805年に星型をした強固な石造りの要塞に改築された。「コーンウォーリス」とは当時の東インド会社総督の名で、要塞内には事務所・礼拝堂・信号所・軍事警察やインド人傭兵の宿舎などがあったが、現在は石垣の城壁とオランダ製の「スリ・ランバイ」をはじめとする大砲だけが残されている。

今日、この砲台は子宝に恵まれるとされ、マレー人女性のあいだで崇拜の対象となっている。

**セント・ジョージ教会** 東南アジア最古のイギリス国教会

1818年に建てられた白亜の教会で、ペナン島の風景画の連作で知られるロバート・スミスによる設計。

青空にそびえる白い尖塔と円柱が特徴で、教会の手前にはフランシス・ライトの上陸を記念する天蓋がある。ペナン島を代表するイギリス

建築だ。

**スリ・マリアマン寺院** 女神像をまつるヒンドゥ寺院

1883年に建てられたジョージタウン最古のヒンドゥ寺院。入り口のゴープラムには動物や神々の姿が極彩色で描かれ、内部には宝石で飾られた女神マリアマン像がある。

**観音寺** 熱心な信者が参拝する中国寺院

19世紀初頭にペナン島に渡ってきた福建省・広東省の出身者によって建てられた。堂内には観音像がまつられている。

それほど大きな寺院ではないが、次々と信者が訪れ、香華の絶えることがない。御影石で舗装された境内にはハトが群がり、近くには線香や紙銭を売る露天が並び賑わっている。

**寢釈迦仏寺院** 涅槃仏が横たわるタイ仏教寺院

「泰佛寺」と書かれた極彩色の門をくぐると前庭には色鮮やかな龍や猿神像が立っている。

堂内には全長32mの涅槃仏が金箔の衣装をまとい、穏やかな表情で横たわる。その手前には、金箔を貼られた座禅姿の修行僧のミイラが置かれている。自分の体に悪いところがあれば、ミイラのその部分に金箔を貼り付けると治るといふタイの信仰があり、それを信じてこの寺院を訪れる者もいるという。

**ビルマ寺院** ペナン島で最初に建てられた仏教寺院

かつてこのあたりにはビルマ人の集落があり、この寺院は1805年に建立された。その後、幾度かの増築が行われている。入口には2頭の象が置かれ、本堂には高さ10mはある金箔に飾られた釈迦の立像がある。

**ペナン州立モスク** ペナン島最大のモスク

1980年に建てられた島内最大のモスクで、4.5haの敷地を持つ。周囲のヤシの木よりもはるかに背の高い尖塔やドームが見事で、完成までに4年の歳月と5000人の労働力を費やしたといわれている。金曜日には大勢のムスリムが礼拝に集まってくる。

**極楽寺** マレーシア最大級の中国仏教寺院

1890年から約20年の歳月を経て完成した寺

院で、東南アジアでも有数の規模と美しさを誇る。

1930年に造立された、高さ30m、八角7層のパゴダは、基層が中国様式、中層がタイ様式、上部のドームがビルマ様式というように3つの建築様式を融合した構造を持つ。寺院内を拝観するのは無料だが、パゴダに登るにはいくらかのお布施が必要だ。

**ペナン・ヒル** 標高829mの丘は市民憩いの広場

19世紀初頭にペナン島に移住してきたヨーロッパ人の居住地として開発された丘陵。頂上からはジョージタウンやペナン・ブリッジ、よく晴れた日には対岸までも見渡せる。

夜景も人気だ。レストランや小さなバード・パークなどのほか、モスクや中国寺院、ヒンドゥ寺院などもある。ピクニックを楽しむ人の姿も目立つ。

**バタフライ・ファーム** 色とりどりに舞う蝶の楽園

園内には120種、4000羽の蝶がはなたれているほか、珍しい熱帯の昆虫や爬虫類、両生類などが飼育されている。また、蝶や昆虫の標本を展示した資料館などもある。

**ペナン植物園** 家族連れで賑わう自然公園

1884年に造られた30haの自然公園。熱帯の花や樹木のほか、滝、小川などもあり、自然散策を楽しむことができる。また、ここからペナン・ヒルまで約8Kmのハイキングコースもある。

**蛇寺** 毒蛇が棲む中国寺院

不思議な力で病気を治したという道士チョウ・スー・コンをまつるために、1850年に建立された寺院。いつしか毒蛇が棲みつき、神の使いとして崇められるようになった。現在は毒を抜いた毒蛇が飼育されている。

**ペナン博物館** ペナンの歴史を知る貴重な資料を展示

1786年に建てられた学校を改築したもので、入口脇にはフランシス・ライトの像が立つ。館内には、ペナンの歴史を伝える豊富な写真や資料、中国の調度品、絵画などが展示され、とく



に2階には第二次世界大戦の日本軍のペナン州防衛本部の文書や遺留品などが展示され興味深い。

### 「ペナン周辺の観光ツアー」

タクシー 1時間 RM30 ~ RM40  
(1,050円 ~ 1,400円)

バン (運転手付) 1時間 RM40(1400円) ~

#### 1泊2日ツアー

キャメロン 1泊2日ツアー

RM188 (6,580円) / 1人

ホテル + バス + 朝食 + 半日観光

ランカウイ島 1泊2日ツアー

RM503 (17,605円) ~ / 1人

ホテル + 朝食 + ペナン - ランカウイの航空券  
シェラトン・ランカウイ・ビーチ・ホテル・  
パッケージ

RM850(29,750円) / 1人

ホテル + 朝食 + ランチ + ディナー(アルコールは別)

## バギオからの周辺観光案内

バギオ支部長 No.227 斎木 一

バギオは山上の生活都市です。開発後まだ百年少ししか経過していないので、市内にはそれ程見る場所がありません。市内観光は3時間もあれば充分です。タクシーをチャーターして周りでも千ペソ(約3700円)は掛らないでしょう。

定期バス等の市内観光コースも無く、日本語ガイドの付くツアーの募集もありません。人口30万人とは言え、中心地は纏まった小さな町ですから、少しずつ歩いて見物しても楽しめます。

近郊には2つの温泉があって、最近その一つアシン温泉には宿泊施設のあるリゾートもオープンしました。バギオから日帰りか1泊で行ける観光地と言うと、バギオの山を下りて、南シナ海やリングエン湾に面したリゾートや古い街並み、教会等が考えられます。

それらの幾つかをご紹介します。

#### 1、アシン温泉

市内から車で30分程度のアシン(塩)川沿

いの渓谷にある。数軒のリゾートがあり、温泉とは言いながら、プール主体で水着着用が条件。日除けハウスや、バーベキュー等をして終日楽しむ。宿泊施設完備のリゾートも最近オープンしたが、部屋代が高く、町からも近いので日帰りがお勧めのコース。

#### 2、クロンデューク・ホットスプリングス

差し詰め日本なら立ち寄りの湯とでも言うところ。バギオから登山道路ケノンロードを約1時間下ったプログ川の渓流沿いにある。駐車場からは長い吊り橋を渡って行くが、プール、日陰ハウス等設備は完備している。源泉は60度、3つの浴槽の湯温は客が水で薄めて調節する。水着着用。宿泊施設は無い。

#### 3、アゴ

国道のマルコスハイウエーを下りきったバギオからほぼ1時間の場所にある。

スペイン統治時代より早く、中国やアジア諸国との交易で栄えた。日本との関係も深く、戦国時代には数百人の日本人居留区も出来ていた。「ルソン壺」の日本への積出港として歴史のこる。小さいが美しい教会も見どころ。日帰り適地。

#### 4、バウアン

バギオからナギリアン街道を下りきってハイウエーに突き当たったところに広がるビーチで、オーストラリア人サーファーに親しまれている。リゾートやアパートメントハウスも多い。バギオからは約1時間半。ここだけなら日帰りでゆっくり楽しめる。

#### 5、カバ

バウアンとアゴの間地点にあるビーチ、何ヶ所かのリゾートもあり、シーズンは賑わうバウアンを避けて静かに寛ぐ向きにはお勧め。

#### 6、サンファビアン

パンガシナン州最北端に広く広がるビーチを持つ。先の大戦中は日米両軍が上陸した場所でもあり、1995年に戦後50周年記念式典が行われた旧マルコス大統領別邸のホテルの前浜には、日米双方の記念碑・慰霊碑が仲良く肩を並べている。日帰り、1泊どちらでも良い。

#### 7、リングエン

バギオからは車で約3時間、ぎりぎり日帰り可能範囲。太平洋戦争当時の米軍上陸地点の広い砂浜には、オープン形式の戦争記念館もあり、当時のゼロ戦や、米軍戦車等の展示もある。

## 8、ラブラドール・スワル

国立公園でフィリピンの松島とも呼ばれるハンドレッド・アイランドへの途中の町で、いい宿泊施設の無いハンドレッド・アイランド観光時の宿泊場所として、また最近開発された大規模リゾートもあり、注目されている。スワルは今は漁港だが、大戦中は、水上特攻隊の基地としても有名。バギオからは車で4時間半程度。

## 9、ハンドレッド・アイランド

リングエン湾西端に位置する国立公園。その景観からフィリピンの松島とも呼ばれている。最近海の透明度がやや落ちて来ていて、マニラ方面からの観光客が減少傾向にある。島巡りや、無人島へ上陸しての海水浴等が楽しめるが設備は整っているとは言えない。バギオからは片道5時間は掛るので最低1泊は必要。

## 10、ポリナオ

最近ハンドレッド・アイランドに代って、マニラ方面からの観光客が多く訪れている。古い港町で、教会も有名。島巡りの観光船もあり、高級リゾートも続々とオープンしている。ダイブスポットや釣り場としても脚光を浴びている。バギオからは片道6時間、ハンドレッド・アイランド等とのセットのコース。

## 11、マナワグ

有名な教会で、マニラ方面からの参拝が後を絶たない。バギオからはケノンロード経由で車で約1時間半、サンファビアンやリングエンとのセットのコースがいい。

## 12、サン・フェルナンド

ラ・ウニオン州の州都。古い中国寺や海に突き出た半島もあり、落ち着いた町。漁港でもあるので、新鮮な海産物も豊富。パウアンとセットで観光がおすすめ。パウアンとは隣り合わせの場所。バギオから車で2時間程度。

## 13、ピガン

世界遺産に登録された、古いスペイン統治時代の面影が今尚色濃く残る町。イロコス・スー

ル州の州都でもある。ホテルも完備し、バギオからの1泊程度の小旅行の適地。大戦中、町が戦火に焼かれるのを身を持って防いだ日本人将校が世界遺産の登録に貢献した。近くには、世界遺産に登録されたサンタ・マリアの教会もある。素焼きの壺が特産品。

## [観光地へのタクシーチャーター]

バギオから観光地を訪れる場合、バスの便もあるが、観光地を周遊する事等を考えると、バギオからタクシーチャーターややや大型のバンタイプのチャーターも検討すべきでしょう。バギオのタクシーはメーター制ですが、こういう場合は貸切契約をするといいと思います。観光タクシー等無いので個別の交渉になります。

一応の目安として、タクシーは1日2500ペソから、バンタイプ3000~3500ペソ程度を考えておけばいいでしょう。(現在の交換レートは100円=37ペソ程度)

タクシー料金には、貸切代、ガソリン代は含まれますが、有料道路通行料や、運転手の食事、ミリエンダ(10時、3時のおやつ)代は含まれません。宿泊の場合の宿泊費も当然別途加算されます。運転手の宿泊は、依頼人と別の安いところを彼らが探しますから、1泊500ペソ程度考えておけば大丈夫だと思います。

チップは、バギオのタクシーは基本的には不要ですが、食事代、ミリエンダ代は忘れない様にしたいものです。チップは少額でもとても喜ばれます。

バンタイプは通常メーター制ではありません。個人ナンバーのいわば日本での白ナンバー営業ですが、フィリピンではそれが当たり前になっています。

タクシー、バス、マイカーどれをとっても強制保険程度で、日本の貨幣価値に比べれば無いに等しい金額です。日本で旅行保険や、カードで付保される保険に入る等フィリピン国内での交通事故対策は自己責任だと言う事を忘れない様に。

更に詳しい事を知りたい場合は、バギオ支部としての提携会社バギオの「佐藤国際社」や、

マニラの「フレンドシップツアー」のお問い合わせ下さい。

**タイ・マレーシア・フィリピン3国の  
物価比較**

甲信越支部長 No.465 橋本 慧

ロングステイヤーの中には外食中心の食生活に不安を感じて、現地の食材を活用しながら家庭料理も楽しみたいと考えている会員もかなり存在します。そこで今回は現地の食材や日本製の調味料などを中心に、上記3カ国の物価比較を表にまとめてみました。ただし同じ物品でも品質の上下や好みの違いがあるので、厳密な比

較とはいえませんが、大よその参考にさせていただきたいと思います。交通費については国によって現地で日常的に利用する乗り物の種類が違うので割愛しました。また、最大の関心事は居住費だと思いますが、会員が平均的に賃借するコンドミニアム等の部屋数や広さが国によってかなり違いますし、18年度の夏季号、秋季号の[お役立ち情報]に掲載されているので、そちらを参考にしてください。

なお、この物価情報は チェンマイNo.670 今野、ペナンNo.1012 木村、セブNo.636 鶴岡、バギオNo.227 斎木の各氏のご協力により作成しました。

[注] いずれも円表示です。

国名	タイ	マレーシア	フィリピン		単位
都市名	チェンマイ	ペナン	セブS	バギオB	
為替レート	3.3円/TB	32.4円/MR	2.33円/FP		H18/12のレート
トイレットペーパー	182円	207円	B198円	S214円	8ロール入り
キャベツ	106	97	S65/kg		1個
キュウリ日本種	73	81	B94		3本
ジャガイモ	182	130	B46	S130	1kg
ブラックタイガー	667	2200	S885		1kg
牛肉サーロイン	743	2270	B605	S1048	1kg
スライスハム	165	103	B176		100g
チキン	264	263	B350	S256/kg	1羽
卵	83	70	B58	S65	6個入り
豆腐	63	32	S116		1パック
現地産缶ビール	64	161	B57	S57	1本
現地ジャポニカ米	759	880	B770	S1100	5kg
ミネラルウォーター	175	42	B73	S60	1.5リットル
マルボー口	198	240	B75	S65	1箱
牛乳	116	145	B144	S154	1パック(1L)
キッコーマン醤油	512	476	B402	S354	1リットル
日本産ソース	521	453	B409	S515	500ml
和がらし	264	243	S183		1本
わさび	224	142	B151	S163	1本

[注] H19/6/14の為替レートは ・タイバーツ 3.84円/バーツ ・マレーシアリングット 35.4円/リングット ・フィリピンペソ 2.79円/ペソです。円安が進むと現地通貨での買い物の円換算での単価が高くなります。上記の物品の値段を現在のレートで計算しなおしてみると、円安がいかに海外での消費生活に影響を与えるかがわかります。

(例) マルボー口 198円 ÷ 3.3 = 60バーツ 現在は60 × 3.84 = 230円

## マレーシア・マイセカンドホーム・プログラム の改定と最新情報

ペナン支部 No495 石原 彰太郎

こんばんは！ ペナンの石原です。今日はマレーシアのセカンド・ホーム・プログラムの最新情報に付いて連絡致します。

2007年5月8日にマレーシア観光省からセカンド・ホームのビザに関して、幾つかの重要な変更点が発表されましたのが、纏めますと以下のようになります。

1) 2006年年頭より認められていた申請者本人による申請が2007年6月1日より出来なくなります。全て観光省のセカンド・ホーム・プログラムのライセンスを取得した会社を経由した申請のみが受理されます。ライセンスを取得した会社は会社名にMM2Hと言う表記が入り、2007年4月時点で156社が登録されています。ライセンス会社のリストは観光省ホームページ：[www.mm2h.motour.gov.my](http://www.mm2h.motour.gov.my)のマレーシア・マイ・セカンド・ホーム・プログラムの中に掲載されています。

2) 50歳以上の申請者に関しては、マレーシア国内の銀行にRM150,000以上の定期預金をするかまたは毎月の収入証明でRM10,000(約35万円)以上を証明する事になっていますが、収入証明には政府の認めた収入(年金)のみが該当する事になり、企業の給与証明、家賃収入等は一切該当しない事になりました。年金だけで35万円をクリアしなくてはならない事になり、収入証明での取得がかなり難しくなった事になります。この条件は今年の初頭より適用されています。

3) セカンド・ホームの申請用紙は今まで移民局のものを使用していましたが、これからは観光省の定めた書式を使用する事になりました。

マレーシア観光省は、2006年までにMM2H(Silver-hair Visaを含めて)を取得したケースは全世界合計で9551ケースで、これを5年以内に100,000ケースに増やすと述べています。今後数年は、特に英国、日本、韓国を優先市場と考え積極的なプロモーションを行うと発表しています。最近、日本の各地でMM2Hのセミナーが開催されていますが、その背景にはこの様な理由があります。

以下に興味深い統計を紹介致します。2002~2006年の国別のMM2Hの取得者数で、何と第一位が中国で第二位はバングラデッシュです。これらの国にも富裕層がありこのプログラムに注目している事が判ります。日本は434ケース(夫婦単位の申請が多い事を考えると人数ベースで700名程度と推定されます)で第六位にランクされています。

### MM2H プログラム国別累計(2002 ~ 2006年)

順位・国名・取得者数	1位中国	1974	2位バングラデッシュ	1429	3位英国	885
	4位台湾	522	5位シンガポール	486	6位日本	434
	7位インドネシア	427	8位インド	417	9位パキスタン	286
	10位香港	247	11位その他	1616	合計	8723

ところが2007年に入り1月~4月の集計では、以下の表の通りかなり違った結果が出ています。マレーシア政府のプロモーションが功を奏してか、英国が第一で70ケースで何と日本は64ケースで第二にランクされています。日本でMM2Hがかなり一般にも知られる様になって来たとも言えます。団塊世代第一陣の退職も2007年より始まり今後は日本からMM2Hの申請者がかなり大幅に増えるものと予想されます。

### MM2Hプログラム国別累計(2007年1~4月)

1位	英国	70	2位	日本	64	3位	バングラデッシュ	61	4位	韓国	55	5位	中国	27
----	----	----	----	----	----	----	----------	----	----	----	----	----	----	----



## 投稿写真コーナー

サロン会、旅行会、趣味の会など南の会では多くの会合、活動が行われています。本コーナーでは、このような会合・活動の写真をまとめて載せます。裏表紙の写真と合わせてご覧ください。また、皆様から写真をお寄せ頂くようにお願いします。（編集）



関西支部総会 & 定例会（7/7 大阪）



関西支部総会 & 定例会（7/7 大阪）



そば打ち会（6/24 チェンマイ）



そば打ち会（6/24 チェンマイ）



海南島視察旅行（5/12 中国広州 中山記念堂）



パソコン教室（5/23 東京 市ヶ谷）

# 支 部 便 り

## ハワイ情報 続編

ハワイ支部長 No699 大黒均

### 1. コミュニティーセンターの活用

コミュニティーセンターは生涯学習の場として利用されており、英会話、他の外国語、フラダンス、社交ダンス、ウクレレ、空手など格安でさまざまな学習をすることができます。

### 2. JCBカードについて

ワイキキのJCBプラザへ行けば、日本経済新聞、朝日新聞、スポーツ新聞、日本の雑誌などを無料で読むことができます。コーヒーや日本茶などの飲み物も無料です。さらにオアフ島内の通話が無料でできる電話が1台設置されています。JCBカードを持っていれば、カードを提示するだけでJCB専用とピンクラインのトロリーバスに無料で乗車できます。

### 3. インターネット

Duty Free Shop ( Galleria ) の二階にあるHISのカウンター、携帯電話の代理店WCLハワイDFSギャラリー、トロリーバス乗り場の向かいにあるビルの3階、また、ダウントウンにあるハワイ州立図書館内等には無料で利用できるインターネットがあります。

### 4. 無料の日本語の情報誌・新聞を活用してハワイ生活をエンジョイしよう

日刊サン(日本語新聞)、ハワイアイ(観光ガイド)、アロハストリート、カウカウ(得得クーポン)、ハワイ便利帖、イエローページジャパン(ハワイ版)等、ハワイでの生活を楽しむための有力な情報が簡単に入手できます。

### 5. スーパーマーケット

ロングステイヤーにお勧めのスーパーマーケットは、フードパントリー(ワイキキ)。フードランド、ロングスドラッグス、白木屋、マルカイなどでは日本食材も手に入ります。

### 6. Theバス

便利なバスを活用して楽しみましょう。障害

者とシニア(65歳以上)に、とても親切でやさしい「The Bus」。マンスリーパスが何と5ドル。冷房がやや効きすぎ。

TEL 848-5555

### 7. ハワイの宣伝

ハワイの気候は世界一です。一般的に南国は暑い(蒸し暑い)のがあたりまえ。でも、ハワイはアラスカから吹いてくる貿易風のため、空気も風も爽やかで心地よいです。

空気と水がきれい。障害者やお年寄りには福祉が行き届いており、住民のホスピタリティもすばらしい。寝たきり老人が少なく、健康で長生きできる楽園です。Keep Smiling.

### 8. 朝市

毎週火曜日と木曜日の午前中、ワイキキコミュニティーセンターの広場で朝市が開かれます。近隣にはロングステイヤーむけのコンドがたくさんあるのでいつもにぎわっています。値段も安く新鮮なものが多いので人気があります。

### 9. 銀行口座

日本語が話せるスタッフがいる銀行は、Bank of Hawaii、Central Pacific Bank ワイキキ支店。為替差損を防ぎ、ドルカードと円カードをうまく使う方法。限りなくゼロ金利に近い日本円は、世界の主要通貨の中では一番使い勝手の悪い通貨です。退職金と年金を有効に活用するためにも、ハワイでの銀行口座開設をお勧めします。

### 10. フィットネスクラブ

Central Pacific Beach Hotelの二階に24時間、年中無休のフィットネスクラブがあります。ワイキキビーチを眺望しながら汗をかき身体を鍛えるのもリッチな気分になりますよね。会費は50\$/M ぐらい。滞在期間中月単位で支払い、帰国するときは休会にしておけば、追加費用はとられません。(日本では休会制度が無く、退会扱いになるところが多いそうです)



## 関東支部

関東支部長 No.327 市東 明義

6月10日の関東支部サロン会で台湾ロングステイ協会顧問 花岡幸盛氏が「台湾 LSの

現状」について紹介されました。さらに詳しい情報をまとめて紹介します。

台湾ロングステイ協会ホームページもご参照ください。

<http://www.tlsa.jp/miryoku/index.html>



台湾政府 頼観光局長

## 《台湾ロングステイ》

### 受け入れ体制着々と整う



日本に一番近く沖縄県の先。ハワイと同じ緯度の台湾政府を挙げて歓迎しています。世界中で日本人に最も親日的な台湾。ストレスを感じさせない漢字の国。日本語を話す人が多く、周囲の海とともに豊かな自然環境、四季があり、主食がお米で美味しい食文化をもつ台湾。東京から約3時間の至近距離、時差1時間

### 全台湾各地で日本人ロングステイの取り組み開始

2006年11月3日政府指導の協会として台湾長宿休閒發展協會、同協會日本事務所を設立しました。目的は日本人の定年退職者の専用窓口となり、快適、安全、楽しく暮らせることを使命に、日本人の人々へ魅力ある受け入れ体制を確立するため設立されました。

2007年度指定5地域では 南投縣、台南縣、高雄県、台東縣、花蓮縣の各縣長(知事)から、そして桃園県からも候補地の希望が出始め、近く全台湾への広がりが予測されます。

### 官・学・民が連携し、日本人ロングステイヤーを歓待

大学の役割も大きく、ロングステイに関し、全台湾の大学組織が台湾長宿休閒發展協會に協力致します。

各大学では各種講座を設けています。日本語・英語・中国語そして日本文化など積極的交流を目指します。特に日本語のアシスタント講師は大歓迎です。地元住民、在留日本人會などボランティア活動が目立ち、積極的に受け入れを準備中です。

### 《台湾ロングステイ・ビザ》詳しくは駐横濱辦事處へ

### 台湾ロングステイ受入準備OK 6県

180日間有効マルチビザ

日本人の定年退職者とその配偶者を対象に180日間有効(延長認めず)数次査証(マルチビザ)発行を開始しました。

対象者の資格と条件、マルチビザ発行となる書類。

- 55歳以上の定年退職者で日本国籍を持つ人。
- 旅券(パスポート)。但し申請時、残存有効期限9ヵ月以上。
- 数次査証申請書一部。カラー写真(4cm×5cm)二枚。
- 日本の警察機構が発行した無犯罪証明書が必要
- 5万USDルの財力を証明する書類(銀行残高証明)。
- 半年以上の海外旅行保険に加入していること。
- 随行する配偶者については年齢制限を設けず、上記のと の規定に合致、同様のビザ発給(添付書類:婚姻登録が記載された日本の戸籍謄本)
- 査証手数料:8,800円 即日発行を希望する場合は査証料特別扱い。手数料50%増し13,200円納付。

ロングステイ下見用、60日間有効マルチビザ

- 旅券、写真、年金受給証明、
- 半年以上の海外旅行保険の加入証明を添えて申請。
- 査証手数料は180日間有効マルチビザと同じ。

ビザ申請についての問合せ先

台北駐日經濟文化代表處 査証部

東京 TEL03-7800 FAX03-3280-7923

横浜 TEL045-641-7736 FAX045-641-6870

大阪 TEL06-6443-8484 FAX06-6443-8577

福岡 TEL092-734-2810 FAX092-734-2819

那覇 TEL098-862-7008 FAX098-861-7016

E-mail: [vipass@www.roc-taiwan.or.jp](mailto:vipass@www.roc-taiwan.or.jp)

<http://www.roc-taiwan.org.jp>



## テレビ朝日放送「ぽかぽか地球家族」で台湾が放送されました

6月16日、テレビ朝日「ぽかぽか地球家族」で放送  
 現地でボランティアで活躍する香本夫妻のロングステイを紹介。  
 台湾下見ツアーの参観状況の紹介。  
 そして熱心に「台湾ロングステイ」について語るコメンテーターの  
 ジュディオングさん。  
 「台湾ロングステイ」体験モニター下見旅行9月より開催  
 放送で興味を持たれた、人々が多く参集盛況です。



ジュディオングさんと台湾LS協会 花岡・坂田さん

## 《台湾ロングステイ体験モニター 8日間》

体験モニター下見(台湾桃園空港集合、高雄空港解散)

モニタ参加費用、お一人様 5万円

出発日: 9月9日、9月30日、10月14日、10月28日、  
 11月11日、12月9日、12月23日 合計7回開催

参加費用 5万円に含まれるもの  
 台湾滞在中の宿泊料1室2名様利用  
 朝食代金 (昼、夕食はありません)  
 現地移動費・通訳費用・台湾国内保険  
 別にかかる費用  
 日本-台湾-日本 往復航空運賃、空港税等  
 朝食以外の食事代  
 海外旅行傷害保険(必ず加入ください)  
 一人部屋使用の場合追加料金

## 《関東支部・6月度サロン会》

を花状台写  
 し希岡を湾真  
 て望さを説ロ右  
 くのん明ン  
 だ支するグ  
 さ部すス  
 いは担テ  
 こ相当イ  
 談者の現



## 台湾ロングステイ体験モニター

日程	内容	宿泊地
第1日 (日)	台湾桃園国際空港到着 空港内集合 (林口)長庚養生文化村チェックイン	長庚養生文化村
第2日 (月)	長庚養生文化村宿泊環境視察 生活機能視察	長庚養生文化村
第3日 (火)	午前:林口から南投縣埔里鎮へ 午後:埔里元寶大樓の宿泊環境視察	鎮寶飯店
第4日 (水)	魚池三育健康教育センター下見 南投市中興新村下見、生活機能紹介 (ゴルフ場・交通・医療・文化など)視察	鎮寶飯店
第5日 (木)	午前:南投縣埔里鎮から台南市へ 南賓豪華商務公寓宿泊施設紹介。 台南市生活環境・民間施設下見。	南賓豪華商務公寓
第6日 (金)	午前:台南市から高雄旗山鎮へ 午後:旗山市内生活環境下見 病院・スーパー・大衛營山莊施設紹介。	大衛營山莊
第7日 (土)	自由行動:大衛營山莊ゴルフ体験、 散策。美濃地域下見。	高雄茂林 休閒飯店
第8日 (日)	午前:高雄国際空港へ見送り 高雄空港から桃園国際空港經由日本へ帰国。	

桃園空港集合/高雄空港解散旅程の各自航空券手配  
 同一料金:10日限定航空券(10泊11日目帰国)延泊可  
 延泊対応可能です。(延泊の場合事前に申し入れる)  
 下見モニタ費用一部を台湾長宿休閒發展協會が負担



を桃園真  
 受園林左  
 け林口  
 る施設  
 視察の  
 参加説  
 者明

てでブ写  
 見体り真  
 ま驗リ右  
 した生の  
 生活ア  
 したバ  
 炊パー  
 もト



6間新今写  
 59幹年真  
 才0線開左  
 以分高通  
 上半雄の  
 額 台北



問い合わせ・申し込み先:  
**台湾長宿休閒發展協會日本事務所**  
 東京都新宿区西新宿7-5-5 プラザ西新宿603  
 TEL:03-6412-9509 FAX:03-6412-9512  
 E-mail:info@tlsa.jp URL:http://www.tlsa.jp



## ペナン支部

ペナン支部長 No.1012 木村 まゆみ

### 19年度ペナン支部組織 2007年4月現在

支部長 1012 木村 まゆみ

支部長補佐 495 石原 彰太郎 12 大橋 績

661 小野 雅敏 524 川崎 勇 18 木村 義光

519 常楽 衛 (アイウエオ順)

ペナン支部員 22 組 (家族会員含め 40 名)

### 活動予定とかの支部情報

ペナン支部ゴルフコンペ

世話役：川崎 勇 小野 雅敏 木村 義光

木村 まゆみ

連絡先： y-kimura@eps4.comlink.ne.jp

開催予定日： 人が集まったら

ペナン支部サロン会

世話役：大橋 績 木村 義光 石原 彰太郎

常楽 衛 川崎 勇 小野 雅敏 木村 まゆみ

連絡先： y-kimura@eps4.comlink.ne.jp

開催予定日： 3 ~ 4ヶ月に一度

## 九州支部

九州支部長 No.851 稲田 聰

### 1. 熊本で情報交換会

4/6 (金) 従来福岡でのみで開催してきました情報交換会を初めて熊本でやってみました。熊本の会員はもちろん宮崎からの参加も得られ所期の目的を達成しました。来年も続けたいと考えています。

情報交換会では、元ラオス駐在大使でピエンチャンにお住まいの坂井弘臣氏のお話を聞き大変参考になりました。

### 2. 支部連絡総会

7/8 (日) 情報交換会を含め行います。結果は次号で報告します。

### 3. ステイ中の会員

少ない会員数 (41名) に関わらず現在9名がステイ中で様変わりの様子です。

### 4. 支部企画KK (コタキナバル) 下見ツアー

9/27 ~ 10/7 で計画中です。情報提供などご協力をお願いいたします。

## 九州支部連絡総会報告

梅雨空の中、19年度の支部連絡総会、情報交換会及び懇親会を次のとおり開催しました。

1. 7月8日 (日) 13:00 ~ 17:00

2. 場所 福岡県ボランティアNPO交流センター

3. 議事等

(1) 本部総会報告

(2) 支部長会報告

(3) 支部連絡総会

18年度事業、同決算、19年度事業計画、同予算問題なく議決されました。今年度の事業では、11月、1月、(次年度の4月)に情報交換会を計画、4月は今年同様熊本で開催。サロン会は随時及び9月初めにKK関係者で9/27 ~ 10/5 でKK下見ツアーを計画

4. 情報交換会

(1) 最新ダバオ事情 白井征勝

(2) 特別講演マレーシア事情

Dr.Manuel Law

(3) 最新ハワイ事情 穴見洋子

(4) KKツアーについて 稲田聰

Dr.Lawの話は非常に興味深く我々海外ステイヤーにとって示唆に富むもので極めて有益でした。

5. 懇親会 場所を移し28名の参加で2時間半があっという間に過ぎました。

「minaminokai.com」の支部便りを見てきましたという2組の飛び入りのほか、オブザーバー参加も2組。皆さん入会したいとのご希望でした。

総勢36名になり、広い会場を確保した甲斐がありました。今後は人数、所要時間を考慮して「市」「県」のNPOセンターを使い分けていきたいと思えます。

以上盛会だったことを報告いたします。

九州支部長 851 稲田聰

(南国MLより転載)

## ご寄付有り難うございます。

海南島視察旅行の皆様から5,000円をご寄付頂きました。有り難うございます。

## 関西支部総会 & 定例会開催報告

- 1 日時 7月7日午後1時15分から5時50分
- 2 場所 大阪市東淀川区東中島1-13-13  
「青少年文化創造ステーション」
- 3 参加者 会員23名 委任状 28名、  
来賓 宮寄理事長、お客様 6名
- 4 総会議案  
平成18年度決算報告  
同監査報告  
平成18年度事業報告  
平成19年度役員人事報告(4月1日付け)  
850奥田保子氏 1113木村誠治氏  
1023山下克正氏 632河南裕子氏  
(5月13日付) 318小林高明氏  
平成19年度事業計画案  
平成19年度予算案  
平成19年度役員業務分担

上記について、それぞれ担当役員から報告がおこなわれ拍手による全員一致の賛成で、全議案が承認議決されました。

- 5 例会 & 情報交換会報告  
「私のお勧めロングステイ先」  
... 宮寄 哲郎理事長  
「女1人ロングステイ-石垣島編」  
... 497芝辻和子さん  
「中国清蔵鉄道の旅」  
... 957谷澤誠一さん  
「タイ国の旅情報-ドライブ事情」  
... 558伊澤豊さん  
自己紹介~趣味、行って見たい所、海外へのお勧め携行品等

- 6 懇親会 午後6時10分~、参加者23名  
「トン兵衛 新大阪駅店」-新大阪駅1階  
今回は、松本執行部による初めての総会でしたが、各議案はそれぞれ原案どおり承認議決され執行部としてはやれやれといったところです。

また宮寄理事長に参加していただき、総会に威信と重厚さを添えていただきました。役員との昼食会、夜の懇親会にも参加いただき、親しく接する機会を与えていただいて大変有意義でした。宮寄理事長本当にありがとうございます。お客様で招待した6名中4名(塩谷夫妻、松尾夫妻)の方から早速入会の申し出がありました。これも会の雰囲気よかったからと思います。役員も5名の増員が承認され、充実した体制で会員サービスに努めていきますので今後ともよろしく願いいたします。

関西支部 総務担当 753大西 清  
(南国MLより転載)

## 甲信越支部総会報告

- 日時 7月8日午後3時30分~午後10時30分  
場所 石和温泉 ホテル 石風  
参加者 本部より理事3名(敬称略)  
高田 勝弘 鈴木 剛 大野 悦子  
甲信越支部会員 家族会員を含めて9名  
甲信越支部は地理的な関係から、発足以来年1回宿泊で支部総会を開催してきました。今年度は、山梨県の石和温泉を会場にしたところ、予想通り参加者が少なく、新潟県から1世帯2名、長野県から2世帯3名、山梨県から3世帯4名の計9名参加、3名の理事を含めて12名という、こじんまりした総会となりました。自己紹介の後、情報交換会。入浴後に大宴会。そして部屋へ戻って宴会、情報交換会の延長。初めての顔合わせの会員もすぐに打ち解けて和気藹々、まさに南国暮らしの会の持ち味である楽しい雰囲気で大いに盛り上がりました。

情報交換会では・チェンマイLSへの関心が大きく、ペナン、セブ、ハワイ等も話題に上りました。・為替と現地の物価、クレジットカードの活用、マイレージ 現地での余暇活用、交通の便、食事、医療、etcが話題に上りました。

2日目9日には、県内観光スポットめぐりと親睦ゴルフグループとに分かれて、参加者全員大いに満足して家路につきました。

## 友好団体紹介コーナー

### 財団法人ロングステイ財団

ホームページ <http://www.longstay.or.jp/>

E-mail: [info@longstay.or.jp](mailto:info@longstay.or.jp)

### チェンマイロングステイライフの会 (CLLクラブ)

ホームページ <http://c11.thai.jp.net/>

### ワールドステイクラブ(WSC)

ホームページ:

<http://homepage3.nifty.com/worldstayclub/>

E-mail: [worldstay@nifty.com](mailto:worldstay@nifty.com)

### THE JAPAN CLUB OF KUALA LUMPURKL

### (クアラルンプール)日本人会

ホームページ <http://www.jckl.org.my/>

### バンコク日本人会

### バギオ日本人会

### 西豪州日本クラブ

# 部 会 伝 言 板

## 総 務 部 会

担当理事 No.259 菊地 功

- \* 会報春季号発行以降の総務部門の主な活動
  - 05/05 南国暮らしの会第6回理事会
  - 05/08 19年度総会関連打合せ
  - 05/18 19年度総会関連打合せ
  - 05/19 19年度総会
  - 05/19 19年度国内支部長会
  - 05/23 総務関連打合せ
  - 05/29 企画委員会
  - 05/29 裁判関連打合せ
  - 05/31 総会結果等の都届出・登記・都税事務所届出
  - 07/01 南国暮らしの会第1回理事会
  - 07/02 裁判関連打合せ
- \* 裁判及び調停の実施状況
  - 04/09 東京地方裁判所にて第5回裁判
  - 04/19 越谷簡易裁判所にて第3回調停
  - 05/17 越谷簡易裁判所にて第4回調停
  - 05/28 東京地方裁判所にて第6回裁判
- \* 裁判について：5/28 原告側から提出された書類に対する反証を準備し、7/26の第7回裁判に臨む予定。
- \* 調停について：5/17の調停において、調停の申告人自身が、調停を取り下げた。

## 会 員 部 会

担当理事 No.462 小林 孝

19年度会員名簿を同封いたしました。

6月30日現在の会員は

- \* 北海道支部・42名 \* 東北支部 14名
  - \* 関東支部・319名 \* 甲信越支部・24名
  - \* 東海支部・92名 \* 関西支部・93名
  - \* 九州支部・42名 \* 海外支部・15名
- 合計 641名

名簿の貸出しや、会員に迷惑をかける行為は絶対禁止です。本会員名簿は十分注意して転記しておりますが、誤り、脱漏がありましたら下

記までご連絡ください。

メール：home@minaminokai.com、または  
info@minaminokai.com

FAX： 047 - 445 - 1842

郵送： 〒273-0117

千葉県鎌ヶ谷市西道野辺1-4-103 小林 孝  
間違いを防ぐため電話での受付はしておりませ  
ん。

## 広 報 部 会

担当理事 No.732 馬場 章介

19年度より前任者の平賀さんから引き継ぎ  
まして広報部会の担当になりました馬場と申し  
ます。経験のない仕事ですが皆様のご指導、  
ご協力を頂きまして役割を果たしていきたいと思  
います。

外部の一般の人々に対する会の活動紹介だけ  
ではなく会員の方々にも役立ち楽しんでもらえ  
る情報提供ができるよう取り組んでいきたいと  
考えております。そのためには全国の会員の皆  
様にもご協力をお願いする場面が多くなるかと  
思いますがその節にはご協力のほどを宜しくお  
願い致します。

## 経 理 部 会

担当理事 No.60 渡辺 義郎

4月から6月までの会計の状況です。

収入：3,588,138円（予算に対し68.7%）

支出：1,424,143円（予算に対し27.5%）

予算に対しほぼ順調な推移の状況です。

（お願い）事務の効率向上にご協力ください。

- ・必ず会員番号を記入してください。
- ・振り込み用紙には氏名、住所など楷書で記  
入してください。（達筆すぎて読み取れな  
い場合があります）

ちなみに4月以降の会員からの振込で会員番  
号未記入の件数は23件中8件で、1/3の方  
が未記入でした。

## 会報部会

担当理事 No.281 村松 幸子

1. 新しい試みで07年新年号より各支部発ということで、新年号は九州支部、春季号は北海道支部、今回の夏季号は関西・甲信越支部にお願いしてまいりました。

新しい執筆者を得てイキイキとして、楽しい会報になった様に思います。海外だけでなく日本の中にも、我々の「南国」が有るような感じがしました。

今後とも、会員各位の地方自慢や、趣味、LS情報、旅等々お寄せ頂き、楽しい紙面が作れますようご協力宜しくお願い致します。

2. 次回秋季号の発行は10月を予定しております。原稿締め切りは9月末です。

秋季号の担当は No.900 島林 健二氏です。会員の皆様からの沢山の投稿を期待しております。秋季号原稿のメールあて先は下記の島林氏宛にお願い致します。

kkshima\_san@ybb.ne.jp

3. 会報をカラーで見てくださいませんか？

会報の電子ファイル(pdfファイル)を希望者へメールでお送りしています。ご希望の方は1.氏名、2.会員番号、3.送付先e-mailアドレスを明記して下記までお申し込み下さい。

No.60 渡辺義郎 yosi.watanabe@nifty.com

4. 会報発送作業協力の御礼

発送に関し下記の皆様の協力を頂きました。御礼申し上げます。

前回春季号会報発送作業協力者 (敬称略)

434 大野 悦子、462 小林 孝、660 平方 穰、  
670 今野 力男、999 中山 和代 1087 荒井  
ミチ子 会報部会員4名

海外会員宛持参協力者 (敬称略)

6 石川 緩夫、558 伊澤 豊、1106 中牟田 登

## 編集後記

昨年の夏季号に引き続いて19年度夏季号を担当しました。正直なところ、締め切り期日の二週間ほど前ごろから集中的に原稿が集まってくるから、それまでは、ちょっとした不安な気分になります。まして、今夏季号では、支部活動が停滞気味であった「関西支部」と「甲信越支部」が原稿集めの任にあたりましたから、甲信越支部長を兼任していることもあって、昨年以上にヤキモキした気分になりました。正直なところ、文章をお寄せいただいたのは、こちらからお願いした人が8割がたで、自発的に投稿してくれる「ありがたい会員」はきわめて少数であるというのが現実です。

前年度から始まった「お役立ち情報シリーズ」の内容は、そのほとんどを海外支部長さんから提供していただいた情報です。各海外支部では、訪問する会員が年々増加して、現地での支部運営で多忙を極めているにもかかわらず、会報への情報提供にもその都度ご協力いただいていることを報告しておきます。

なお、秋季号は支部特集4回目が東海支部に回ってきます。横井理事、高橋支部長を中心に、いち早く海外LS適地の訪問旅行を企画したり、年に何回もサロン会を開いたり、非常にエネルギーギッシュな活動展開している東海支部です。ぜひ、まとまりのよさを発揮して、支部会員総参加の意気込みで会報作成に当たっていただきたいと思います。

No.465 橋本 慧

### 写真ご提供有り難うございます

表紙：本号のテーマは「海」です。

左上から時計回りに

No.163 宮崎 哲郎さん 「セブ島」2枚

No.1084 内倉 恒治さん 「スリランカ」

・ネガンボの帆掛け舟漁

・ウエリガマのヒトルスフィッシング

中央はNo.1042 小屋 秀俊さん

・カクレクマノミ

裏表紙：

1. 支部長会 (5月19日、東京 大崎)

2. 関西支部四国巡回例会 (5月13日、高知)

3. 甲信越支部総会 (7月8日、石和温泉)



「南国暮らしの会」からのお勧め

**\* 自己責任 \* 納得の上 \* 自己決定**

南国で不動産等の買い物をするときは、すぐ買わず、情報を幅広く集めて、自分の目で確かめて、しばらく試してみて納得してから、自分の責任において自己決定する。

**最近、フィリピンにおいて信頼性の低いと思われる不動産売買の勧誘があります。ご注意ください。詳細についてはセブ支部長へお問い合わせください。(13ページ参照)**

南国暮らしの会ホームページに最新の情報が 있습니다。ご覧になって下さい。

<http://www.minaminokai.com/>

会員相互の情報交換には、南国ML(メーリングリスト)が便利です。

会員の方で新しく参加希望の方は下記へ参加申込を。

メールアドレス: home @ minaminokai.com

(メールには会員番号、氏名、ご自分のメールアドレスおよびウイルス防止のためご利用のウイルス防止ソフト名あるいはプロバイダのウイルスチェック契約の有無を明記して下さい)

**[ 編集委員 ] - 順不同 -**

No.281	村松 幸子	skajimura@mtf.biglobe.ne.jp
No.465	橋本 慧	hashi176@ybb.ne.jp
No. 60	渡辺 義郎	yosi.watanabe@nifty.com
No.732	馬場 章介	shosuke7@nifty.com
No.900	島林 健二	kkshima_san@ybb.ne.jp

**記事の無断転載・複製を禁じます。**

発行者 特定非営利活動法人(NPO法人)

「南国暮らしの会」

©minaminokai

理事長 宮崎 哲郎

〒140-0002 東京都品川区東品川3-22-20-1208

TEL 03-3472-9916 FAX 03-3472-9954

<http://www.minaminokai.com/>



投稿写真コ一ナ一



支部長会 (2007年5月 大崎)



関西支部四国巡回例会 (2007年5月 高知)



甲信越支部総会 (2007年7月 石和)